

冒険ゲームブック

ファンタジー・スター

アリサの冒険

大出光貴 著

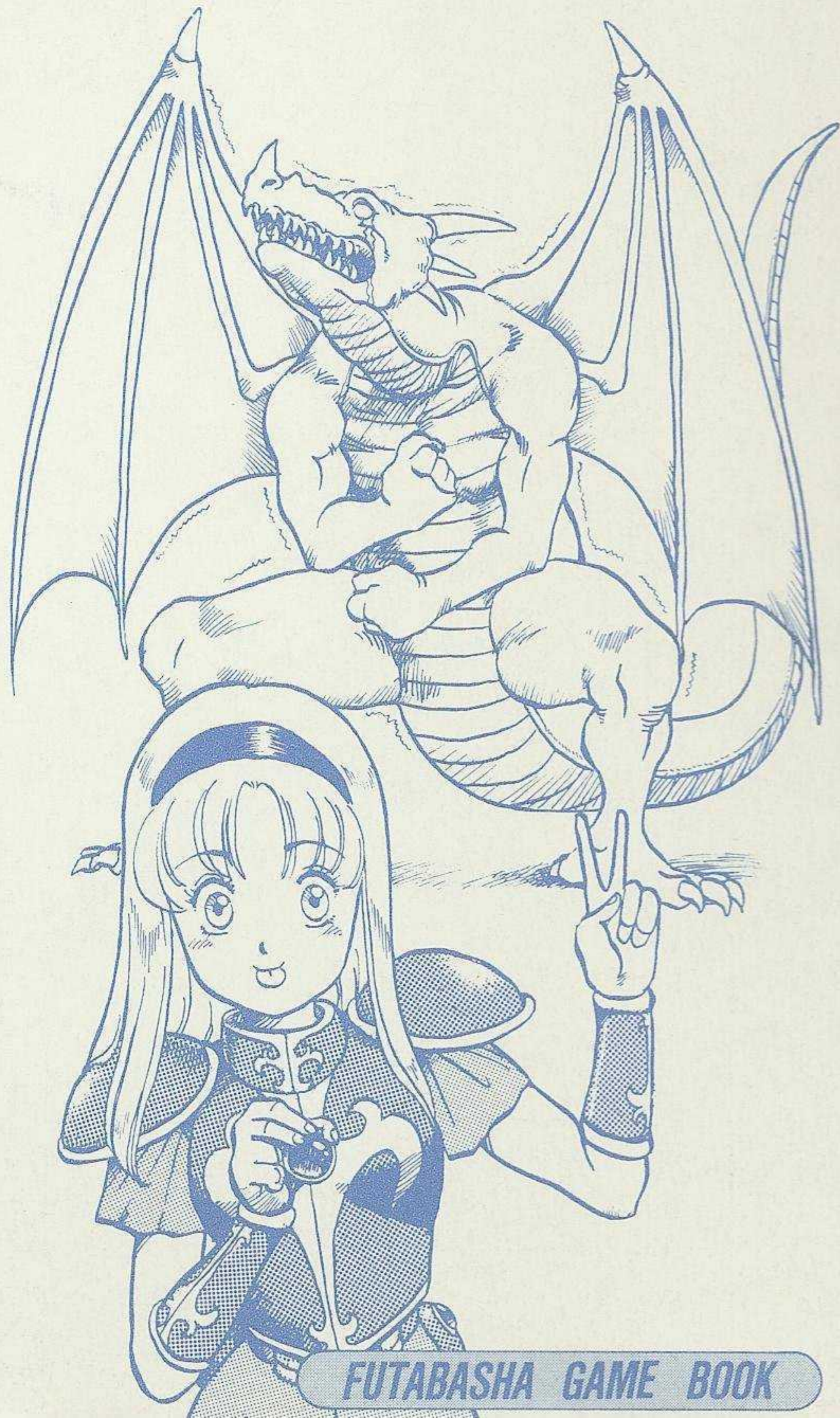


双葉文庫 ゲームブックシリーズ

ファンタシースター

アリサの冒険

大出光貴 著



FUTABASHA GAME BOOK

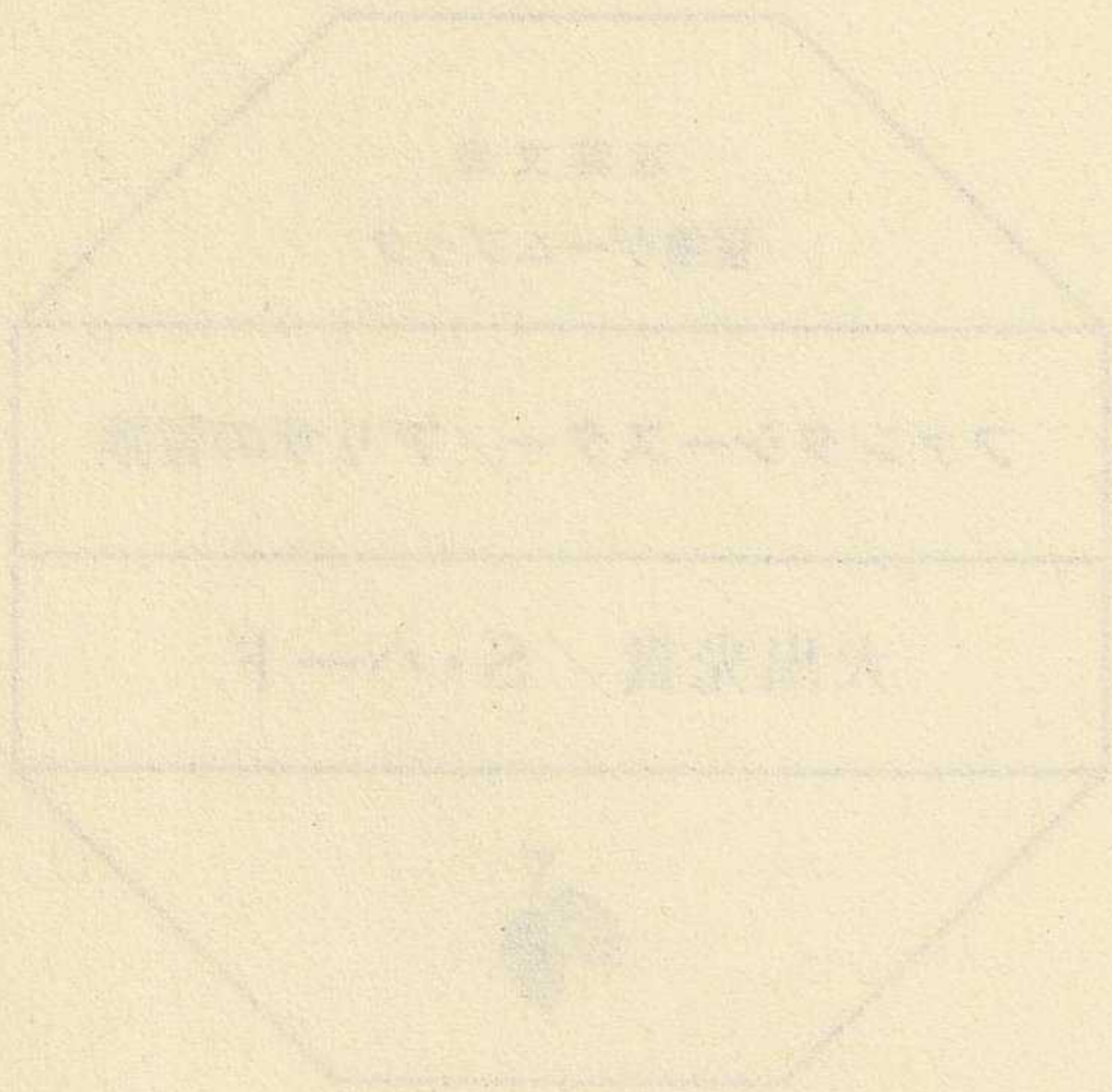
双葉文庫
冒険ゲームブック

ファンタシースター／アリサの冒険

大出光貴／S・ハード



双葉社



PHANTASY STAR/ALISA's Adventure
by Studio Hard Co., Ltd. and
Mitsutaka Ode

Copyright © 1989 Studio Hard Co., Ltd.

Illustrations by Kunio Aoki

Character and Licenser

© SEGA Enterprises

First Published by Futaba-sha Books Co., Ltd.
3-28 Higashi-Gokencho, Shinjuku, Tokyo, Japan

ファンタシースター／アリサの冒険

CONTENTS

プロローグ.....	4
この本の遊び方.....	9
登場人物.....	13
ファンタシースターの世界.....	16
ゲーム.....	20
エピローグ.....	278
行動記録紙.....	282
あとがき.....	284

プロローグ

「どうしたの、兄さん!？」

少女の叫び声が、人垣をふたつにわけた。その間から現われたのは、うつ伏せに倒れている青年の姿だった。彼の顔や手は血まみれだ。

青年のまわりには、装甲に覆われた武装警察官——アーマー・ポリスが何人か立っていた。そいつらの銀色のボディには、返り血がべつとりとついていて、青年を痛めつけたのは、間違いなくこのアーマー・ポリスたちのものであった。

「ラシーク様のことをこそそそと嗅ぎまわりやがって! これ以上痛い目にあいたくなかったら、これからは、せいぜいおとなしくしていることだな」

アーマー・ポリスはボロボロのようになった青年を見おろし、あざ笑った。そして、ヤジ馬を蹴ちらすように、その場を立ち去っていく。

冷たいコンクリートの上には、瀕死の青年と少女だけがとり残された。

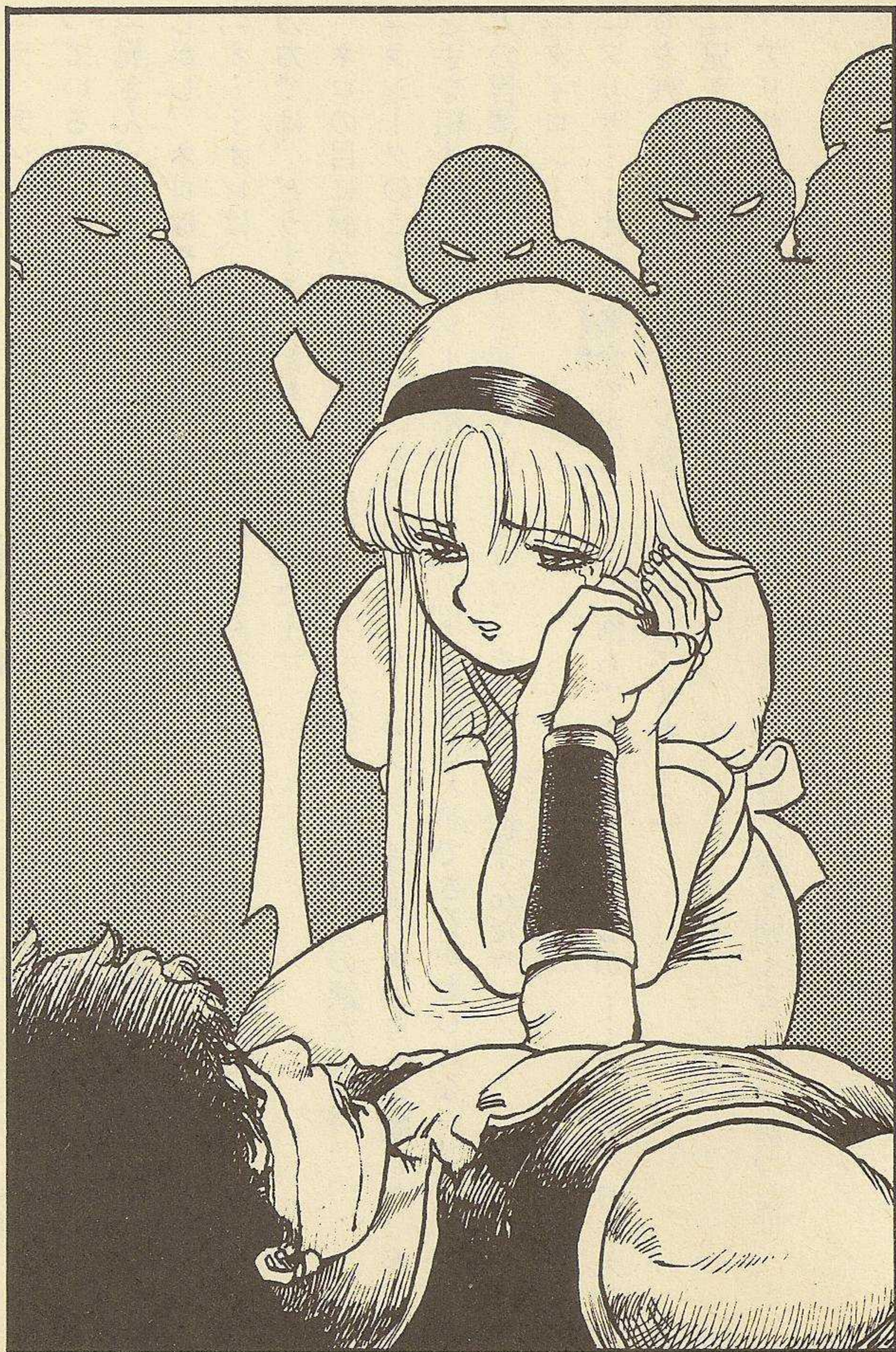
「ア……アリスか……」

青年の口が弱々しく動いた。

「ネロ兄さん、何があったの!？」

アリスと呼ばれた少女は、血まみれの兄の手を握りしめた。

プロローグ



「ラ、ラシークは、この星に大きな災いを招いてしまった。……世界は今……破滅に向かっている」

「兄さん、あまりしゃべらないで」アリサは、苦しそうな兄を心配して黙らせようとした。しかし、ネロはやめようとしなない。

「オ……オレは、ラシークが何をたくらんでいるか探っていたんだ。だが……オレひとりの力では、どうすることもできなかつた！」

ネロの目に涙が浮かんだ。それは、アリサが初めて見る、兄の涙だった。

「ラシークのことを探っている途中で……タイロンという強い男のことを聞いた。か、彼と手を組めば……ラシークを倒し、この星を救うことができるかもしれない。タイロンは、人の言葉を話すネコを連れてくるそうさ。そ、それを探すんだ」

「タイロン……」

「アリサ……オレは残念でたまらない。何もできなかつたことが……そして、おまえひとりを残して死んでしまうことが……。許してくれ……」

「兄さん、兄さん!!」

アリサの声が悲鳴に変わった。しかし、ネロの目は二度と開くことはなかつた。

時は——AW342年。

プロローグ

アルゴル太陽系。その第1惑星パルマは、国王ラシークのもとに繁栄をきわめていた。近くの惑星を植民地として開拓し、その開発計画も順調に進んでいた。

またパルマ星の宇宙空港からは、第2惑星モタビア星行きの星間連絡船が絶え間なく行きかい、数年後には第3惑星デゾリス星にも宇宙空港ができることになっていた。

ところが、この年の春、不気味なウワサが流れはじめた。ラシークをはじめとする支配階級の貴族たちが邪教に取りつかれ、ラシークの永遠の命とひきかえに、このアルゴル太陽系を売りわたしてしまつたらしい。

そのウワサは、現実となつて現われた。各惑星のいたるところに奇怪な怪物が現われ、人々の暮らしを脅かしはじめたのである。——何か、とてつもないことが起ころうとしていた……。

アリスは、パルマ星の中心都市カミニート居住区で育ち、今年15歳になる少女だ。兄のネロは18歳。宇宙空港で、荷あげ作業員として働いている。ふたりは、両親を幼いころに亡くし、兄妹で肩を寄せあつて暮らしてきた。

ネロは、人一倍に正義感が強い青年だった。流れている不気味なウワサを聞きつけ、国王ラシークについて調べていたのだ。

だが——その彼はたった今、死んだ。

やがて、夕闇があたりを包みはじめた。街はひっそりと静まりかえっている。ラシーク

が戒厳令を敷いてからというものの、街は以前の活気を失ってしまった。

アリサは、もう一度兄の名をつぶやいた。彼女の目に涙の跡は残っていたものの、その瞳は強い力に満ちていた。

「アリサはあなたの意志を継ぎます。兄さんの命をムダにしないために、戦いにいきます。きつと見守っていてね、兄さん」

アリサは、ネロが腰につけていたショートソード（短剣）を胸に抱き、そう誓った。はたして、ラシークの秘密をあばき、倒すことができるのか？

アリサの長い旅が今始まった。

この本の遊び方

1 ゲームの進め方

兄を殺されてしまったアリサ。15歳の少女にとって、敵はあまりにも強大です。はたして、アリサはラシークを探し出し、敵を討つことができるでしょうか？

この本では、読者の皆さんのために、いろいろな結末が用意されています。そのうち、ハッピーエンドにたどりつける確率はごくわずか。大半の人は、怪物にやられたりして、使命を果たせないまま終わってしまうでしょう。

アリサの運命を左右する分かれ道が文章の最後にあります。その方法は単純なルート選択だったり、アイテムの有無による振り分けだったりときさまざまです。そのつど指示に従って、自分の進むべき道を選択して行ってください。

2 行動記録紙の使い方

ゲームを進めていくうち、アリサのポイントや冒険の条件は次々と変化していきます。そのつど、行動記録紙に書き換えて行ってください。

■バトルポイント（バトルP）

はじめにバトルポイントを決めます。このポイントは、ゲーム中に遭遇するさまざまな

敵との戦いに使います。また、うんだめ運試しに使用することもあります。

282 ページにあるふたつのバトルP表のA～Jらん欄にそれぞれ、0～9までの数字をいれます。続き数字でも、バラバラでもかまいません。ただし、ひとつの表の中で同じ数字を二度使わないでください。具体的ぐたいてきな使用法については戦闘方法せんとうほうほうの欄で説明せつめいします。

■アリサと仲間たちのポイント（各ポイントに上限じょうげんはありません）

●戦闘ポイント（戦闘P）

アリサたちの、戦闘能力せんとうのうりよくを表わします。初期値しよきちは0です。武器を入手した時や敵を倒した時などにプラスされ、傷きずを負おった時にマイナスされます。

●ヒットポイント（HP）

アリサたちの体力を表わします。初期値しよきちは10です。体力増強剤たいりよくぞうきようざい（ペロリーメイトやルオギニン）を飲んだり病院に行くとプラスされ、敵にやられるとマイナスされます。

●マジックポイント（マジックP）

アリサたちの魔法まほう（超能力ちやうのうりよく）の力を表わします。初期値しよきちは0です。敵を倒すとプラスされ（されない時もある）、魔法まほうを使うとマイナスされます。

※魔法を使うのに必要なポイントと、実際じつさいに消費しょうひされるポイントは違います。本文の指示しじに従したがってください。

この本の遊び方

● お金（メセタ）

アルゴル太陽系で使用されているお金の単位は、メセタといます。初期値は0です。たいていの敵は宝箱たからばこを持っており、それに勝つことによつて、お金を入手できます。

■ アイテムリスト

アリサは、旅の途中とちゆうで武器やその他のアイテムを手に入れるでしょう。お金で買えるもの、交換こうかんして手に入れるもの、戦つて手に入れるものなどいろいろです。入手したものは、みんなアイテムに記入してください。

■ A～Jのアルファベット・チェック

ゲーム中、「Aをチェック」など、A～Jのアルファベットをチェックするという指示しじがあります。そのときは、アルファベット・チェック欄らんのあてはまる記号しるしに印をつけてください。このチェックには、重要じゆうようなものが多いので、忘れずにやってください。

■ 病院について

旅の傷きずをいやすために、各都市に病院があります。（病院にて、傷の手当が可能かのう）と書いてある時のみ、行くことができます。行くか行かないかは、あなたの自由です。行く場合

には、本文中の指示に従ってください。また、10メセタ払うと、HPがプラス2される、と書いてある場合、20メセタ払ってHPをプラス4させることはできません。

3 バトルの方法

まず敵の強さを出します。敵キャラクターのポイントに、バトルP（戦いのつど指定があります）を足した数値がそれです。

次に、アリスの強さを出します。戦闘Pに、バトルPを足します。例をあげましょう。シャーンキン 5+バトルP（1のA）この場合、バトルポイント表の1のAを見てください。仮に3とすると、5+3=8となり、8がシャーンキンの強さです。

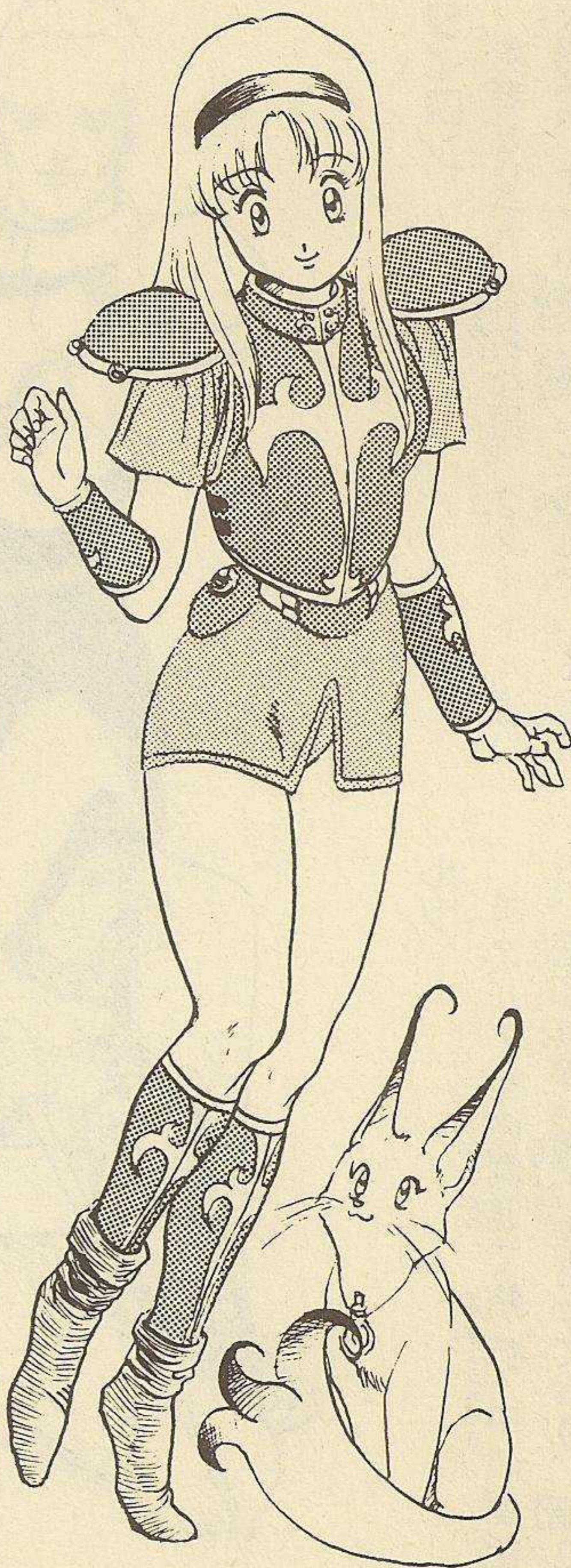
アリス 戦闘P+バトルP（2のF）このときのアリスの戦闘Pを見てください。それにバトルP表の2のFの数字を足します。仮に4+5=9とします。

8対9で、アリスの勝ち。「敵よりPが上」という項目に進みます。もし、同点の場合は、両者のバトルPをひとつずつずらしてください。AならB、FならGというようにです。もしJのときはAにしてください。

■何度も書いたり消したりしますので、記入は鉛筆で行ってください。また、本に直接書きこむよりも、ノートを使ったほうが遊ぶのに便利です。

登場人物

ファンタシースターの世界を駆けめぐるのは、この3人と1匹！ はたして、どんな冒険が彼らを待っているのか!?



アリサ

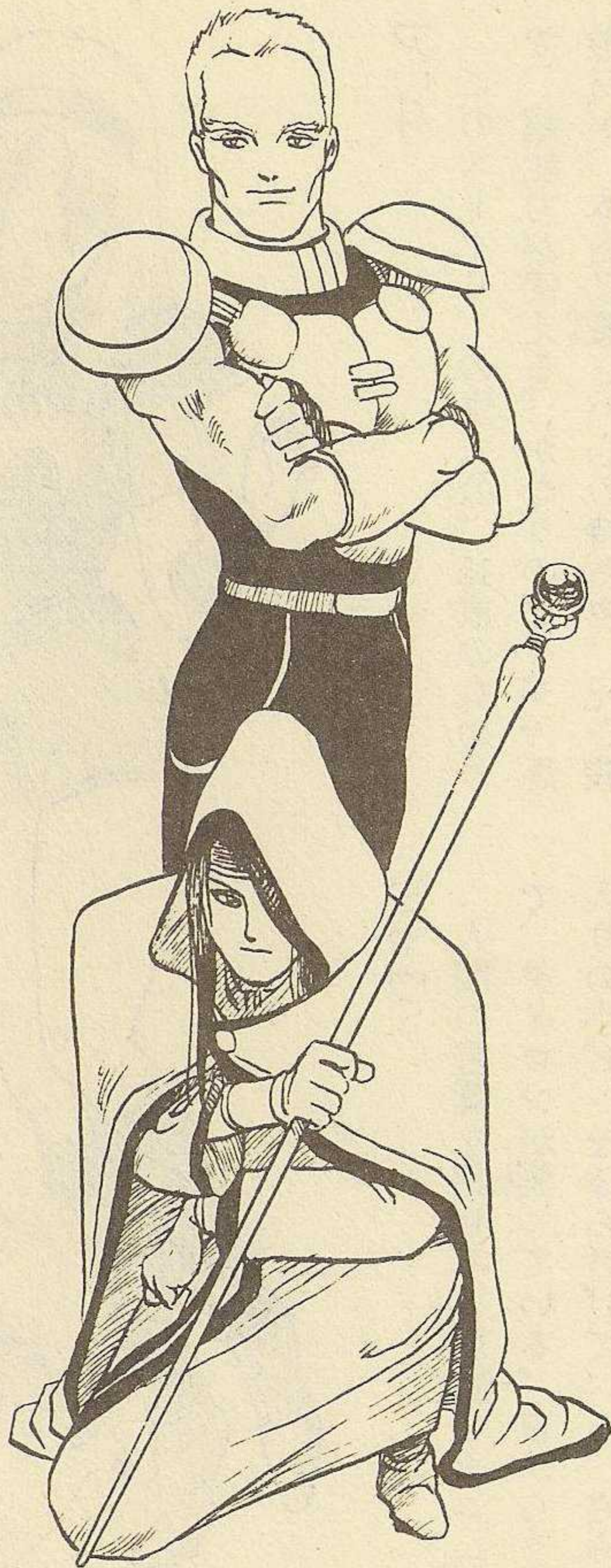
このストーリーの主人公。15歳の女の子で、超能力が使える。かなりのジャジャ馬娘だが、本当は優しい心の持ち主。兄を殺された彼女は、復讐の旅に出たが……。

ミヤウ

人間の言葉を話せる不思議なネコ(?)で、タイロンが飼っている。首からクスリ入りの小ビンをぶらさげている。さらに、ミヤウには大きな秘密が……?

タイロン

勇者として、ゆうめい有名な男。2メートル近い大男で、オノや銃じゆうの扱あつかいに慣なれている戦闘のプロ。外見がいけんに似にず、意外とユーモアのセンスもあつたりする。



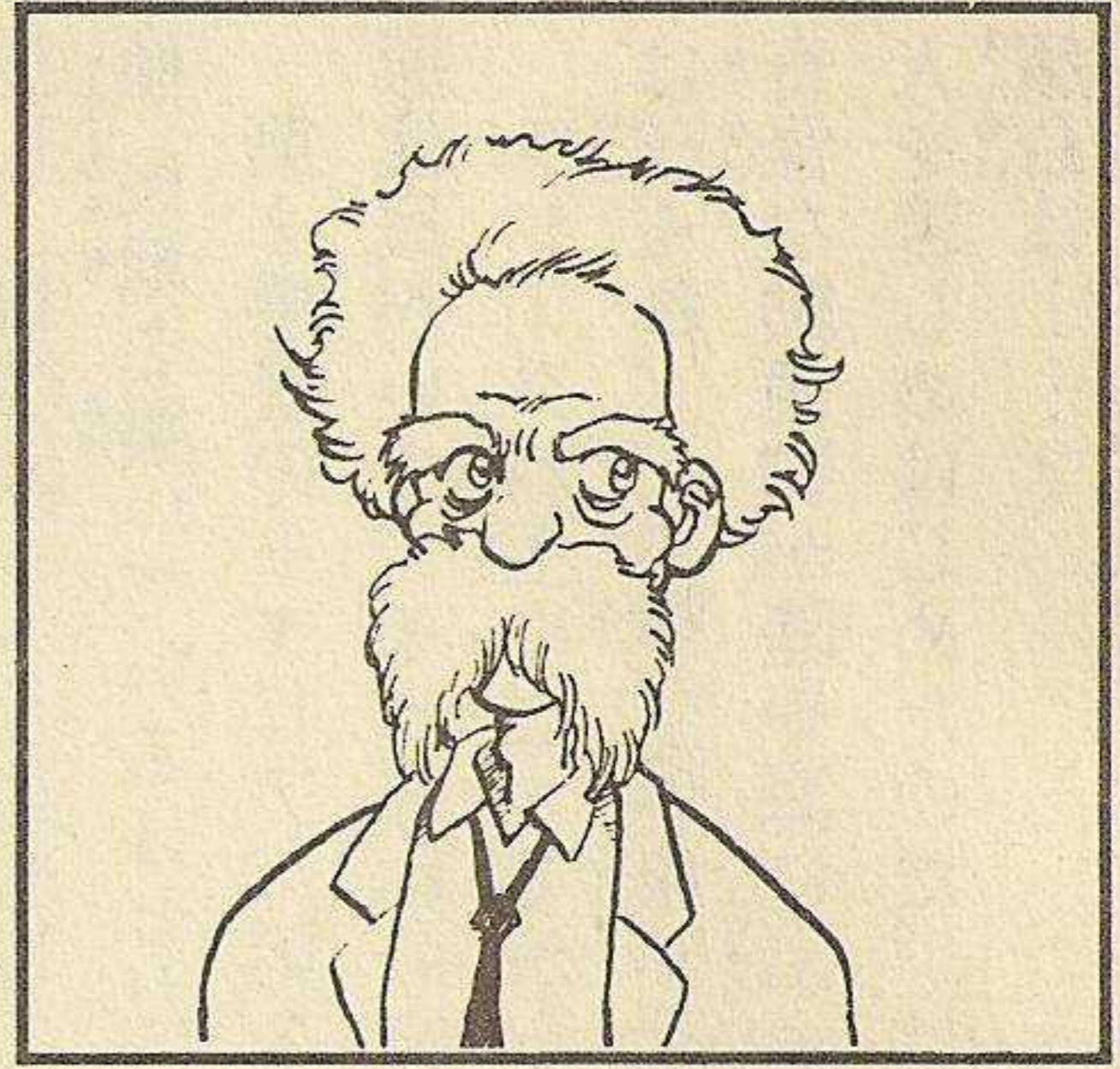
ルツ

モタビア星の洞窟どうくつで修行しゆぎようちゆう中の超能力者。底知れない魔力まりよくをもっており、頼たよりになる男。ものすごい美形びけいだが、性格がどことなくおかしいようである(？)。

登場人物

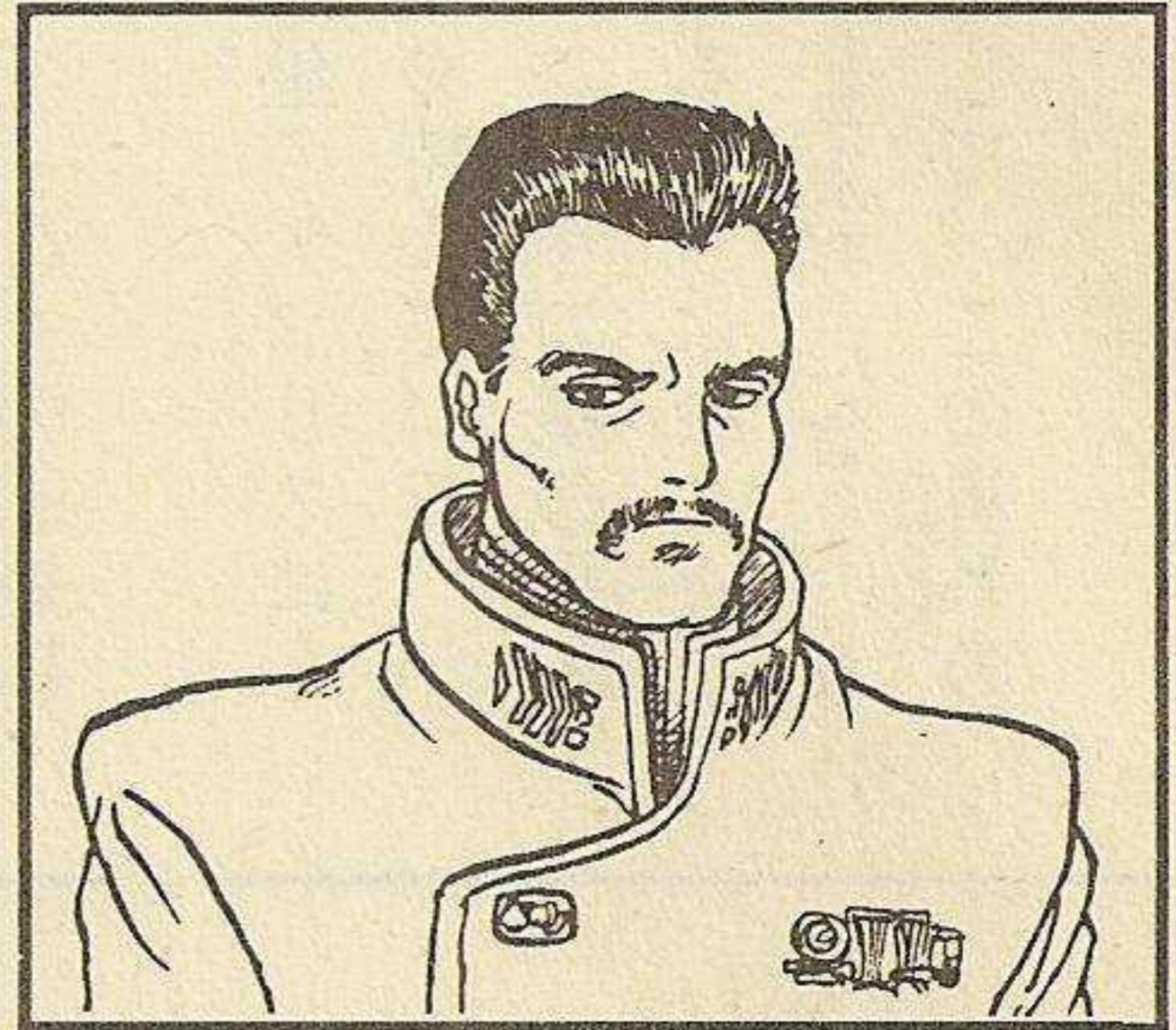
ルベノ博士

パルマ星最大の科学者。なんといつても、この人はたった一カ月分の食費しょくひで、宇宙船を作ってしまうのだ。気が狂くるったとされて、牢獄ろうごくに閉じこめられているが、けっこう生活を楽しんでいるようだ。



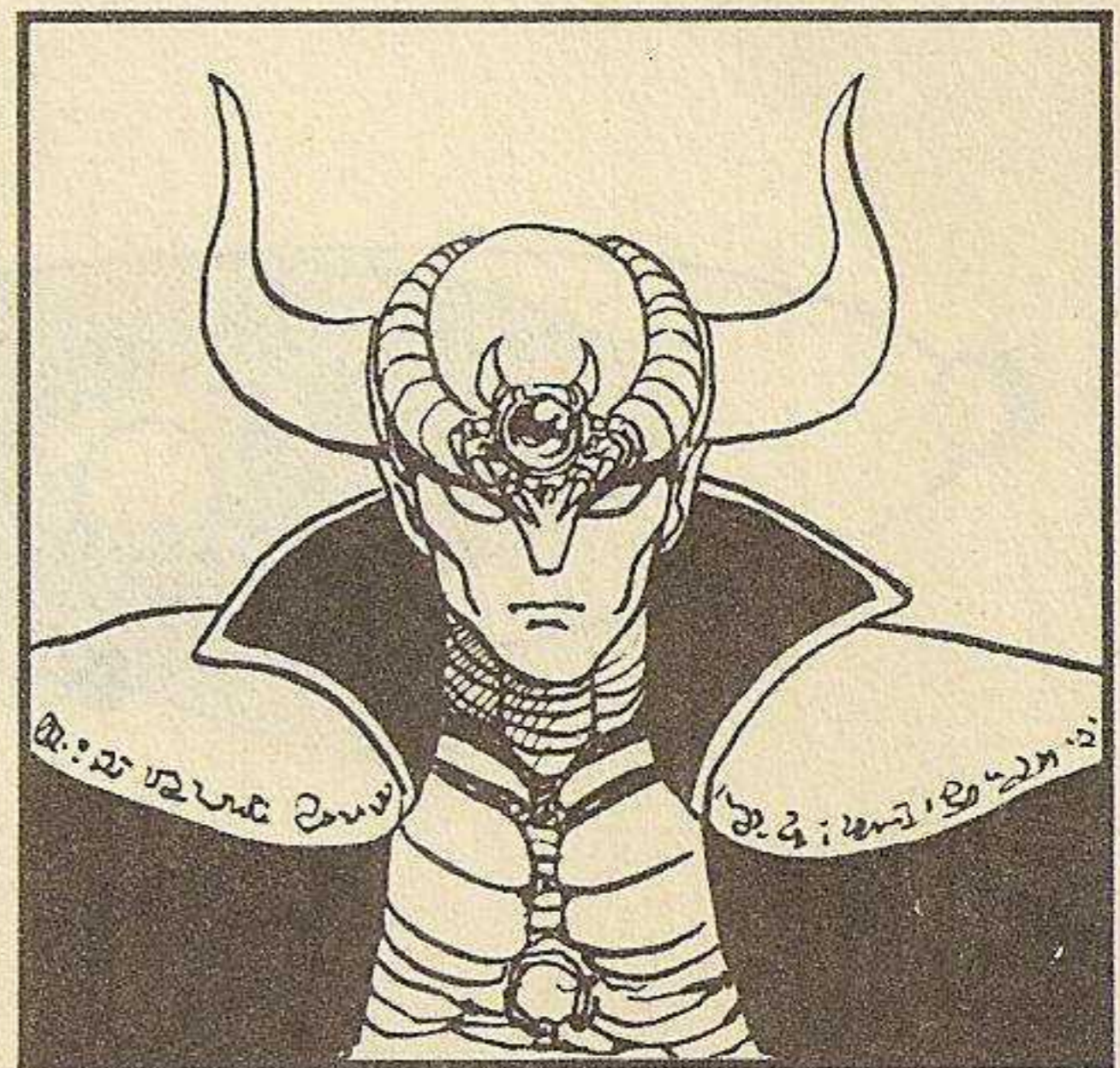
モタビア星総督

アルゴル太陽系第2惑星の支配者しはいしゃ。でも、ラシークが太陽系の実権をにぎってからは、影が薄いかげうすのである。そんなわけで、アリサたちを助けてくれたりする。いい歳として、ある物に目がない。



ラシーク

とてつもなく悪いヤツである。王だったのだが、自分の永遠えんの命と引き換えかに、アルゴル太陽系を邪教じやくきよう——『混沌こんとん』のものに売り渡してしまった。この男のせいで、アルゴルはもう破滅はめつに向かって一直線！



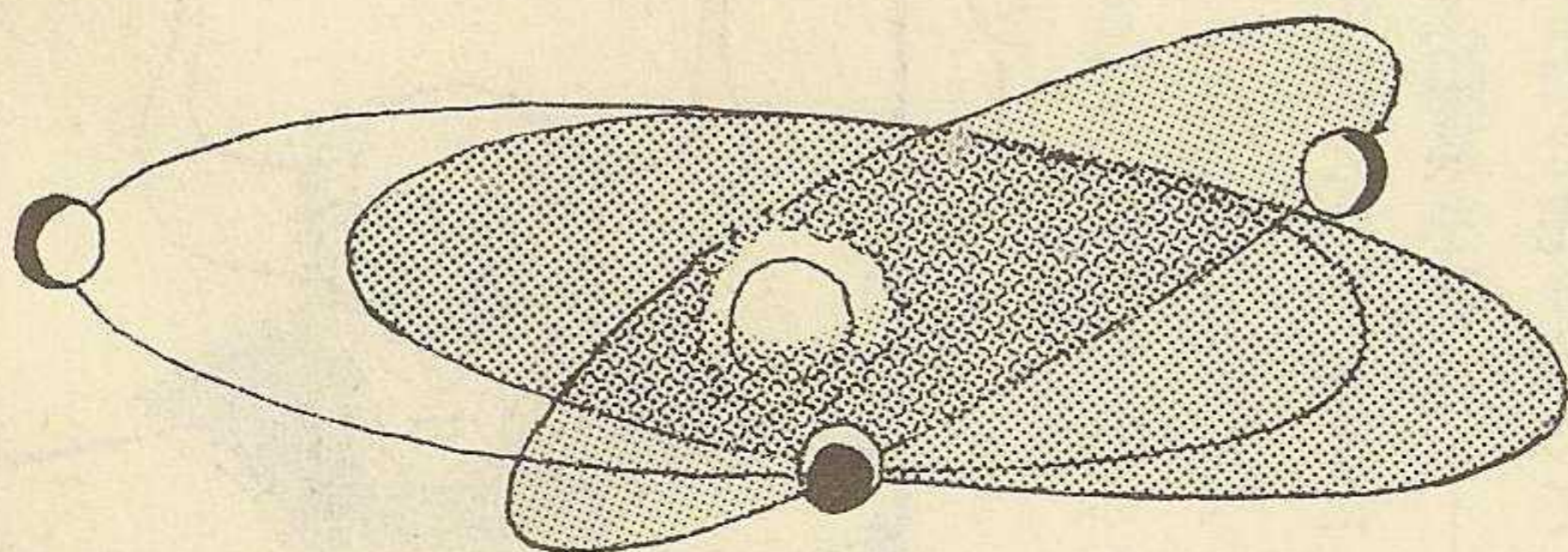
フアンタシースターの世界

フアンタシースターは、地球から遠く離れたアルゴル太陽系が舞台だ。アルゴル（太陽）のまわりを、3つの惑星がまわっている。別名、3惑星連合。

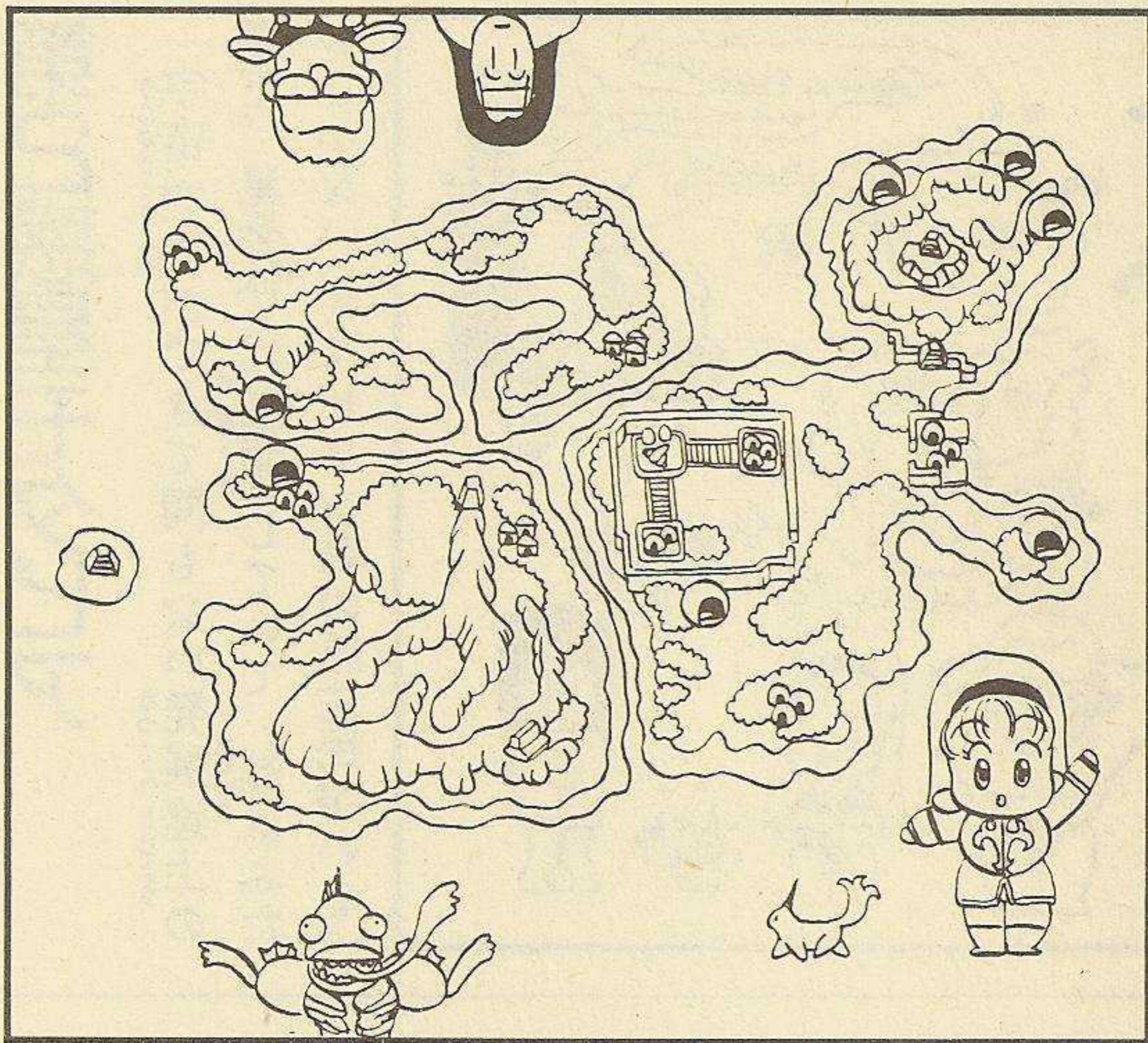
第1惑星のパルマ星に住んでいる人々は、現在の地球人とほとんど変わらない姿をしている。ただし、科学はもっと発達していて、近くの惑星に植民地を築いているほどだ。

第2惑星のモタビア、第3惑星のデゾリスにも原住民がいて、それぞれの文化を持っている。

ラシークが王になってから、これらの星の平和は破られ、不気味な現象が起こるようになった。奇怪な動植物が陸や海に出現するようになり、人を苦しめはじめたのだ。はたして、この星系の運命は……？



第一惑星パルマ



地球と同じように、海が大きく、陸地も緑に覆われた星だ。

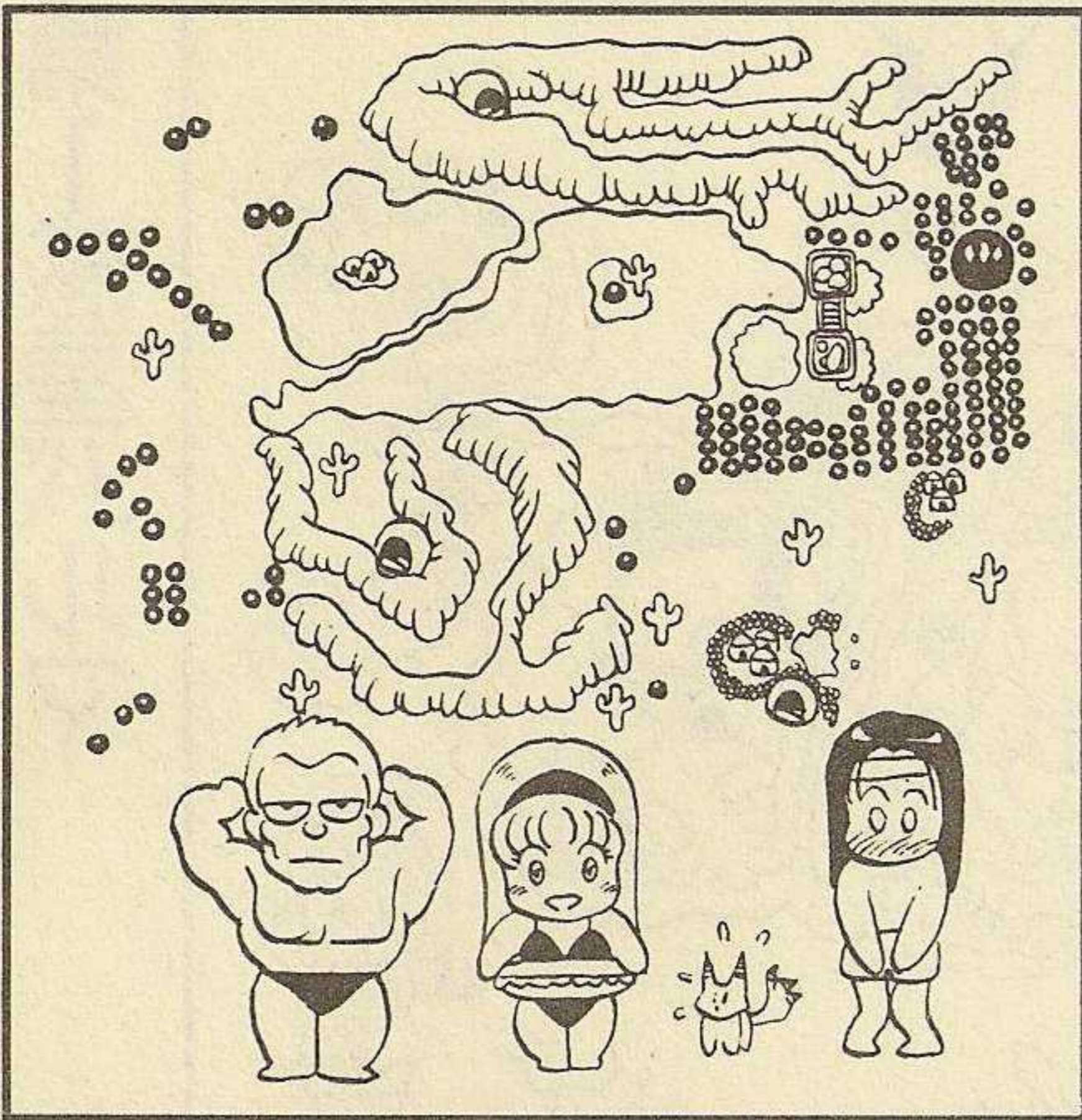
文明も古くから発展し、今ではモタビア星やデゾリス星にも進出、開発するにいたっている。

アリサが冒険をスタートするのは、この星だ。

地形が複雑で、草原、森、海岸、丘、溶岩地帯、洞窟、島とバリエーションに富んでいる。また、町や村の数も3惑星中、一番多い。いろいろ見たり、聞いたりするといいだろう。牢獄や塔なども重要なことが多いので、要チェック。そのかわり、手強い敵がわんさといふ。心してかかれ！

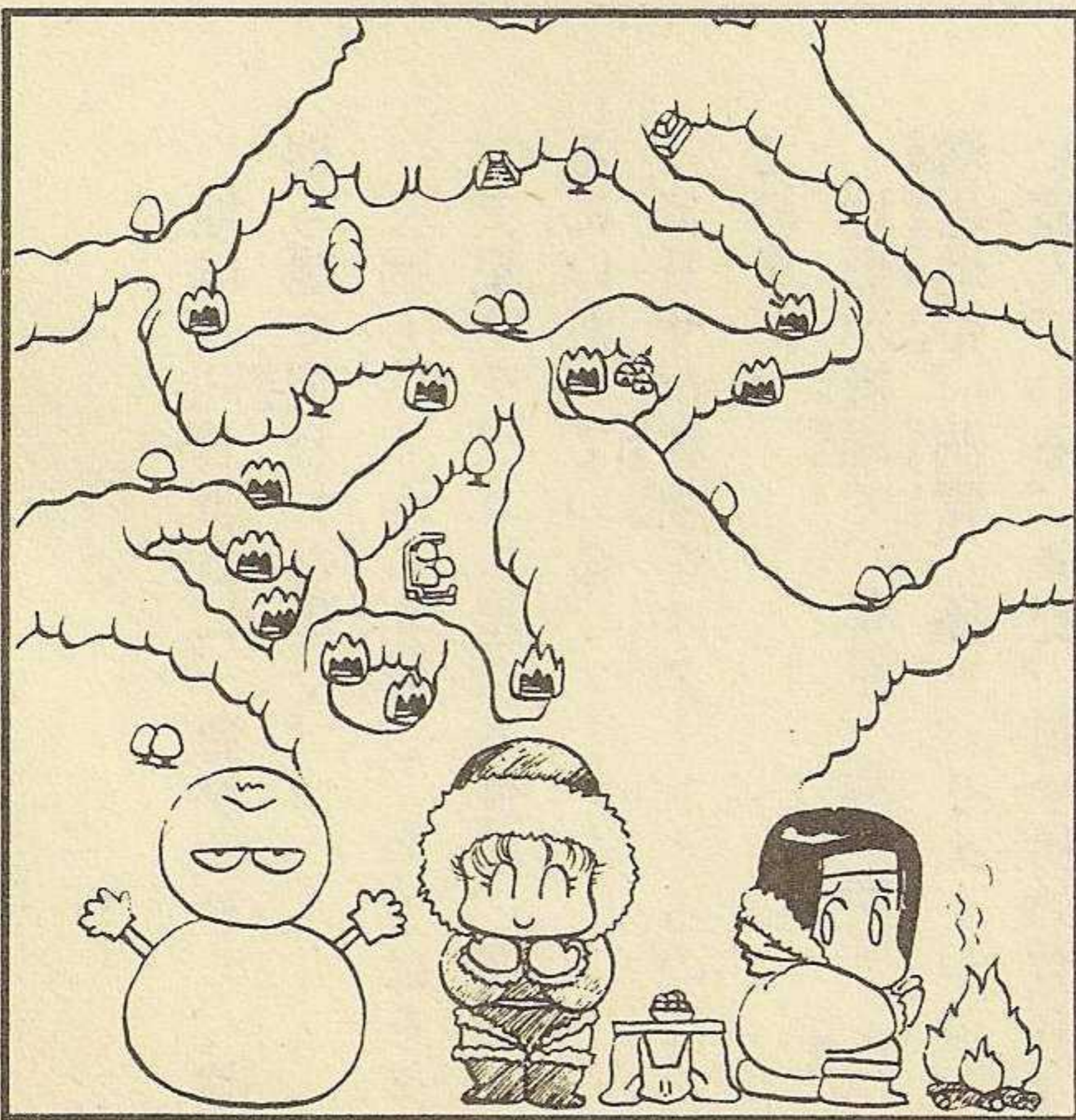
第2惑星モタビア

宇宙空港ができて間もない発展途上の星だ。星全体が砂漠化していて、湖はふたつしかない。モタビアン系の原住民がいる。



第3惑星デゾリス

雪と氷の星だ。パルマからの移民は、スクレという町にいる。また、デゾリアン系の原住民が小さな村を作っている。



ファンタシースター

アリサの冒険

1
ネロの遺品を整理していたアリサは、地下倉庫の中で宝箱を見つけた。

「50メセタもあるわ。きつとラシークを倒すために集めていた軍資金なのね」(50メセタ入手)

宝箱の中には、ショートソードも入っていた。その短剣を握りしめるアリサのまぶたに、死んだ兄の姿が浮かぶ。

——旅の途中でタイロンという強い男の話を聞いた。彼を仲間にするならば、ラシークを倒せるかもしれない。タイロンは、人の言葉を話すネコを連れてくる。

これが、兄ネロの残した最後の言葉だった。

「タイロン……。いつたい、どんな人なんだろう？」

アリサの長い復讐の旅が、今始まった。まず、その第一歩は、

●兄の友人ネキセを訪ねる …… ↓ 21へ ●アーマーショップへ行く …… ↓ 68へ

2

戦闘後、アリサたちはすぐに宇宙空港に着いた。

(空港内の病院にて、傷の手当てが可能。10メセタ払うと、HPがプラス2される)
なんとかその日の最終便に乗りこみ、一行はモタビア星のパセオに到着。すぐに総督の

屋敷を訪ねてみる。

「ナンダ、オマエタチハ？」門のところで、警備のロボットが前をさえぎった。「ナニ、総督ニ会イタイ？ 贈り物ハ持ッテキタカ？ 甘イモノダゾ」

●チーズケーキがある …… ↓153へ ●ショートケーキがある …… ↓90へ
●ふたつともない …… ↓28へ

3

金髪のクニヌーヌの店。

「え、言葉を話すネコですか。もの好きですねえ。50メセタでどうですか？」

●50メセタ払う …… ↓56へ ●やめて、黒髪のほうの店へ …… ↓77へ

4

血走ったひとつ目でガンを飛ばしたデビルバットは、アリサめがけて急降下！

アリサは肩口から鮮血をほとばしらせてうめいた。怪物の羽はカミソリのように鋭かったのだ（HPマイナス1）。

「このーっ、乙女の柔肌になんてことをするのよ！」アリサは、スタボロになるまでデビルバットに切りつけた。どうやら、血を見ると逆上するタイプらしい。怪物は、目を点に

して息絶えたのだった（戦闘Pプラス1、プラス10メセタ）。

そのまま進んでいくと、森のはずれに出た。思ったよりも小さな森だったようだ。

●このまま平原へ行く……………↓18へ ●海岸へ行く……………↓101へ

5

シオンのアーマーショップは、ヨロイの専門店だった。今着ているレザークロスより丈夫なライトスーツが、30メセタで売っているが。

（買う人は、マイナス30メセタで、ライトスーツをアイテムリストに書きこむこと。そうして、戦闘Pプラス1。買わない人は、なにも書かないこと）

店を出たアリサは、その足で港のほうに向かった。

↓106へ

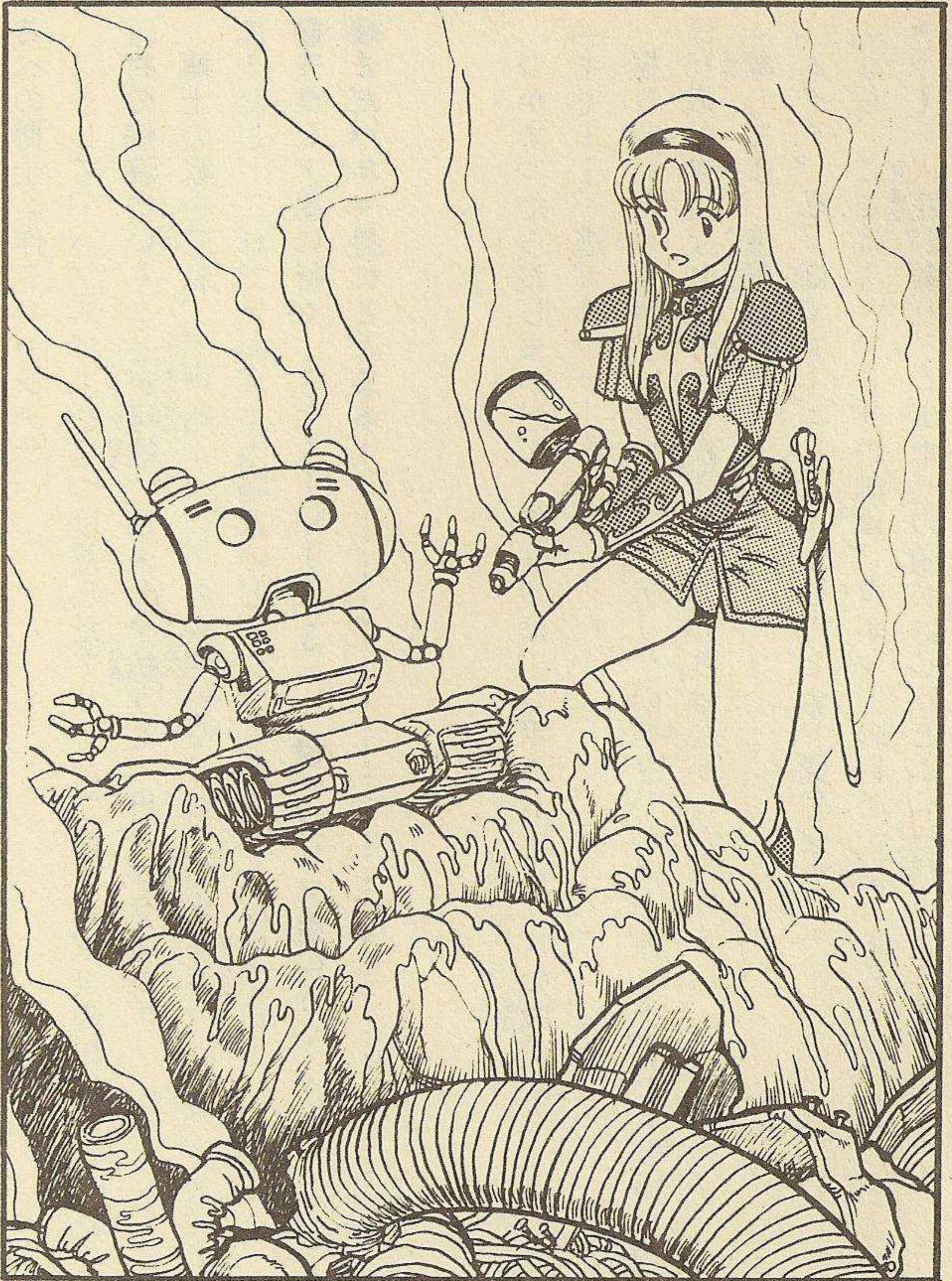
6

アリサは、ポリメテールをスクラップ置き場にまきちらした。その効きめは強力で、ありとあらゆるものがドロドロに溶けていく。——そしてラコニア製のものだけが残った。

「見つけた！ このロボットがハプスビーかしら？」

「動かないな。蹴飛ばしてみようか」

「ヤ、ヤメテクダサイ」ロボットは、急に立ち上がった。「ワタシハはぶすびートイイマス。



6 ● ポリメーテルの効き目はものすごく、ロボットはすぐに見つかった。どうやら、これがハプスビーのようだが。

るべの博士ニ作ラレマシタ」

こうして、ハプスビーを見つけだしたアリサたちは、ガシコの村にもどった。

(村の病院に行くことが可能。20メセタ払うと、HPプラス5)

博士の家を訪ね、宇宙船ルベノ号の説明を受ける。操縦ロボットのハプスビーも仲間に加えたし、これでアルゴル太陽系のどこにでも行くことが可能だ！

- モタビア星に行く……………↓165へ
- デゾリス星に行く……………↓405へ
- まだパルマ星にとどまる……………↓207へ

7

つかまったらおしまいだ！　アリサは、ロボット・ポリスの股の間をくぐった。

「ギギ……。逃ガサン」

振り向いたロボポリは、すばやくアリサの襟をつかんで持ち上げた。機械の腕にとっては15歳の少女など子ネコを扱うのと変わりはなかった。

「離してよ、変態ロボット！」

「ムダダ。私ノぼでいーニしよーとそーどナド通用シナイ」

「なら、ここは！」アリサの剣は、ロボットの目の位置にあるカメラをつらぬいた！　バチッ！　火花が散り、ロボポリの頭がはじけとぶ(戦闘Pプラス1)。

間一髪、レザーシールドが、破片からアリサを守ってくれた。

「こつちよ、アリサ！」

アリサは、ビルとビルの間飛びこんだ。

「スエロおばさん！」

「しっ」そこに潜んでいた女性は、口の前に指を立てた。

残ったロボポリは、気づかないまま通りを歩いていく。

「もうだいじょうぶよ」その女性は、アリサの唯一の肉親、叔母のスエロだった。「危険だから、仇討ちなんてやめなさい……なんていっても聞く娘じゃないわね。でも、戦いで傷ついたときは、いつでもうちにいらつしやい。ヒール（治療）のマジックで治してあげるわ。絶対、無理をしないでね」

「ありがとう、叔母さん。兄さんの敵を討つまで死ぬわけにはいかないわ」

アリサはスエロの手を強く握った。

8

「あれれ、いつけない！ 入口にもどつちやつたじゃないの。えーい、あたしは方向音痴なんかじゃないぞ！」

アリサは、再び洞窟の奥に入っていた。

↓40へ

↓110へ

……………アリサは悪夢から目覚めた。あの怪物はいつたい？

「おはよう、アリサ。ばかに顔色が悪いな。悪い夢でも見たか？」昨日の謁見の間で、夕イロンが聞いてきた。

「まさに悪夢よ。怪物に襲われて、あたしたちが全滅する夢」

「げっ！ 不吉な。オレは、かわいこちゃんの大群に襲われる夢だったし、ミヤウなんかは、いくら食ってもキャットフードがなくならない夢を見たらしいぜ」

「それにしちゃ、そつちも顔色が悪いわね。——あ、総督だわ」

「あー、そのまま、そのまま。今日は、キミたちにこれをあげよう」

総督は、1通の封筒をアリサに渡した。

「パセオの北に、『マハルの洞窟』というのがある。そこに、ルツという超能力者がいるんだが、この手紙を持って会いに行くがよい。きつと心強い味方になつてくれるはずだ」
「ありがとうございます」

「なんのなんの。ラシークを倒して、きつとここへもどつてくることを信じているぞ」

●Dにチェックがある …………… ↓73へ ●ない …………… ↓122へ

10

幸運にも助けられ、アリジゴク帯を突破したアリサたち。なんとか、『マハルの洞窟』までたどりついた。

洞窟内に入り、T字路の所まで進む。すると、そこで後方にシャッターが落ちた。

「ち！ とにかく進むしかないようだな……」

●東に進む …………… ↓119へ ●西に進む …………… ↓58へ

11

これだけのロボット・ポリスを相手にして、まともに戦うつもりはない。要は、ヤツらの足を止めればいいことだ。

アリサは、ロボポリの頭をすばやく攻撃した。正確な一撃でTVカメラを叩き割っていた。降下してきたロボポリたちは、すべてアリサの剣のえじきとなった(戦闘Pプラス1)。

↓65へ

12

トリニダの牢獄。アリサたちは、いきなり正面から入っていった。

「オイ、オマエタチハ何者ダ？」

背後の扉が閉まり、前からはロボットが現われた。

「うわっ、いきなり見つかった。だれよ、むしろ正面からのほうが意外性があった、うまくいくって言ったの」

●ロボットと戦う …… ↓105へ ●なんとか話してみる …… ↓157へ

13

「ふん、的がいつぱい飛んでやがるぜ」

タイロンは不敵な笑みを浮かべると、ニードルガンホルスターから抜いた。

発射される針は、長さ0・01ミリのスーパー・ハイ・スチール・マンガン製。高圧の

ガスにより1秒間に500本以上が発射される。まともにくらえば、人間などアツという間にサボテンのようになってしまふのだ。

タイロンは、空に向けてトリガーを引いた。

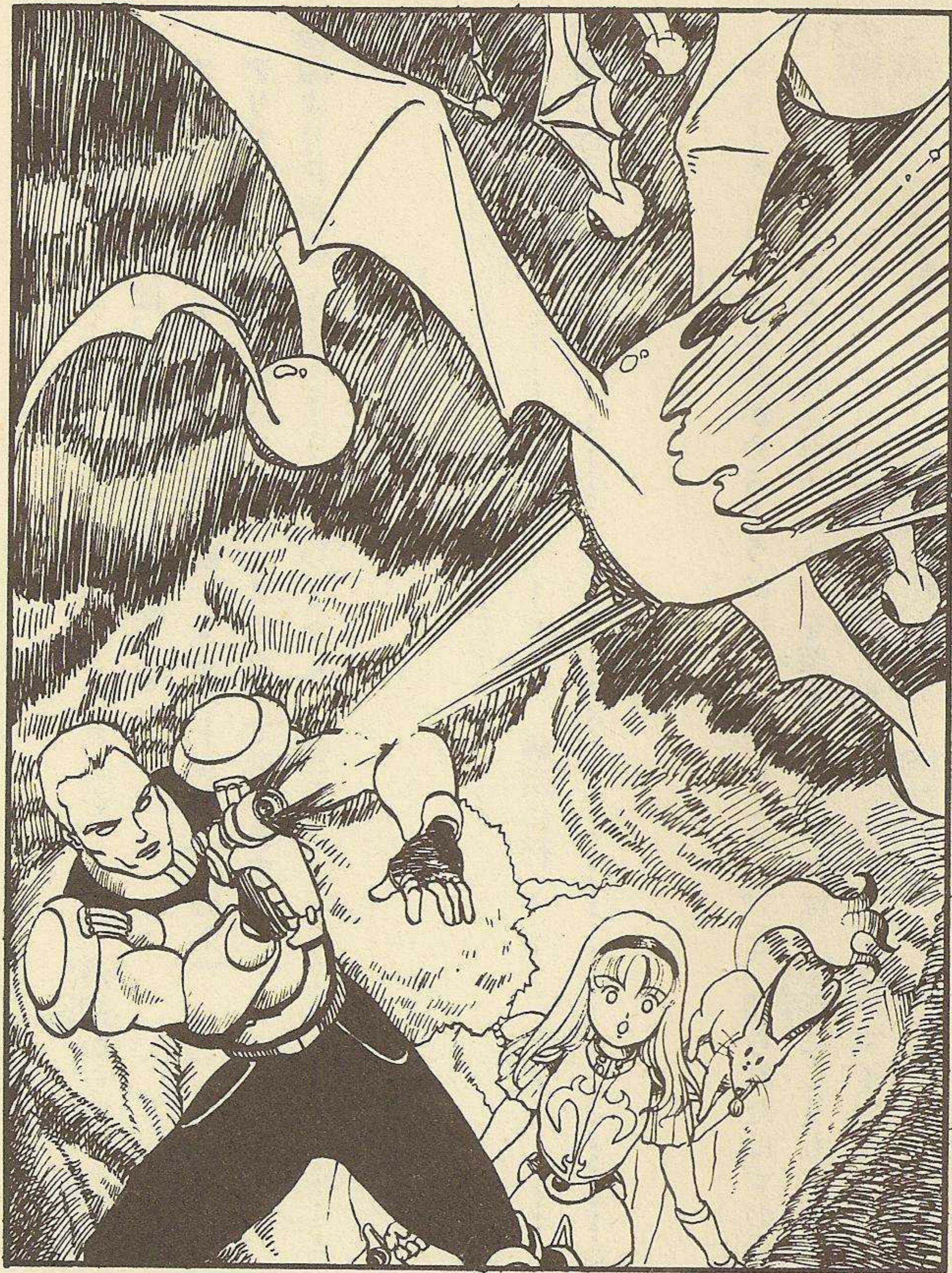
体中をつらぬかれたゴルドレンズどもが、おもしろいように落ちてくる。

ガス・カートリッジをすばやく交換し、さらにトリガーを絞る。

空を覆うようだったゴルドレンズの大群は、もうまばらに飛んでいるだけだ。

このタイロンという男、単なる筋肉だけの男ではないようだ。近代兵器の知識を持ち、

その扱いもたしかな腕を持っていた。



13●「^{まと}的がいっぱい飛んでやがるぜ」タイロンは、ニードルガン
^{はつしゃ}を発射した。ゴールドレンズを次々と撃ち落とす。

「すごいわ、タイロン！」

「ゲームはここまでだ」タイロンはニードルガンをしまい、最初から持っていたオノに持ちかえた。「お次は、あのガイコツ野郎だぜ」

スケルトンとゴールドレンズ数匹 6+バトルP (1のー)

アリサたち 戦闘P+バトルP (2のD) で戦います。

●敵よりPが上 ↓38へ ●下 ↓71へ

14

またしても分かれ道だ。このT字路をアリサは？

●東に行く ↓113へ ●西に行く ↓61へ

●南に行く ↓80へ

15

シャーキンは、腰をかがめるようにして上陸してきた。と、切られたはずの舌がまた伸び、アリサの右足をとらえた！ ふいを突かれたアリサは、砂浜にしりもちをつく。舌の先端にはトゲがあり、それが彼女の皮膚に食いこんでいた (HPマイナス2)。

「痛っ！ 2枚舌つてわけか。嫌われるぞお、怪物め！」

シャーキンは巨大な爪を広げ、アリサににじりよつてきた。その肉切り包丁のような爪にかかっては、アリサなど料理前の肉の塊かたまりのようなものだった。

(こうなつたら、いちかばちかだ) アリサは、再び舌を断ち切った。

「シャツ！」バランスを崩したシャーキンは、目の前に飛んでくる何かを見た。次の瞬間、その何か——アイアン・ソードが、深々と半魚人の頭をつらぬいていた(戦闘Pプラス1、プラス40メセタ)。

「ふー、やつとやつつけた。——あれ、あの町がシオンかしら」

アリサは、岬の先に見える町に向かって歩き出した。

↓72へ

16

マンイーターどもは、わさわさと触手をうごめかし、アリサの前後にまわりこんだ。前のヤツの胴体に裂け目ができたかと思うと、そこから何かが噴き出した。

アリサは、すばやく身をひねり、敵の本体に剣をふるった。ハクサイよりたやすく、マンイーターは真つ二つ！

もう1匹！振り向いた瞬間、アリサの体に何かがかかった。ジューツ！白い煙がのぼり、武器を焦がしていく。溶解液だ！

「キヤア！」

すき間から入りこんだ1滴てきが、アリサの脇腹わきばらを焼いた（HPマイナス1）。

「このーっ、跡あとが残ったら、どーするのよ!!」

アリサはひるむどころか、猛然もうぜんとそいつに切りかかった。怒りいかのパワーが爆発ばくはつ！ 1分後にはマンイーターはみじん切りになっていた（プラス40メセタ）。

「サラダにもなりやしない。——おっと、早く宇宙空港うちゅうくうこうに行かなくちゃ」

17

アビオンの塔とうを出たアリサたち。さて、これから？

●メデューサの塔に行く……………↓411へ ●モタビア星に飛ぶ……………↓165へ 32

●デゾリス星に飛ぶ……………↓405へ

18

平原へいげんを歩くアリサの耳に、ブーンという音が飛びこんできた。1メートルもありそうなハエが、草原をはうように飛んでくる。モンスターフライだ！

モンターフライ 0+バトルP（1のD）

アリサ 戦闘P+バトルP（2のF）で戦います。

●敵よりPが上……………↓32へ ●下……………↓66へ

19

タランチュラは、口から糸を吐き出してきた。

それにからまれないように、アリサたちはすばやく攻撃した。タイロンのオノが大グモの胴を裂き、アリサの剣が頭をつらぬく！

「よし、いいぞ。タランチュラを倒すには、速攻が一番だ。完全に糸をはられたらやりにくくなるからな」

●東に行く……………↓1111へ ●南に行く……………↓189へ

20

鮮やかにアリサの剣が舞った。

剣がもとの鞘に収まると同時に、ウイングアイの残骸が地面に落ちてきた。あつという間に2匹ともやつつけたアリサは、大きく息をついた。

道の先は行き止まりになっていた。しかたなく、あともどりする。 ↓110へ

21

兄の友人ネキセの家は、カミニートのはずれ、宇宙空港ゲートのすぐそばにあった。

「タイロンを探しているんだって。たしか、シオンで見たっていう話を聞いたな」

「シオンって、あの港町の」

「うん。——あ、キミの兄さんから、この壺をあずかっていたんだ。ラコニアン・ポット
とって、大変貴重なものだ。きつと、あとで役に立つよ」(ラコニアン・ポット入手)
玄関までアリサを見送りに出たネキセは、突然、目を伏せた。

「これ以上、力になれなくてごめん……」

アリサは、黙って首をふり、ドアを閉めた。

そのとたんだった——。アリサの前に、銀色の巨人が立ちふさがった。

「ありさダナ。我々ト一緒ニ来テモラオウカ。叛逆罪ノ容疑デ逮捕スル」

ロボット・ポリスだった。それも2体！ はやくもラシークの手が伸びてきたのか!?

●レザーシールドを持っている……↓7へ ●持っていない ……↓86へ

22

「へビのくせに寒い所が好きなんて……。だから、低温動物っていうのね」

「なんか違う」

などと言っているうちに、フレームリザードが飛びかかってきた。アリサが身をかわし、
大蛇は壁に激突した。

怒りの声をあげ、振り向く大蛇。だが、そのすぐ上からタイロンのオノが落下した。ズ

ン！ アリサたちをにらみながら、フレームリザードの首が転がった。
 先が行き止まりになっていたので、一行はもと来た道を引き返した。 ↓140へ

23

パトリロ居住区内に入った。この、カミニートから一番近い居住区でアリサはふたつの情報を得た。ひとつは、このアーマーショップが剣の専門店だということ。ふたつは、海岸線をずっと東に向かえば、港町シオンへたどり着くということだった。

シオン。ネキセの言葉の中にあつた町。タイロンがいるという町ではないか。一刻も早くシオンに行きたいアリサだが……。ここは、

●アーマーショップへ行く …… ↓62へ ●さらに情報を集める …… ↓92へ

24

「あれじゃ、一方的よ。茶色いほうはショートソードしか持っていないじゃないの」
 言うが早いか、アリサは飛び出していった。タイロンとミヤウもそのあとを追う。

青い直立ネズミの群れ 15+バトルP (1のH)

アリサたち 戦闘P+バトルP (2の-)で戦います。

●敵よりPが上 …… ↓135へ ●下 …… ↓97へ

アリサは、男から聞いたツールショップに足を運んだ。パトリロ居住区きよじゆうくで助けたヒゲ男の名を言うと、店の親父おやじはすぐに御禁制ごきんせいのロードパスを出してくれた。しかもタダ!

「やったね♡ これがあれば宇宙空港うちゆうくうこうにも入れるわ」(ロードパス入手)とりあえず今は、

●アーマーショップへ行く……………↓5へ ●港のほうへ行く……………↓106へ

十字路に出た。

●東に進む……………↓311へ ●西に進む……………↓327へ

●南に進む……………↓303へ ●北に進む……………↓240へ

「ケケケ、ドコカラ食くツテヤロウカ。頭ガイイカ、ソレトモ尻しりガイイカアーツ」
飛びかかってくるマンチコート! アリサは、うろたえずに剣を突き出した。

グサツ! 剣先がみごとに、獣けものの額ひたいをつらぬいた!

「でかい凶体ずうたいのくせして口先だけなんだから」(戦闘Pプラス2、マジックPプラス1)
アリサは、黒髪くろかみのクニヌーヌの店へ向かった。
↓77へ

28

「ナアニイ！ 甘イモノヲ持ッテイナイダトオ！ ナラバ、ココハ通セナイナア！」

「えーっ！ せつかくここまで来たのにそんなことくらいで。こうなりや強行突破よ！」

警備ロボット 9 + バトルP (1のG)

アリサたち 戦闘P + バトルP (2のA) で戦います。

●敵よりPが上 …………… ↓46へ ●下 …………… ↓75へ

29

(いちかばちか!) アリサは、必殺の気合いをこめて切りかかった。

だが、剣は怪物の向こう側にすつと吸いこまれてしまった。

「剣が効かない！」

飲みこまれたのは剣だけではない。アリサの体は、そのままナイトメアの体に吸収され

ていった……。 ↓9へ

30

血走ったひとつ目でガンを飛ばしたデビルバットは、アリサめがけて急降下！

一見あわてたように見えるアリサだが、じつは冷静だった。すれ違いざまに剣をふるい、

デビルバットの羽を切り落とす！

羽を失った怪物は、目玉だけとなり森の小道をゴロゴロと転がっていった（戦闘Pプラス1、マジックPプラス1、プラス10メセタ）。

そのまま進んでいくと、森のはずれに出た。思ったよりも小さな森だったようだ。

●平原へ行く……………↓18へ ●海岸へ行く……………↓101へ

31

北の壁にドアがひとつ。東西に通路は延びている。

●東に進む……………↓181へ ●西に進む……………↓114へ

●ドアを開ける……………↓128へ

32

アリスは草むらに身を沈めつつ、剣を上突き出した。

ズズツ。肉を切り裂く手ごたえが伝わってくる。

すぐ上を通過しようとしたマヌケなモンスターフライは、真つ二つになり、地面に転がった（戦闘Pプラス1、プラス5メセタ）。

ホツとする間もなく、別の羽音が聞こえてきた。今度は、鋭い牙とシツポを持ったトン

ボのような化け物、スコーパーラスだ。

スコーパーラス 1+バトルP (1のA)

アリサ 戦闘P+バトルP (2のH) で戦います。

●敵よりPが上 …………… ↓45へ ●下 …………… ↓89へ

33

シャーキンは腰をかがめるようにして上陸してきた。てかてかと光るウロコが気持ち悪い。と、切られたはずの舌がまた伸び、アリサの足を狙った！

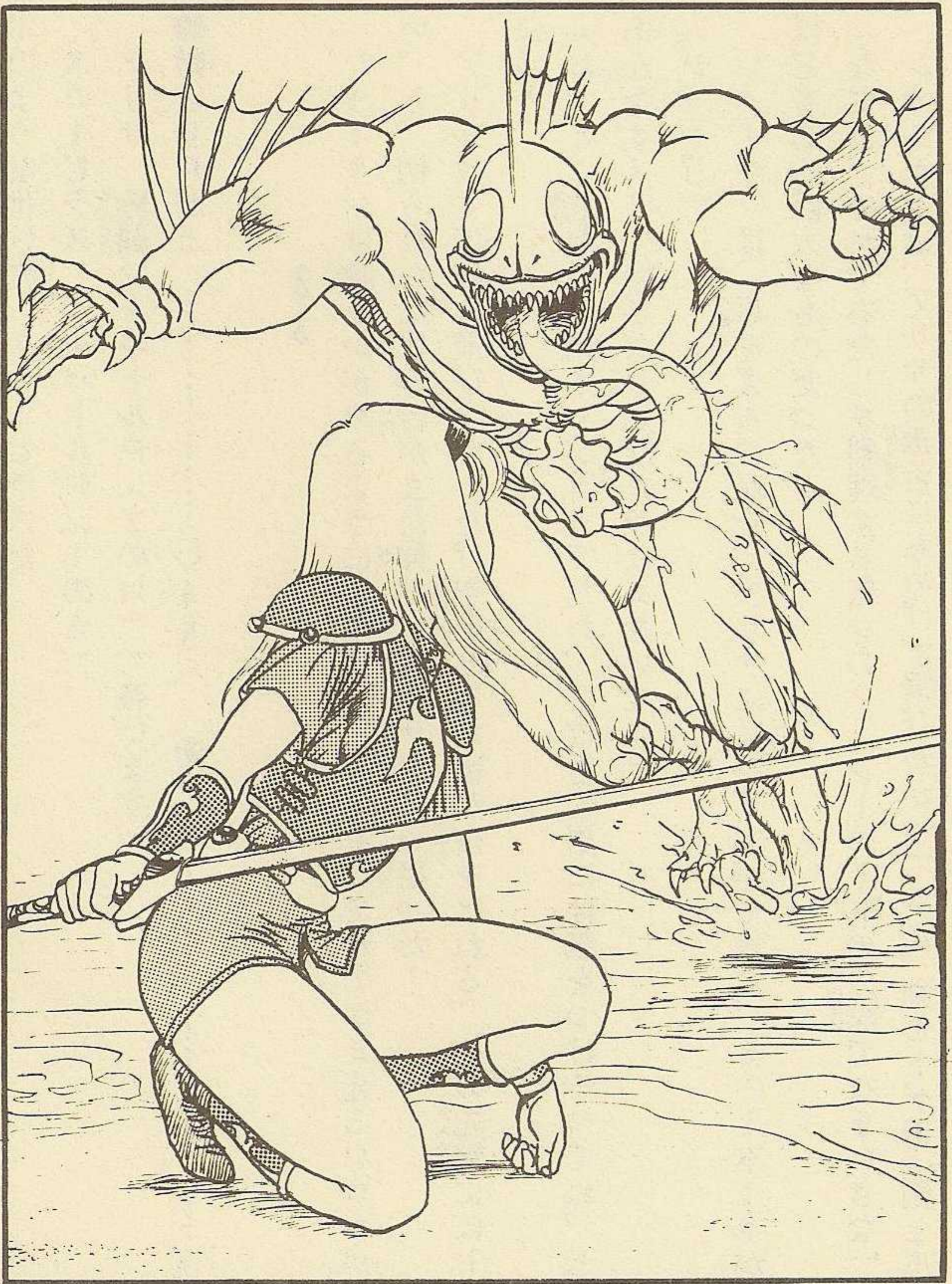
アリサはすばやく飛びすさった。空振りした舌が宙をはねる。その先端にはトゲがあるようだ。

「おっと、危ない。兄さんが言ってたわ、2枚舌の男には気をつけろってね。ところで、あんたオス？ いきなり足なんかなめないでね」

「シヤッ!？」

シャーキンは、爪をぎらつかせ、アリサににじりよってきた。その1本1本が、ナイフほどもある巨大なものだった。

「なによ、それであたしを料理する気なの？ シーフードの分際でなまいきな」
シャーキンは、アリサの毒舌にもめげず飛びかかってきた。剣とトゲ舌、剣と爪の戦い！



33●シャーキングは、爪をぎらつかせ、アリサににじりよってきた。
「シーフードの分際ぶんざいでなまいきな！」と、アリサ。

一進一退の攻防が続く。

「あつ！」慣れない砂地に足をとられ、アリサがしりもちをついた。

シャーキンは、しめたとばかり覆いかぶさろうとする。

「よるな、息が魚くさい！」アリサは必死で砂をつかむと、目の前の醜悪な顔に叩きつけた！ よろめくシャーキンの胸を刺し、とどめを刺す（戦闘Pプラス2、マジックPプラス1、プラス40メセタ）。

「ふー、やっとやつつけた」肩で息をし、立ち上がるアリサ。「あの町がシオンかしら」
彼女は、岬の先に見える町に向かって歩きだした。

34

「やーねえ、きつとこそ泥よ。あー、やだやだ」と言つて、おばさんは眉をひそめた。

そうかもしれないし、反政府活動の一味かもしれない。どちらであろうと、アリサには助ける気はなかった。ここで騒ぎを起こしてラシークに動きをさとられるのはまずい。

男はロボット・ポリスに麻酔弾を撃ちこまれ、どこかに運ばれていった。

アリサもここが潮時のようだ。次は（アイアン・ソードがあれば、シオンへ、なければ店へ）。

●シオンへ

.....

↓101へ

●店へ

.....

↓62へ

「ケンカをふっかけられない限り、ムダな戦いは避けたほうがいい」と、タイロン。
 アリサたちは、直立ネズミちよくりつに見つかからないようにあともどりした。大岩の反対側に回りこむ。
 ↓1770へ

宇宙船うちゆうせんは何事もなく、モタビアの首都しゅとパセオに着陸した。

時間をムダにはできない。さつそくアリサは、クニヌーヌという商人を探し始めた。

「言葉を話すネコ」がそういるわけじゃない。珍獣ちんじゆう・奇獣きじゆうを扱あつかうマーケットを歩き回った

かいがあつて、クニヌーヌの居場所いばしょはすぐにはわかった。——しかし、困ったことに、「えー!?
 クニヌーヌさんって、ふたりもいるのオ? 金髪きんぱつと黒髪くろかみ。しかも、ふたりとも「言葉を話
 すネコ」を持っているんですって? どうしよう……」

●金髪きんぱつのクニヌーヌを訪ねるたず …… ↓3へ ●黒髪くろかみのクニヌーヌを訪ねる …… ↓77へ

L字形の曲がり角に出た。

●東に行く …… ↓80へ ●北に行く …… ↓61へ

頭上ずじょうを気にしない分、アリサたちは戦いくさいが楽らくになった。
 タイロンがゆうゆうとスケルトンを打ち砕くだき、アリサは残のこっていたゴールドレンズを叩たたき落とした。

「まあ、こんなものですな」(戦闘せんとうPプラス2、プラス50メセタ)

↓2へ

「もしかして、これがタイロン？」

へたぶんそうだ。早く、アリサ、早く！

「はいはい、この薬をかければいいのね」

アリサは、ミヤウの首にかかっている小ビンを取った。中には、アルシュリンという特殊しゆな薬品やくひんが入っている。

シューツ。たちまち石像せきぞうの表面が変化を始めた。灰色はいいろ一色だったものが色づき始め、柔やわらかみを帯おびてくる。

やがて、ひとりの大男が息を吹き返した。

「う……。おや、ここは？ それにキミは？」大男——タイロンは目をしばたたかせた。
 アリサは、事情せつめいを説明した。

「そうか。ありがとう、助かったよ。石になっっているのは退屈たいくつでいかん。しかし、メデューサーにしてやられるようでは、ラシークは倒せそうもないな」

「あたしの兄さんも、ラシークを倒そうとして死んでしまったわ。死ぬ前に、あなたの名前を言い残して……」

「そうだったのか」タイロンは、遠くを見るような表情ひょうじょうをした。「よし、キミの兄さんのためにも、力を合わせてラシークを倒そう！」

一声鳴ないて、ミヤウが主人の肩かたに飛び乗った。

「よう、元気にしてたか。——さて、それじゃ、この陰気いんきな洞窟どうくつを出るとしようぜ」タイロンは持っていたオノを持ち直した。

↓70へ 44

40

アリサは、カミニート居住区きよじゆうくの外に出た。ここから先はまったくの無法地帯むぼうちたい。どんな怪物ぶつが出るかわからない。しかし、ここでびびっていても、打倒だとうラシークなど夢のまた夢だ。さて、どちらのほうへ向かうか？

●平原へいげん

↓18へ ●森

↓59へ

●海岸かいがん

↓101へ

41

「きゃーっ！ あたし、ネバネバしたものは受けつけないのよ！ 納豆とかトロロとか」

グリーン・スライムが、アリサの胸むねに飛びついてきた。

きゃーきゃー言いながら彼女は、それをひきはがし、地面に叩たたきつけた。さらに激しく
きゃーきゃー言っつて、めためたにスライムを踏ふみつける。

死闘しとうは終わった……。

「はあ、はあ……今夜変な夢見そう」

道の先が行き止まりになっていたので、アリサはあともどりした。

↓61へ

42

バサバサ……。急降下きゆうこうかしてきたウイングアイは、その鋭い羽はねでアリサを襲おそった！ 頬ほおと

手から、すつと血が細く流れる（HPマイナス1）。

だが、アリサはひるまない。剣をきらめかせ、怪物かいぶつ2匹をなぎはらった。

「このやる、このやる！」

地面に落ちたウイングアイをさらに踏ふみつける。

「思い知ったか！ ——あら、この先は行き止まりだわ。もどんなきゃ」 ↓110へ

今までに受けた傷きずが気になったアリサは、市内の病院に行った。

「怪物かいぶつと戦ったなんて。ムチャしちやダメよ」と驚おどろき、ブロンドの看護婦かんごふは、治療装置ちりようそうちのスイッチを入れた。

まもなく体はもとどおりになり、アリサは薬局やつきやくでもらったペロリー・メイトという薬を飲んだ（マイナス10メセタ、HPプラス2）。

元気になったとたん、アリサは再び町の中へ。

↓94へ

ガシコの村にやってきた。

（病院びやういんにて傷きずの手当てが可能かのう。10メセタ払はらうと、HPがプラス2される）

ルベノ博士の家を訪たずねたが、ネズミ1匹いなかった。村人の話によれば、博士は気が狂くるったという理由で、トリニダの牢獄ろうごくに入れられたという。

「どうもあやしいわね。とりあえず、その牢獄に行ってみましょう」

「あの牢獄には入り口が2カ所あります」ルツが、地面に図を描かいてみせた。

●正面から入る …………… ↓12へ ●裏から入る …………… ↓137へ

金属をこすり合わせるような音を立て、スコーパーピラスが襲いかかる！ アリサは体をひねって、怪物の牙をかわした。すかさず、剣をスコーパーピラスの胸に突き立てる。

怪物は、きりもみしながら、地面に突っこんだ！ アリサが勝ったのだ（戦闘Pプラス1、プラス10メセタ）。

再び歩き始めたアリサ。その行く手に、パトリロ居住区のゲートが見えてきた。

●パトリロ居住区に入る …… ↓23へ ●森へ行く …… ↓59へ

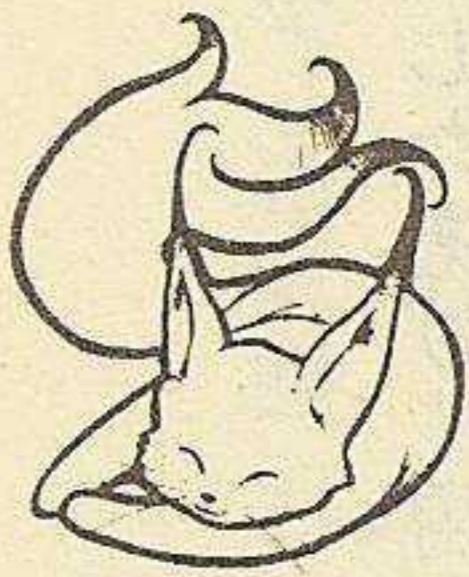
●海岸へ行く …… ↓101へ

「強行突破ダトゥー！ ヤレルモノナラ、ヤツテミロ！」

「やるわよ、それ！」

ズズーン！ 頭のカメラを破壊された警備ロボットは、その場で転倒した。

「あーら、あつけない」（戦闘Pプラス1、マジックPプラス1） …… ↓174へ



せつかくパセオまで来たことだし、もう少し歩き回ってみよう。

ところが、さんざん歩き回って、足を棒にしたあげく得られた収穫は、「モタビア星の総督は甘いものが好き」ということだけだった（Bをチェック）。

「なんのこっちゃ？」アリサは、首を傾げつつ、宇宙空港に向かった。目ざすは、パルマ星。そして、メデューサの洞窟！

↓103へ

アリジゴクどもの攻撃は、あまりにもしつこかった。切っても切っても、新手が砂の中から出てくる。アリサたちは傷つきながらも、アリジゴク帯の端までたどりついたが……

（戦闘Pマイナス2、HPマイナス1）。

●現在のHPが4以上 …… ↓387へ ●3以下 …… ↓91へ

タランチュラどもが、アリサめがけて糸を吐き出してきた。毒物がふくまれているらしく、彼女の体はしびれて動かなくなる（HPマイナス1、戦闘Pマイナス1）。

「くそ、この大グモども！」

タイロンが、クモの後ろに回りこんで、オノをふるった。タランチュラは、黄色くにごった体液を噴き出し、真つ二つになる。

「あ……ありがとう」

ようやく糸から抜け出したアリサが、ホツとした顔で言った。

●東に行く……………↓111へ ●南に行く……………↓189へ

50

2匹のマンイーターは、わさわさと触手を波打たせて、アリサの前後に回りこんだ。マンイーターの胴体に、裂け目ができたかと思うと、そこから何かが噴き出した！

「あつ、危ない！」アリサはすばやく身を伏せた。彼女の頭上を通り過ぎたそれは、もう1匹に命中！

すかさずアリサは前のヤツに切りかかった。ズサツ！まるでキヤベツを切ったような手ごたえ。マンイーターは、あつさりと地面に崩れ落ちた。

後ろのヤツを見ると、もう半分がたグジュグジュに溶けかかっている。さつき、仲間に浴びせられたのは、溶解液だったのだらう。

「やれやれ、煮こみ過ぎたシチューみたいね。——おっと、早く宇宙空港に行かなくちゃ」
(戦闘Pプラス1、プラス40メセタ)

↓67へ

(ラシークの姿も見ずに、死ねるか！)

敵に対する怒りが爆発した。熱いものが体中から手に集まり、ほとばしった！

フレエリ！ 火の球を発射する超能力だ！

火球を受けたナイトメアは、叫び声をあげた。顔をゆがませ、闇の中に溶けこんでいく
(Dをチェック)。

すべての力を使いきったアリサは、そのまま倒れこんだ。

↓9へ

アリサは、剣をふるった！ さすがアイアン・ソード。一撃のもとに、首に巻きついて
いたものを切断した。

波間から、大きな目をした半魚人が姿を現わした。シャーキンは、赤いムチのような
ものは、そいつの長い舌だったのだ。

シャーキン 5+バトルP (1のC)

アリサ 戦闘P+バトルP (2の1)で戦います。

●敵よりPが上 …………… ↓33へ ●下 …………… ↓15へ

次々と襲いかかってくるゴールドレンズの大群！

「くそ！ ザコでも、これだけ集まるとしんどいな！」さすがのタイロンも声を荒げた。

さらに、地上ではスケルトンが、こちらのスキをうかがっている。

ゴールドレンズの大群とスケルトン 9+バトルP (1のC)

アリサたち 戦闘P+バトルP (2のH) で戦います。

●敵よりPが上 …………… ↓95へ ●下 …………… ↓138へ

フレームリザードが、カツと口を開いた。そこから噴き出したより激しい冷気が、アリサたちを襲った！

「うわっ！」

獲物が身をすくませた一瞬のスキを逃さず、フレームリザードが飛びついてきた。巨体に似合わぬそのスピードで、アリサとタイロンにからみつく。骨まで砕けそうな怪力だった (HPマイナス2)。

「く、苦しい……」

と、その時、ミヤウが大蛇の頭に飛び乗った。ミヤウは、その鋭い爪を敵の両目に突き

立てた！ 絶叫ぜつきようをあげ、のたうち回るフレームリザード！

「今だ！」 危機ききを脱だつしたアリサたちは、反撃はんげきを開始かいし。みごと、大蛇の首を切り落とした。先が行き止まりになっていたので、一行はもと来た道を引き返した。 □140へ

55

「やーねえ、きつとこそ泥どろよ。あー、やだやだ」おばさんは、眉まゆをひそめた。違ちがう！ アリサの頭に別の思おもいがはじけた。

「あ、何をするの!? お待ちなさい、危あぶないわよ」おばさんの制止せいしなどおかまいなしに、アリサの体は動いていた。

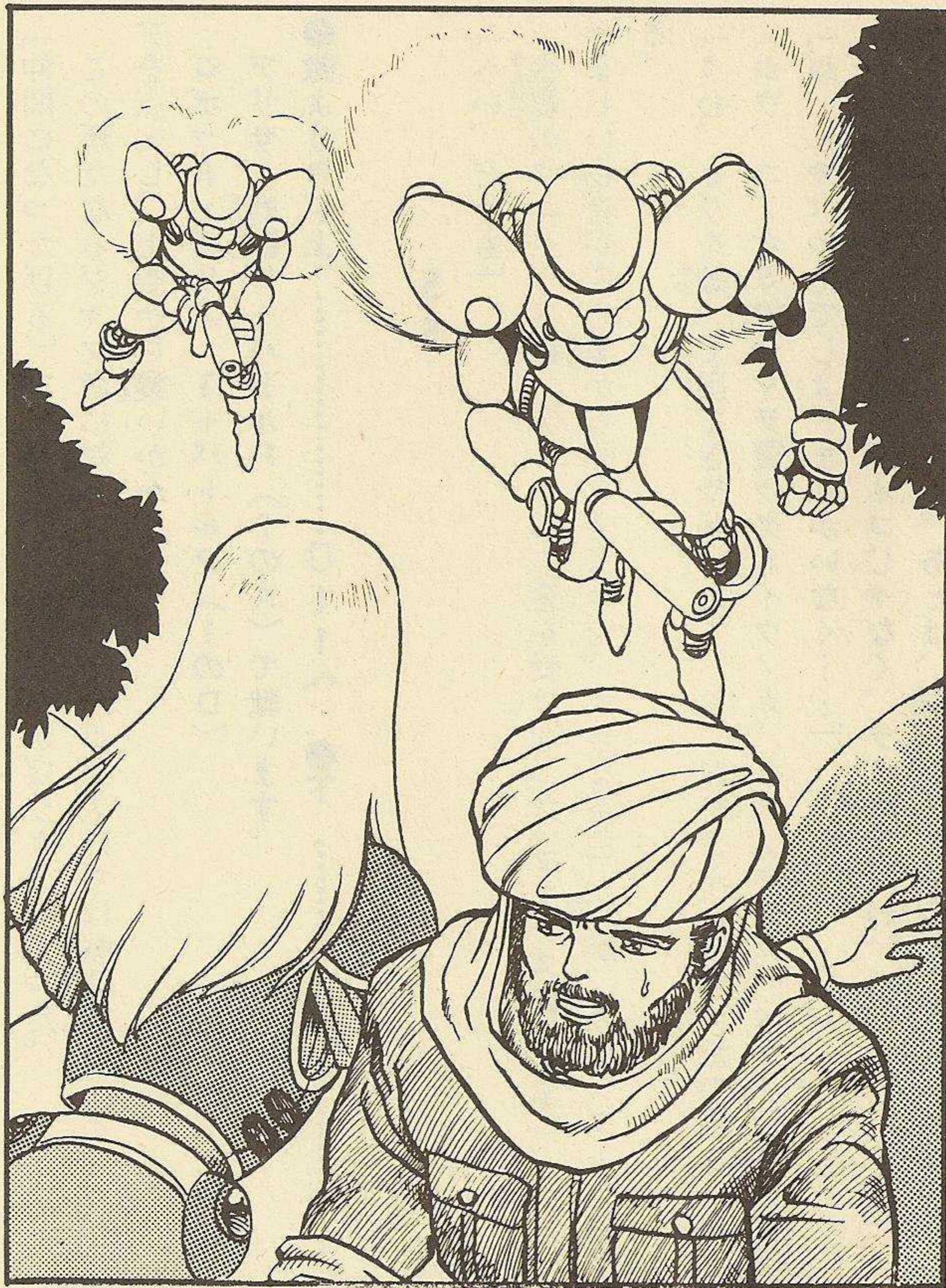
ロボット・ポリスなど、ラシークの手下ではないか！ あんな機械人形けいぎょうごときが人間を殺ころすなんて許ゆるせない！

バスッ！ ロボット・ポリスがガス弾はつしやを発射！ 男の行く手に白い煙けむりが立ちふさがった。男は、悔くやしそうにこちらを振り返ふった。ヒゲ面づらだが、まだ歳としは若わかそうだ。

「くそ、バカロボットども！ オレは何も吐はかんぞ！ きさまらにつかまるくらいなら、ここで死んでやる！ 敵かたきはきつと仲間なかまが……」

「死ぬのは、まだ早いわよ」

「キミは……?」



55●アリサは、青年をかばうように立った。ロボット・ポリスどもは、空中から襲いかかってくる！ どうする!?

「仲間になつたげる」アリサが、その青年をかばうように立つた。

この新たなるジャマ者おそに対し、ロボット・ポリスたちは戦闘態勢せんとうたいせいをとつた。背部はいぶバーニアを点火し、上空から襲おそいかかった！

ロボット・ポリス 3十バトルP (1のD)

アリサ 戦闘P十バトルP (2のA)で戦います。

●敵よりPが上 …………… ↓11へ ●下 …………… ↓81へ

56

「へい、どうも」

金髪きんぱつのクニヌーヌは、アリサから金を受け取つた(マイナス50メセタ)。そのとたん、さまざまの物音が店の奥おくから聞こえてきた。大きな茶色い影かげが、カウンターを飛び越こえてくる。

「うわ、オリを破やぶつて出てきやがった！ お、お客さん、今買ったのがあれだよ！」
へほう、コノ女が俺おれサマヲ買ツタトイウノカ。ウマソウダナペロリと舌したを出す獣けもの。

「ね、しゃべつたでしょ。まちがいなく……」

「でも、あれはどう見ても、ネコじゃなく、ライオンだわ」

「た、ただの大きなネコですよ。あとは、飼かい主にまかせましたよ！」そう言つて、クニ

ヌーヌはすたこらさつさと逃げてしまった。

もちろん、その獣は「ただの大きなネコ」ではなかった。ライオンの体に、コウモリの羽とサソリの尻尾を持つ合成獣——マンチコートだったのだ。

マンチコート 6 + バトルP (1のB)

アリサ 戦闘P + バトルP (2のG) で戦います。

●敵よりPが上 ↓27へ ●下 ↓98へ

57

高さ2メートル近い、大男の石像せきざうだった。しかし、いったいそんなものがどうしてここに.....? アリサは首をひねった。

まさか、かついで持って行くわけにもいかない。アリサはその場をあとにした。L字路を、

●北に行く ↓14へ ●西に行く ↓37へ

58

L字路の曲がり角に来た所で、怪物かいぶつが出現しゅっげんした。真っ赤なぶよぶよした塊かたまり——レッド・スライムが4匹!

レッド・スライム4匹 14+バトルP(1のA)
アリサたち 戦闘P+バトルP(2のG)で戦います。
●敵よりPが上……………↓145へ ●下……………↓83へ

59

アリサは、木々の奥深くおくふかに足を踏み入れていった。昼でもなお薄暗い森の中。パルマ星には、まだまだこういうところがあるという。

アリサは、葉の触れ合う音を聞いて、目線めせんを上げた。(リスかしら……………?)
それは、リスなどではなかった。不気味なひとつ目が、じっとアリサを見おろしていたのだ。コウモリの羽はねを生はやした目玉が――。

「デビルバットだわ！」
ウワサは聞いたことがあるが、実物を見るのは初めての怪物かいぶつだった。幸いさいわ、1匹だけのようだが。

「なによ、その目つき! やるっていうの!」
デビルバット 2+バトルP(1のG)
アリサ 戦闘P+バトルP(2のJ)で戦います。
●敵よりPが上……………↓30へ ●下……………↓4へ

直立^{ちよくりつ}ネズミの群^むれは、きちんとした服を着ていた。青い服のヤツと、茶色の服のヤツら。どうやら、青いほうがビームガンを持って、茶色いほうを追い回しているようだ。

●茶色いほうを助ける …………… ↓ 2 4 へ ●助けしないで立ち去る …………… ↓ 3 5 へ

今度は、十字路に出た。

「うーん、選択^{せんたく}肢^しがいつぱいあるなあ。ど・れ・に・し・よ・う・か・な」

●東に進む …………… ↓ 1 4 へ ●西に進む …………… ↓ 1 1 0 へ 57

●南に進む …………… ↓ 3 7 へ ●北に進む …………… ↓ 8 2 へ

「おじさーん、これちようだい♡」

アーマーショップの親父^{おやじ}は、目を白黒させ、少女と受け取ったばかりの金を見比べた。

「お嬢^{じょう}ちゃん、ホントにその剣を持っていくのかい？」

アリサは、アイアン・ソードを鞘^{さや}から抜^ぬいてにつこりした。ずっしりとした重さが心強い（アイアン・ソードを入手^{にゆうしゆ}して、戦^{せんとう}闘Pプラス1。マイナス30メセタ）。

さて、これから、

●パトリロで情報じょうほうを集める……………↓92へ ●港町シオンみなとまちに向かう……………↓101へ

63

アリサは、男から聞いたツールショップに足を運んだ。御禁制ごきんせいのブーツだけに店の親父おやじはしぶい顔をしていたが、アリサはねばりにねばってロードパスを買うことができた（ロードパス入手。マイナス30メセタ）。とりあえず今は、

●アーマーショップへ行く……………↓5へ ●港みなとのほうへ行く……………↓106へ

64

——その夜。あまりの暑苦あつくるしさのため、アリサは目を覚さました。

「おかしいなあ、エアコンが効きいているはずなのに」もぞもぞとベッドからはい出ると、ドアが外から開いた。

「だれ？」

暗闇くらやみの中に、青白い光が浮うかび上がった。ゾツとするような怪物かいぶつの生首なまくびが見える。

怪物——ナイトメア 20+バトルP（1のE）

アリサ 戦闘P+バトルP（2のJ）で戦せんいます。

●敵よりPが上

.....⇩93へ

●下

.....⇩115へ

65

アリサたちは、まだうごめいているロボット・ポリスから逃げ、別の区画にやってきた。「あんだ、見かけによらず、えらく強いな」と、ヒゲ面の青年。

「運がよかったのよ。ロボポリどもは殺すのが目的じゃなかったようだし。……それより、さつき仲間とか、いろいろ言っていたけど？」

青年は自分のヒゲをいじくっていたが、やがて何かを決意したようだった。

「オレは、反政府活動をやっているんだ。ラシークが首相になってからというものの、隣の星へも自由に行き来できなくなっちゃった。そこでオレは、ニセのロードパスを密売しているってわけさ。シオンに行くことがあれば、そのこのツールショップに寄るがいい。オレの名を出せばタダでくれるはずだ」(Aをチエック)

「ありがとう、それがあれば宇宙空港にも行けるわ」

「それとだ」青年は、持っていたカバンから剣を取り出した。「アイアン・ソードだよ。1本持っていようが、2本だろうが多いにこしたことはない。こんな物騒な世の中だからな」(アイアン・ソード入手。1本目の人だけ、戦闘プラス1)

アリサはもう一度礼を言って青年と別れた。シオンをめざし、海岸へ。⇩101へ

モンスターフライの激しい羽ばたきがアリサの肩を打った（HPマイナス1）。
「痛いじゃないの、この！」

突き上げたアリサの剣がモンスターフライの頭をつらぬいた。緑色の液体をまきちらし、
巨大なハエは地面に突っこんだ（戦闘Pプラス1、プラス5メセタ）。

ホツとする間もなく、別の羽音が聞こえてきた。今度は、鋭い牙とシツポを持ったトン
ボのような化け物、スコーパーラスだ。

スコーパーラス 1+バトルP（1のE）

アリサ 戦闘P+バトルP（2のB）で戦います。

●敵よりPが上 …………… ↓45へ ●下 …………… ↓89へ

宇宙空港のゲート。特別の許可なくして、一般人の立ち入りを許されていない場所だ。

「通つてよし」警備兵は、アリサのロードパスをちらりと見て、そう言った。「ん？ なん
だ、もう行つていいぞ」

（もー、せっかく苦勞（？）して手に入れたんだから、じっくり見てよ。ぶんぶん）
中の建物でパスポートを交付される（手続き料金、マイナス40メセタ）。

赤いボデイの宇宙船に乗りこんだアリサは、胸がおどった。宇宙に出るのは、何年ぶりだろう。幼い自分の手をひく兄の姿がまぶたに浮かぶ。

定刻どおり宇宙船は飛び立った。引力圏を離れ、モタビア星に向かう。 □36へ

68

アリサは、家のそばにあるアーマーショップに入った。そこは、盾専門の店だった。「えっ、お嬢さん、街の外に出るんで。なら、盾を持っていかなきゃ、怪物にやられてイチコロですぜ」と、店のおやじ。

「うーん。でも、高いものばかり。それに、重い盾なんか持てないし……」
「なら、この革製のシールドはどうかね。ないよりはマシって代物だけどね」

(レザースールドを買う人はアイテムリストに記入し、20メセタマイナスすること)

●ネキセの家に行っている …… □40へ ●行っていない …… □21へ

69

アリサは扉の所までやってきた。

「開かないわよ。カギがかかっている」

●ダンジョンキーがある …… □176へ ●ないのでもどる …… □111へ

「それにしても、なぜメデューサを倒そうとしたの？」

洞窟を抜けたアリサたちは森に入っていた。

「ん、あの化け物が持っているという伝説のオノが欲しかったんだよ。でも、逃げられてしまった。もうあの洞窟にはもどつてこないだろうな」

「ふーん」

「まあ、武器ならいくらでも手に入るさ。この近くにエピっていう村があるはずだ。そこ
のアーマーショップで買おう」

ところが、いつまでたつても、村どころか廃虚すら見えない。

「ねえ、同じところをぐるぐる回っているような気がするんだけど……」

「や、しまった！ ここは『迷いの森』なんだ。この特製コンパスを使わなきゃ突破は無
理だ」タイロンは、ポケットからそれを取り出して見せた。

「もう！ そんな便利なものがあるんなら早く出してよ。歩きすぎて、足が太くなっちゃ
う！」

へタイロン、意外とおちやめとミヤウ。

——そうして、やつと一行はエピの村に到着したのだった。

「なあ、アリサちゃん。買い物ですんだら、モタビア星のパセオにいつてみようぜ。あそ

この総督が、けっこうラシークを嫌っているらしいんだ。力になつてくれるかもしれん」
 「それもそうね」アリサはうなずいた。

●Bにチェックがある……………↓197へ ●ない……………↓146へ

71

スケルトンの剣とタイロンのオノが激突！ スケルトンの武器がぼつきり折れた。

「破壊力の差だな。さて、とどめだ——うわっ！」

突然、タイロンがのけぞった。生き残っていたゴールドレンズが頭上から攻撃をしかけたのだ！（HPマイナス1）

「タイロン！」アリサとミヤウが、その空飛ぶ目玉を叩き落とした。

「心配ない、油断しただけだ」

タイロンはすぐに体勢を立て直し、スケルトンを攻撃した！ 一瞬のうちにガイコツは真つ二つになった（プラス50メセタ）。
 ↓2へ

72

港町シオン。——昔は貿易で栄えていたそうだが、港には貨物船はおろか、ちつぽけな漁船さえ浮いていなかった。ラシークが惑星の実権を握って以来、あらゆる交通網に規

制せいがしかれているのだ。このさびれた港町に来たアリサは、

●人に聞いてまわる …………… ↓94へ ●病院に行く …………… ↓43へ

73

「どうした、アリサ？ なにか気にかかることでも」

「え、いや、なんでもないわ。ただ、昨夜さくやの夢ゆめを思い出していただけ」

そう、あれはタダの夢だ。今朝けさ見た総督そうとくの顔に火傷やけどの跡あとがあつたのも、単なる偶然ぐうぜんにすぎない。 ↓122へ

74

アリサは剣をふるつたが、ゾンビは一向いっこうに倒れなかつた。いくら傷つこうが、すでに死んでいる体にはダメージなど関係かんけいないのだ。

ゾンビは、あせるアリサのスキを突つき、抱だきついてきた。異様いように長い爪つめを食くいこませてくる（HPマイナス1）。ピンチ！——と、思いきや、

突然、ゾンビが力を抜き、アリサから離はなれた。ミヤウが後ろから頭に爪つめを立てたのだ。へゾンビの弱点じやくてんは、頭あたまだよ

「そうか！」アリサは、満身まんしんの力をこめて、剣を振り下ろした！ズン！

脳を潰されたゾンビはゆつくりと崩れ落ちた。今度こそ本当に動かなくなった。

「サンキュー、ミヤウ」危機を脱したアリサはL字路を、

●北に進む …………… ↓14へ ●西に進む …………… ↓37へ

75

「強行突破ダトウ！ ナマイキナ小娘メ！」警備ロボットはアリサの頭を叩いた。

「いったあ！ なにすんのよ、コブができたじゃない！」（HPマイナス1）

アリサは剣を抜いてやりかえす。

ズズーン！ 頭のカメラを破壊された警備ロボットは、その場で転倒した。

「あーら、あつけない。おほほ」（戦闘Pプラス1、マジックPプラス1） ↓174へ

76

高さ2メートル近い大男の石像だった。しかし、どうしてここに…………？

「タイロン？」アリサは、石像を見上げてつぶやいた。

メデューサの目には魔力があるという。まさか、タイロンが逆に石にされたとか…………。

といつても、かついで持つて出るわけにもいかない。手のくだしようがなかった。

アリサは、石像の後ろの壁に穴が開いているのを発見した。光が見える。

「洞窟の外に通じているんだわ。入る時、ここを使えばよかった」

ところがアリサが外に出たとたん、土砂が崩れ、その穴はふさがってしまった。

「間一髪！——でも、これからはどうしよう？ 今のままじゃ、何もできないわ」

考えたあげく、アリサはシオンで聞いた「しゃべるネコ」を追うことにした。たしか、パセオの商人に売ったと言っていた。モタビア星のパセオ。

「とりあえず、宇宙空港に行かなきゃ」

↓84へ

77

黒髪のクニヌーヌの店は、町のど真ん中にあつた。

「ほー、しゃべるネコが欲しいのかい？ 値段は50億メセタってところかな」

「ご、50億メセタ！」

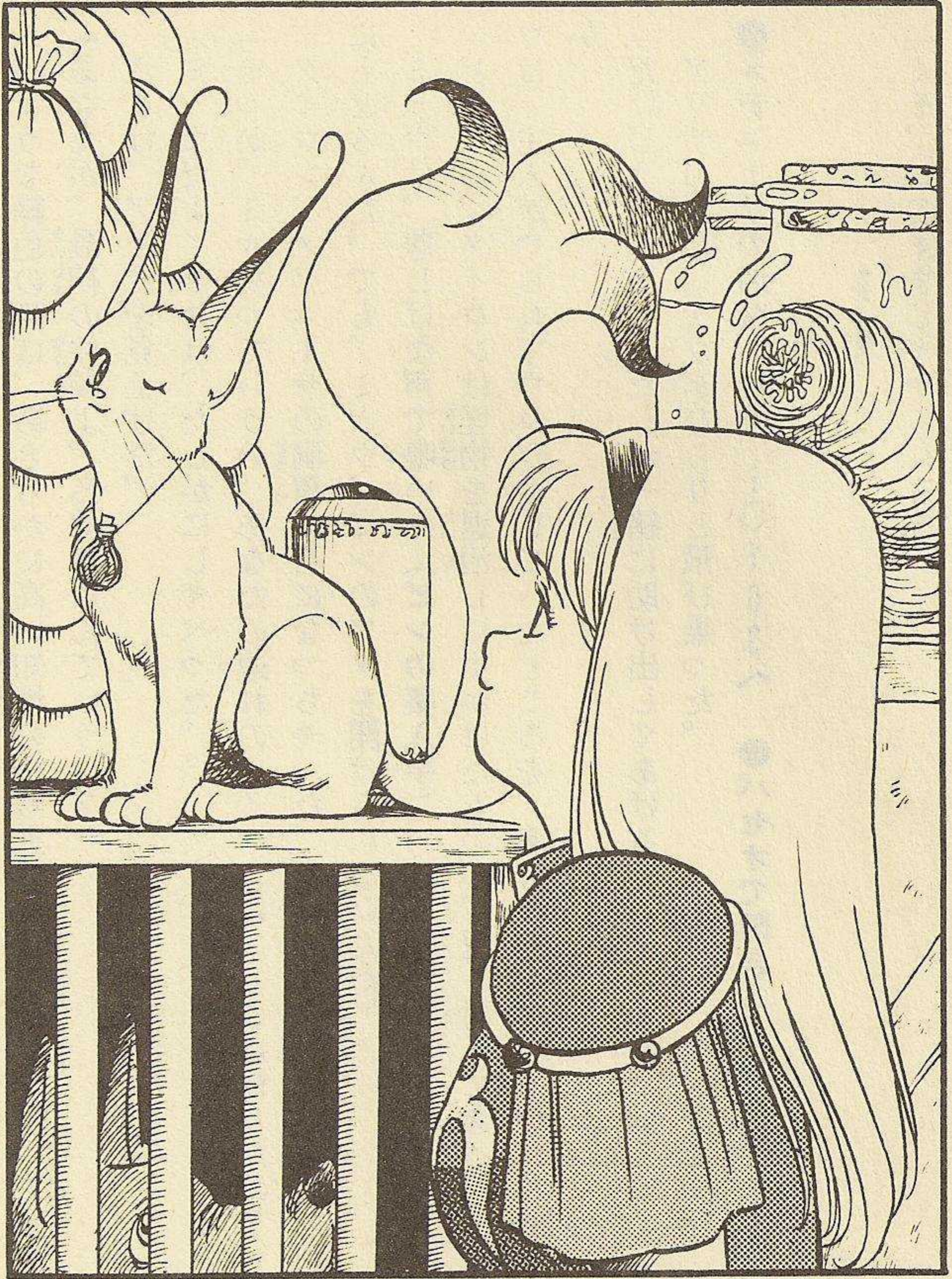
「はは、冗談さ。おや、珍しい壺を持っているね。それと交換ならタダにしてやるぜ」

願つてもない話だ。アリサは壺をクニヌーヌに渡した。兄が残したものが、こんなところ

ろで役に立とうとは（ラコニアン・ポットを失う）。

「さあ、この娘さんが新しいご主人だぞ」

カゴの中から、ゆつくりとネコが出てきた。外見からして普通のネコとは違っていた。長くとがった耳、3本のふさふさした尻尾。そして、首から下げた小さなビン。エメラル



77●「名前はなんていうの」〈ミャウだよ〉ネコはそう答えると、
アリサの^{かた}肩に飛び乗った。アリサに^{なかま}仲間ができたのだ。

ドのような緑色の瞳ひとみは、あきらかに高い知性ちせいの持ち主であることを物語っていた。

「あなたが、最初さいしょの仲間なかまよ。名前はなんていうの？」

ネコは、アリサを見上げた。

「へミヤウだよ」ネコは、たしかにしゃべった。

「そっか。ミヤウっていうの。あなたの連れつれのタイロンは、どこに行つたの？」

へタイロン、メデューサの洞窟どうくつで石になつちやつた。このビンの中の薬をかければ、もとにもどるんだ。でも、ミヤウ、ビンのフタを開けられないんだ」

ミヤウは、悲しげな声で鳴ないた（ビンの薬入手）。

「どうやら、タイロンは怪物かいぶつを退治たいじしに出かけたものの、返り討うちちにあつたようだ。ミヤウは、主人がやられてウロウロしていたところを、商人につかまってしまったというわけか。」

「だいじょうぶよ、わたしが一緒いっしょに助け出してあげるわ」

アリサの肩かたにミヤウがひらりと飛び乗った。

●メデューサの洞窟へ行く …… ↓ 103 へ ●パセオで聞きこみをする …… ↓ 47 へ

「くそ、このままじゃやられるぞ」

と、その時であった。なんとも言えない音色が、どこからともなく流れてきた。不思議なことに、アリジゴクどもはあわてて砂の中に潜っていく。

「どうということ？」

へふう、なんとか間に合いましたわ。良かった、良かった。アリサたちの前に、茶色い服を着た大きなネズミが現われた。手には、これまた大きな笛を持っていて。

「あれ、さっきのモタビアンノーフじゃない」

へこの笛は、アリジゴクの嫌いな音を出すんですわ。お役に立ててうれしいです。

「まあ、なんて素敵なネズミさんなの！」アリサは、モタビアンノーフに抱きついた。

79

波間から、大きな目をした半魚人が姿を現わした。チャーキンだ！アリサの首に巻きついているのは、そいつの長い舌だった。

「く、ばなせ（離せ）」アリサは、その舌に切りつけた。

「シャツ」半魚人は、あわてて舌を引っこめた。しかし、よけい怪物の闘争本能に火をつけてしまったようだ。チャーキンは、すごい勢いで上陸してきた。

先にトゲの生えた舌で、アリサを打ちのめした！このままでは勝てない。ショートソ

ードでは、シャーキンの舌さえも断ち切ることができないのだ（HPマイナス2）。
シャーキンは、ナイフのような大きな爪をぎらつかせた。ぐったりとしたアリサを、引き裂いてしまおうという気だ。

危機一髪！ アリサは、つかんでいた砂を半魚人の顔に叩きつけた！

目を押さえているシャーキンを尻目に、その場を逃げ出す。もう海岸はこりごりだ。

●平原に行く……………⇩18へ ●森に行く……………⇩59へ

80

暗がりの中に、何かが立っていた。アリサは用心しながら、それに近づいていった。

「あれ、石像だわ」

●ビンの薬を持っている……………⇩99へ ●持っていない……………⇩57へ

81

アリサは、降下してくるロボット・ポリスの頭を狙った。そこにあるTVカメラを破壊すれば、ヤツらの動きを止めることができる。

2体、3体……。アリサの剣はすばやい攻撃を繰り返した。しかし多勢に無勢。

「危ない、後ろだ」

だが青年の声も遅く、アリサの背中せなかに痛みいたが走った。背後はいごからの攻撃こうげきをかわしそこねたのだ（HPマイナス1）。

「この、ひきようもん！」振り向きざま、アリサはそのロボポリのカメラをぶち抜いた。そいつが最後の敵さいごだった。

「平気へいきよ、このくらい」アリサは、心配しんぱいそうな青年に苦笑にがわらいを見せた。 ↓65へ

82

何かが前方ぜんぽうから跳ねてきた。緑色のぶよぶよした塊かたまりが2匹。

「げっ、グリーン・スライム！」アリサは思わず、あとずさった。

グリーン・スライム2匹 4+バトルP（1のJ）

アリサ 戦闘せんとうP+バトルP（2のE）で戦います。

●敵よりPが上 …………… ↓41へ ●下 …………… ↓141へ

83

4匹のレッド・スライムが合体し、巨大な怪物かいぶつになった。

「ちよつと、こんなことって——きやつ！」巨大スライムに押し潰つぶされるアリサ（HPマイナス1）。

次の瞬間、スライムの体から、剣が飛び出してきた。アリサが、下から突き刺したのだ！
「ふー、なんて嫌な怪物！」アリサは、タイロンの手を借りてはい出た。

●北に行く……………↓168へ ●東に行く……………↓119へ

84

急いで宇宙空港に向かうアリサ。だが、途中の草原でさっそくジャマ者が現われた。
真つ赤な草の塊がふたつ、彼女の前に立ちふさがったのだ。

「マンイーターね！ いやらしい食肉植物！」アリサは剣を抜いた。

マンイーター2匹 3+バトルP (1のH)

アリサ 戦闘P+バトルP (2のF)で戦います。

●敵よりPが上……………↓50へ ●下……………↓16へ

85

アリサは、飛び出してきたサンドワームの頭(?)を切り落とした。

「なんだ、見かけ倒しのヤツ」アリサは、ちぎれた頭を足で蹴とばした。

「危ない！」

突然、サンドワームの頭が跳ね上がり、アリサを直撃した！

「げふ！」(HPマイナス！)

頭は、独力で砂に潜りこんでいった。

「いたた……なんなの、あのミミズの化け物」アリサは腹を押さえて立ち上がった。

「ああいう原始的な生き物は、しぶといヤツが多いんだよ。——む。アリサ、また変なのが出てきたぞ」

崖の向こう側から、何十人もの一団が現われた。直立して歩くネズミのような連中だ。まだそいつらは、アリサたちには気づいていないようだが。

●様子を見る …………… ↓60へ ●立ち去る …………… ↓35へ

86

つかまったら、おしまいだ！ アリサは、ロボット・ポリスの股の間をくぐった。だが、もう一体がすぐ目の前にたちふさがる。

「どいてよ！」アリサはショートソードで切りつけたが、ロボポリのボディにはかすり傷しかつかない。逆に、鉄の腕の一振りで、道路に叩きつけられてしまった。激痛に、一瞬、息がつかまる。

「う……。なんてことすんのよ！ バカロボット！」

「こつちよ、アリサ！」

声と一緒に、何か飛んできた。とたんに、黒い煙がモウモウとたちこめる。アリサは、咳こみながら、ビルとビルの上に飛びこんだ。

「ゲホゲホ、スエロおばさん！」

「しっ」そこに潜んでいた女性は、口の前に指を立てた。

ロボポリたちは気づかないまま通りを歩いていく。

「もうだいじょうぶよ」その女性は、アリサの唯一の肉親、叔母のスエロだった。「危険だから、仇討ちなんてやめなさい……なんていつても、聞く娘じゃないわね。でも、最初から強い敵と戦っても、勝ち目はないわよ。戦いで傷ついたときは、いつでもうちにいらつしやい。ヒール（治療）のマジックで治してあげるわ。絶対、無理をしないでね」

「ありがとう、叔母さん。兄の敵を討つまで死ぬわけにはいかないわ」

●アーマーショップへ行く………↓68へ ●居住区の外へ………↓40へ

87

通路の向こうから、巨大なクモが2匹やってきた。わさわさと脚をうごめかし、アリサたちの前に立ちふさがる。

「タランチュラよ！」

タランチュラ2匹 15+バトルP (1のF)

アリサたち 戦闘P+バトルP(2のD)で戦います。

●敵よりPが上 ↓19へ ●下 ↓49へ

88

バサバサバサ……。アリサの頭上で、羽音が響いた。

見上げると、ひとつ目が彼女をにらみ返してきた。巨大な目玉に、羽を生やした不気味な姿。洞窟内に生息する怪物、ウイングアイだ！それが2匹！

ウイングアイ2匹 3+バトルP(1のC)

アリサ 戦闘P+バトルP(2のI)で戦います。

●敵よりPが上 ↓20へ ●下 ↓42へ

89

その羽音は、まるで金属をこすり合わせるような音だった。スコープピラスは、まだ準備のとのつていないアリサに襲いかかった！

もつれ合うように地面を転がる少女と怪物。やがて、甲高い悲鳴とともに、両者の動きが止まった。

「はあ、はあ……。いきなり襲いかかってくるなんて、このスケベ虫！」

傷ついた体をかばうように、アリサは立ち上がった。地面には、首を切られたスコープラスが横たわっている（HPマイナス1、戦闘Pプラス1、プラス10メセタ）。

再び歩き始めたアリサ。その行く手に、パトリロ居住区のゲートが見えてきた。

●パトリロ居住区に入る …… ↓23へ ●森へ行く …… ↓59へ

●海岸へ行く …… ↓101へ

90

「ホウ、しよーとけーきカ。ケツコウケツコウ。——ム！ コ、コレハ！」

「その上に乗っているイチゴが、どうかしたの？」

「コレはいちごナドデハナイ！ 御禁制ノ『らえるまべりー』ダ！ オマエラ何者ダ！」

警備ロボットがそう言ったとたん、床が割れ、アリサたちは真つ逆さま！

「痛いなあ、もう！ 落とし穴なんて、ひきようよ」（HPマイナス1。戦闘Pマイナス2）

「どうなってるんだ？ 御禁制とかなんとか言ってたが……」（Cをチエツク）

アリサたちは、体をさすって立ち上がった。無傷なのは、うまく着地したミヤウだけだ。

そのミヤウの目が、闇の中に潜む敵の姿をとらえた。

赤いボディーのロボット——マシンガーダーだ。

マシンガーダー 12 + バトルP (1のB)

アリサたち 戦闘P+バトルP(2のE)で戦います。

●敵よりPが上 …………… ↓117へ ●下 …………… ↓143へ

91

「あっ！」足をよろめかせた瞬間、アリサはアリジゴクの巢の中に落ちていった。
 「アリサ！」タイロンが手を伸ばす。だが、間に合わない！ たちまちアリサの体は砂の中に没し、見えなくなった。あとはアリジゴクに体中の生き血を吸われるのみ……。

END

92

「え、おたく、シオンに行くんですって。やめたほうがいいわよ。海岸線には、恐ろしく強い怪物が出るのよ」と、デブのおばさんが言った。アリサが道で声をかけたおばさんだ。「その話は知ってるわ。有名ですもん」しかし、とアリサは思った。たかが怪物の1匹や2匹に恐れをなしては、打倒ラシークなど夢のまた夢だ。

——その時、悲鳴のような声が聞こえた。振り向いたアリサの目に、あわてて走る男の姿が映る。ロボット・ポリスに追われているのだ！ 犯罪者か、それとも……。

●男を助ける …………… ↓55へ ●助けない …………… ↓34へ

「アリサ、敵か!? 入るぞ!」

タイロンとミヤウが、アリサの寢室しんしつに飛びこんできた。

彼らはナイトメアの姿すがたを見て、一瞬いつしゆん立ちすくんだものの、すばやく攻撃こうげきに入った。だが、怪物かいぶつは想像そうぞうを絶ぜつする強敵きやうてきだった。

タイロンのオノも、ミヤウの牙きばも、ナイトメアにはかすり傷きずさえ与あたえられなかった。怪物の目に、不気味ぶきみな光がともった。とたんに、タイロンらは身をすくませ、床ゆかに転ころがる。金縛りかなしばりにあつたのだ。

抵抗ていこうできない彼らを、ナイトメアはやすやすとかみ砕くだいてしまった。

「タイロン! ミヤウ! ——ああ!」

見えない力が、アリサを揺ゆさぶり、床とこに叩たたきつけた。アリサは、もうろうとした頭で思った。この怪物には普通ふつうの方法では勝てないと……。

●マジックPが3以上 …………… ↓51へ ●2以下 …………… ↓29へ

「あんた、タイロンを探さがしているんだって?」男はそう話しかけてきた。

いろいろと聞きこみをやっていたアリサは、酒場さかばの裏手うらてでこの男に会ったのだった。

「ええ。あなたが、タイロン……さん？」

「まさか。オレはあんな立派な勇者なんかじゃない。タイロンはここにはいないよ。メデューサ退治に出かけていった。もう2日になるな」

「メデューサですか……」

「ああ、ラシークが甦えらせたという、恐ろしい化け物さ」ここで男は、アリサを値踏みするような目で見た。

「ふむ。どうやら、あんたもタイロンと目的は同じようだな。ラシークを狙っているのなら、良いことを教えてやろう」

男は、ロードパスを密売しているツールショップの場所を教えてくれた。

●Aにチェックがある …………… ↓25へ ●ない …………… ↓63へ

95

アリサたちは、怪物ども相手にあばれ回った。

アリサとミヤウがゴールドレンズを引き裂き、タイロンがスケルトンを打ち砕いた！

「ふう、いい運動になったぜ」(戦闘Pプラス1、プラス50メセタ) ↓2へ

突然、冷たい空気が床をはってきた。吐く息が白くなるほどの寒さだった。ミヤウが、低いなり声をあげた。敵の接近に気づいたのだ。

冷たいもやの中に、青い色をしたヘビがとぐるを巻いていた。その太さが、アリサの胴よりもあるという大蛇——フレイムリザードであった。

フレイムリザード 17+バトルP (1のJ)

アリサたち 戦闘P+バトルP (2のA) で戦います。

●敵よりPが上 …………… ↓22へ ●下 …………… ↓54へ

青いヤツらがアリサたちに気づいた。銃口をこちらに向け、撃ちまくってくる。

ヤツらのビームにはそれほどの威力はない。皮膚に当たっても軽い火傷をする程度だ。

しかし、こう数が多くては始末が悪い。

アリサがようやく、青ネズミを蹴ちらした時、すでに茶色ネズミは全滅していた。

「あたしらにとっては大したことのない武器でも、このネズミたちにとっては命とりだったのね」

「残念だったな。助けられなくて……」タイロンは、アリサの肩に手をやった。

一行は、大岩をぐるりと回りこむように進んでいった。

⇩170へ

98

マンチコートは、いきなり飛びかかってきた。鋭い牙から、身をかわすアリサ。だが、この怪物にはもうひとつの武器があった。

尻尾がするりと伸び、アリサの左腕を刺したのだ！（HPマイナス2）

「このー！」痛みをこらえ、彼女は猛然とマンチコートに切りかかる。その刃は、深々と怪物の腹に食いこんだ！

へגיעーツ！ 痛い、痛い、痛い、血が出る、血が出る！ ガクン

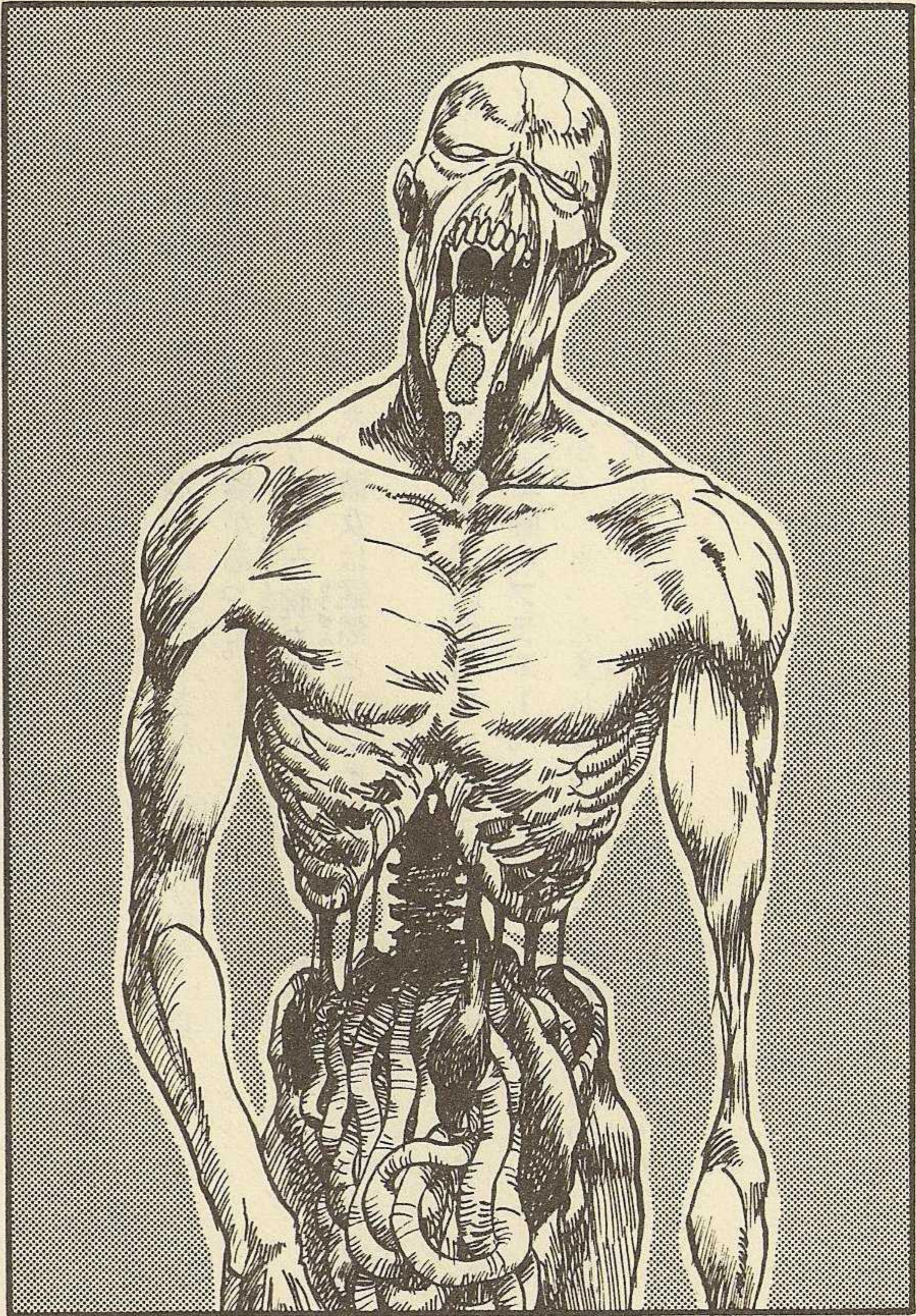
マンチコートは、死んだ（戦闘Pプラス1）。

「せっかく口がきけるんだから、もつとまじなこと言っただけで死ねばいいのに。バカなヤツ」
アリサは傷ついた腕をさすりながら、黒髪のクニヌーヌの店に向かった。 ⇩77へ

99

「もしかして、これがタイロン？」

アリサは、石像を見上げて、つぶやいた。メデューサの目には魔力があるという。にらまれたものは、たちどころに石になってしまおうというのだ。



99●クスリをかけると、^{せきぞう}石像^とが溶けはじめた。服どころか、^{ひふ}皮膚
までもドロドロになっていく。「これがタイロン!？」

「ミヤウ、そのビンの薬を貸して」

アリサは、小さな仲間の首にかかっている小ビンを取った。中には、アルシュリンという特殊な薬品が入っている。

へそれを上からかけるんだ。半分だけでいい

シユーツ。たちまち石像の表面が変化を始めた。灰色一色だったものが、色づき始め、柔らかみを帯びてくる。

やがて、ひとりの大男が姿を現わした。

「キヤツ！ ミヤウ、この薬は効きすぎよ。服まで溶け始めたわ」顔を手で覆うアリサ。

ところが、薬の効果はそれ以上だった。さらに皮膚までもドロドロに溶け出したのだ！

「タ、タイロンが！」

へ違うよ、アリサ。こいつはタイロンなんかじゃない。ゾンビだ！ メデューサのしかけたワナだったんだ！

ゾンビ 6 + バトルP (1のF)

アリサたち 戦闘P + バトルP (2のJ) で戦います。

●敵よりPが上……………↓120へ ●下……………↓74へ

ガシコの村にもどった一行。

「ルベノ博士、あなたに会いたかったのは宇宙船を造っていたただきたかったからです」と、ルツがきりだした。

「3惑星を自由に行き来できなくては、ラシークを探することはできませんからね」

「よかろう。ただし、製作費が2000メセタかかるぞ。キミたちに払えるかね？」

●2000メセタある……………↓164へ ●ない……………↓129へ

いつまでも飽きることなく往復運動を繰り返す波、また波。アリサは、潮のにおいを嗅ぎながら波打ち際を歩いていった。海岸に出て、かれこれ1時間はたつだろうか。

「変ねえ。海岸には恐ろしい怪物がいるはずなのに」

——その矢先。まるでアリサの声を聞いたかのように、海のほうで動きがあった。波間から赤いムチのようなものが伸び、彼女の首に巻きついたのだ！
「く、苦しい……」アリサは、濡れた砂の上に引き倒された。

●アイアン・ソードを持っている……………↓52へ

●持っていない……………↓79へ

102

箱はこを聞けたとたん、針はりが飛び出し、アリサの腕うでを傷きずつけた（戦闘Pマイナス1）。
 「痛いいた！ なんだってこんな所にワナがあるのよ」

「うかつに開けるほうが——」タイロンは、怖こわいアリサの顔を見て口をつぐんだ。

●東に進む …………… ↓189へ ●南に進む …………… ↓58へ

103

再び宇宙船ふたたびうちゅうせんに乗り、アリサはパルマ星にもどってきた。すぐに町を出て、メデューサの洞窟どうくつに足を運ぶ。ミヤウは落ちつかないげに、アリサのまわりを跳とび回った。 ↓127へ

104

アリサは、あらためてまわりを見渡した。淡あわいセピア色を基調きちようとした、落ちついた感じの部屋へや。総督そうとくは、いかにも砂漠さぼくの星の統治者とうちしやらしい、けだるげな感じの人物じんぶつだった。
 「まったく、あのラシークがアルゴル太陽系3惑星わくせい連合の実権じっけんを握にぎってからというものの、このモタビアにも、無理難題むりなんだいを持ちかけよる。わが情報部じようほうぶの調査ちようさによると、ヤツは邪教じやくきようのものものと手を結びむすび、3惑星を魔界まかいに引きずりこもうとしているとか……」
 「そうかもしれませぬ。ここに来るまでに、さまざまな怪物かいぶつどもが現ありました」

「しかし、はつきりと証拠しやうこがないかぎり、いかにわしでも手は出せん。もつとも……」
ここで、総督はちらりとアリサたちを見た。

「政府や王とは関係のないものが、勝手に戦うぶんにはかまわんがね」

「総督もなかなか食くわせ者ですなあ」と、タイロン。

「ハハハ、よく言った。どれ、長旅で疲れつかれたろう。今夜は、ここでゆつくりと休むがよい」

↓64へ

105

先手必勝せんてひつしょう！ 相手めがけ、全員の武器が炸裂さくれつした。ロボットは、たまらず白煙はくえんを噴ふき上

げ、爆発ばくはつした！

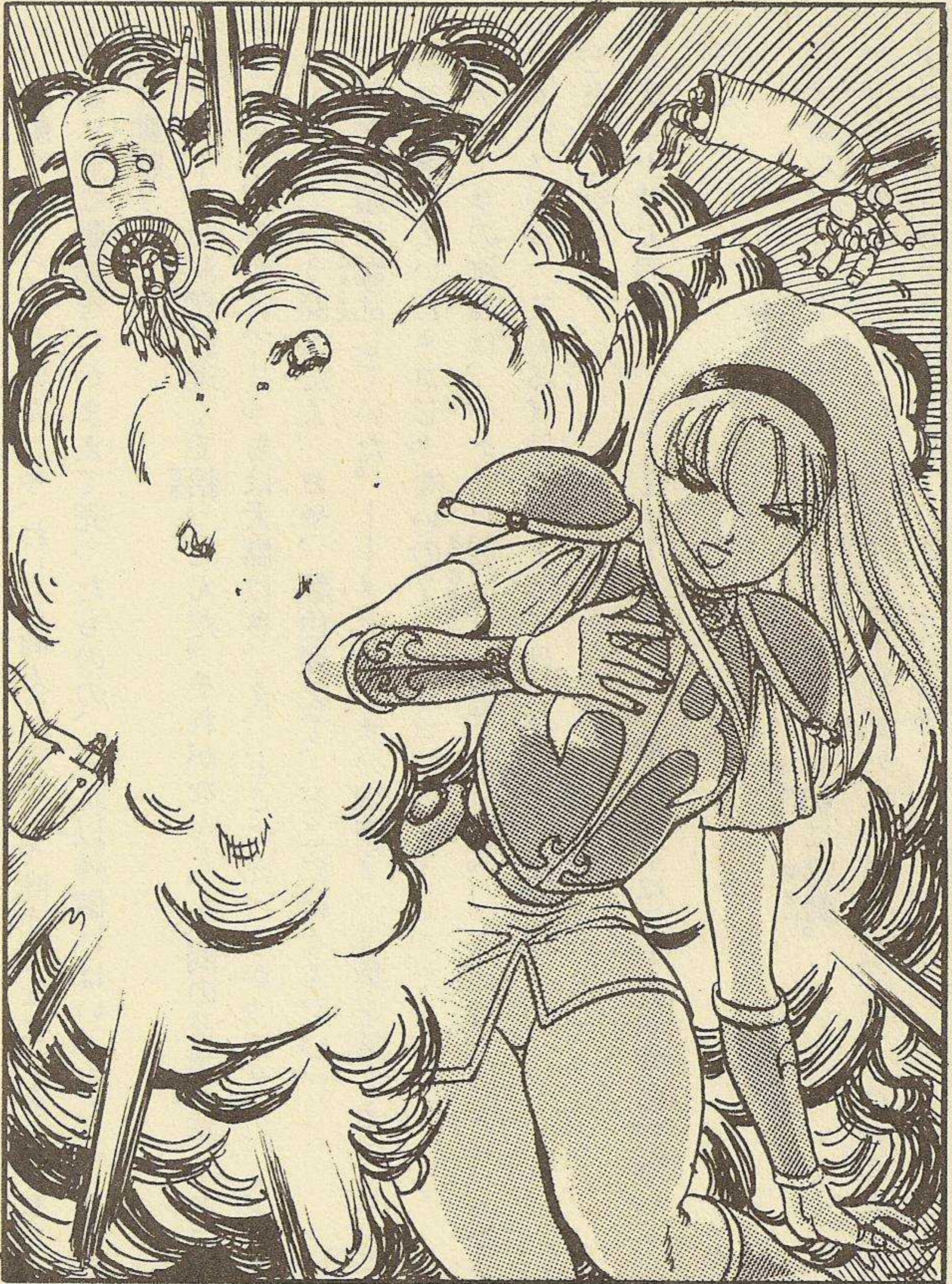
飛び散る破片はへんがアリサたちを傷きずつけた（戦闘せんとうPマイナス1）。

「あたた。でも、あつさり片づいてよかったね。——あれ、さつそく分かれ道よ」

●東に進む …………… ↓181へ ●西に進む …………… ↓31へ

106

コンクリートで固かためられた岸辺きしべに、波が白く砕くだけ散ちる。人ひと気もまばらな港みなとだが、アリサはそこで耳よりな話を聞いた。



105●^{けいび}警備のロボットは、^{はくえん}白煙を^ふ噴き上げ、^{ばくはつ}爆発した！ ^ち飛び散る
^{はへん}破片が^{きず}アリサを傷つける。血が^{はだ}白い肌を流れた。

「こう船も寄りつかないんじゃないや、わしら商人にとつちや商売もなにもあつたもんじやない。2日前に変な動物をつかまえて売ったものの、それ以外儲けはいっさいなしさね」
「変な動物？」

「メデューサの洞窟の近くで拾つたんだ。それがなんと、人間の言葉を話すネコなんだよ。珍しいだろ。おかげでこつちは大儲けさ。え、どこに売つたかつて？ パセオにいる、クニヌーヌつていう商人だよ。おや、顔色変えて、どこに行くんだい」

アリサの頭は混乱していた。——メデューサの洞窟？ 言葉を話すネコ？ それってタイロンの連れていたネコじゃないの？ タイロンはどうなつたつていうの？

メデューサの洞窟は、パトリロ居住区の近くにある。パセオは、モタビア星の首都だ。ロードパスを持っているアリサにとっては、行けない所ではない。

どちらに行くか？

●メデューサの洞窟 …… ↓ 127 へ ●パセオに行くため宇宙空港へ ↓ 84 へ

107

タイロンはニードルガンで応戦した。だが、多勢に無勢。

アリサたちは、じわじわと崖の奥のほうに追いこまれていった。その先の地面一帯には、土まんじゅうのようなものがひしめいていた。

そこまで来ると、急にネズミたちは姿を消した。

「いかん！ ヤツらにはめられた。急いで、ここを出るんだ！」

だが、遅かった。土まんじゅうが一齐にくぼみ、その底から巨大なアリジゴクの大群が姿を現わした。

●Jにチェックがある …………… ↓78へ ●ない …………… ↓48へ

108

アリサは、飛び出してきたサンドワームの頭(?)を切り落とした。そこから下の9メートルほどの部分が、あわてて砂の中に潜っていく。頭は狂ったようにあばれ回っていたが、やがて動かなくなった。

「ふー、見かけだおしのヤツ」(戦闘Pプラス1、マジックPプラス1)

「アリサ、また変なのが出てきたぞ」

崖の向こう側から、何十人もの一団が現われた。直立して歩くネズミのような連中だ。まだそいつらは、アリサたちに気づいていないようだが。

●様子を見る …………… ↓60へ ●立ち去る …………… ↓35へ

109

北の壁かべにドアがひとつ。東西に通路は延のびている。

●東に進む……………↓132へ ●西に進む……………↓181へ

●ドアを開ける……………↓159へ

110

T字路に出た。どちらに進むか？

●北に進む……………↓88へ ●南に進む……………↓8へ

●東に進む……………↓61へ

111

十字路に出た。北側の通路には、扉とびらが見えるが……………。

●東に進む……………↓151へ ●西に進む……………↓87へ

●南に進む……………↓140へ ●北に進む……………↓69へ

112

セントールは、タイロンのオノを盾たてで受け止めた。すかさず剣で切り返してくる。

「く、なんでこんな強いヤツが、牢獄に!？」

セントール 19 + バトルP (1のD)

アリサたち 戦闘P + バトルP (2のH) で戦います。

● 敵よりPが上 …………… ↓ 154へ ● 下 …………… ↓ 196へ

113

暗がりの中に大きなものが立っていた。アリサは目を凝らした。

「石像だわ。……もしかしてこれは？」

● ビンの薬を持っている …………… ↓ 39へ ● 持っていない …………… ↓ 76へ 91

114

通路を西のほうに進んでいった。奥に鋼鉄製の扉がある。

「このダンジョンキーで開くみたいよ。——ルベノ博士! あ、博士がガイコツに!」

「違う、こいつは敵だぜ!」

部屋から出てきたのは、剣と盾を装備したガイコツ兵士——スカルソルジャーだった。

スカルソルジャー 16 + バトルP (1のB)

アリサたち 戦闘P + バトルP (2のC) で戦います。

115

「タイロン！ ミヤウ！ 総督！」

アリサは叫んだが、ナイトメアは特にそれを止めようとはしなかった。怪物の生首は、じつとアリサを見下ろしていた。

その不気味な視線にさらされ、アリサは鳥肌がたった。冷たい汗がじつとりと額に浮かぶ。

（——なあに、この怪物は？ なにか、今までの怪物とはどこかが違う）

アリサは、枕元から剣を取り出した。それで挑発するが、ナイトメアはのつてこない。

「アリサ、敵か!? 入るぞ！」

タイロンとミヤウが、アリサの寝室に飛びこんできた。

彼らはナイトメアの姿を見て、一瞬立ちすくんだものの、すばやく攻撃に入った。

だが、怪物は想像を絶する強敵であった。

攻撃をかわしたナイトメアは、目を妖しく光らせた。とたんに、タイロンらは身をすくませ、床に転がった。金縛りにあつたのだ。

抵抗できない彼らを、ナイトメアはやすやすとかみ砕いてしまった。



115●^{かいぶつ}怪物は、^{おそ}恐ろしい強敵だった。タイロンとミャウは殺され、アリサも、床にたたきつけられた。そして……。

「タイロン！ ミヤウ！」

アリサは、叫んで切りかかった。しかし、剣は怪物の向こう側にすつと吸いこまれてしまった。

「剣が効かない！ —— ああつ！」

見えない力が、アリサを揺さぶり、床に叩きつけた。もがく彼女を待っていたのは、ナイトメアの鋭い牙だった。それはアリサの心臓をえぐった。

↓9へ

116

突然、すごい衝撃が一行を見舞った。ドラゴンの長い尻尾が、思いがけない方向からアリサたちを打ちすえたのだ！（HPマイナス2）

木々の陰に隠れてよく見えなかったが、グリーン・ドラゴンは思ったより巨大だった。

●HPが4以上 …………… ↓191へ ●3以下 …………… ↓163へ

117

マシンガードは、手にしこまれたビームガンを発射してきた。

「ち、またロボットか？」

「これは、戦闘用のマシンガードってヤツよ！ でも——」ビームをかわし、アリサは

そのロボットに挑みかかった。

「弱点は、普通のロボットと同じ！」頭のTVカメラを、剣で突き刺す！ さらにタイロ
ンが、オノでマシンガーダーの首を切り落とした。

「危ない、ふせろ！」

切り口から、青白い火花を散らしたあと、マシンガーダーは、爆発した（戦闘Pプラス
1、マジックPプラス1）。

「ふー、おかげで壁に穴が開いたぜ。あそこから出られる」

↓174へ

118

サーペントの口から伸びた炎の舌が、廃屋をなめまわした。

「肉体労働は苦手ですが……」

ルツは、ひらりと舞い上がり、サーペントの額を杖でひと突きした。大蛇はビクンと体
を震わし、急に動かなくなってしまった（戦闘Pプラス1、マジックPプラス1、プラス
50メセタ）。

「神経をマヒさせたのか……。やるな」と、タイロン。

「ただの人まねですよ。さあ、この森を抜ければ、すぐにガシコの村です」

↓44へ

119

L字の曲がり角^{かど}に出た。曲がるか、もどるか？

●西に進む

.....

⇩58へ

●北に進む

.....

⇩189へ

120

「く、くさいじゃないのお」

それもそのはず、ゾンビはすでに肉まで腐^{くさ}っていた。アリサがいくら切りつけても、この肉がそげるだけで、ひるむ気配^{けはい}さえ見せない。

ところが、ふいにゾンビが頭を押さえた。ミヤウが後ろから爪^{つめ}を立てたのだ。

「そうか。ゾンビは頭を破壊^{はかい}すればイチコロだっけ。どいて、ミヤウ」

アリサは、満身^{まんしん}の力をこめて、剣を振り下ろした！ズン！

脳^{のう}を潰^{つぶ}されたゾンビは、ゆっくりと崩^{くず}れ落ちた。今度こそ本当に死んだのだ。

危機^{きき}を脱^{だつ}したアリサは、L字路を、

●北に進む

.....

⇩14へ

●西に進む

.....

⇩37へ

121

「なんじゃ。また来たのか。キミたちもしつこいのう」と、ルベノ博士^{はかせ}が言った。

●Eにチェックがある……………↓158へ ●ない……………↓195へ

122

パセオ市内を出て5分もすると、もう砂漠地帯に足を踏み入れていた。

「モタビア星は、宇宙から見ると赤かったろう。大半が砂漠なんだよな、この星は」

やがて一行は、まだ風化していない崖の一角にたどり着いた。

「この崖の奥に『マハルの洞窟』とやらがあるそうだが」

「見て、あの大きな岩。まるで山みたい」

赤茶けた巨大な岩が、道を左右に分けていた。

●右に行く……………↓170へ ●左に行く……………↓148へ

123

「変よ、半魚人たちは、あの男の所に向かっているわ」

いち早く、アリサとミヤウが、その間に割りこんだ。続いて、タイロンとルツがマーシ

ーズの退路を断つ。前後からはさみ打ちで、勝負はあっさりとした(戦闘Pプラス1、

プラス150メセタ)。

「あ……ありがとう」

倒れていた男は、手をアリサに差し出した。その手からは鋭い爪が伸び、ウロコがぎっしりと生えていた。——マーシーズの手！

「驚きましたか。じつは、怪物の半分は、もともと人間。みんな、ラシークの手によって改造されているのです。ぼくは、手術の途中で逃げだしてきたわけですが……」

アリサは、自分たちのことをその男に話した。

「ロボットですか……。たしか、バルデボの村のスクラップ置き場にあるというウワサを聞いたことがあります。ポリメテールという薬を使えば、探すことができるでしょう」

「ありがとうございます。あなたもわたしたちと一緒に行きましょう」

男は力なく笑った。

「ダメですよ。改造が中途半端なところで逃げたんで、そう長生きできないんです。でも、あんな溶岩の中で生きるより、地面の上で死ねて、よ、よかつ……。た……」(Fをチエック)

アリサたちは、男を溶岩地帯の外に運び、ていねいに埋葬した。

⇩ 156 へ

124

エピの村を出て、さらに『迷いの森』を出る。モタビア行き最終便が出る前に、宇宙空港にたどり着きたかった。——ところが。

「む！ 雲行きが悪くなってきたようだな」

ふたりの頭上ずじょうに、無数の影かげが舞まっていた。空飛ぶ目玉——ゴールドレンズの大群たいぐんだ。
 へ向こうからも来たよ

木の陰かげから、白骨はっこくがガチャリと立ち上がった。手に剣と盾たてを持ったスケルトン。

●ニードルガンを持っている …… ↓ 1 3 へ ●持っていない …… ↓ 5 3 へ

125

岩石地帯を避さけ、進んでいく。

「さっそく変なヤツがつけてきたな」と、タイロンがつぶやいた。

「気がついていましたか……。3匹ですね」すぐにルツが応こたえる。

3つの影が空から舞まい降り、一行を取り囲んだ。コゲ茶色の体毛で覆おおわれたコウモリ男たち。同系列どうけいれつのバットマンより大型のクライオンどもだ！

「ふんだ、あたしだって気づいていたわよ！」アリサがそう言って、剣を抜ぬいた。

クライオン 3匹 17 + バトルP (1の1)

アリサたち 戦闘P + バトルP (2のB) で戦います。

●敵よりPが上 …… ↓ 1 5 2 へ ●下 …… ↓ 1 9 3 へ

ローアの村に着いた。この村のアーマーショップには、なかなか物がそろっているとの評判だが……。

○ヒートガン 100メセタ（熱線銃。ニードルガンを持っている人は、それを下取りに出すことによつて、50メセタで買える）。

○サーベルクロー 100メセタ（ミヤウ用の武器）。

（それぞれ買った物の値段をマイナス。ひとつ買うごとに戦闘Pを1ずつプラス）

これからどこへ行くか？（ポリメテールのある人は、バルデボの村へ）

●バルデボの村に行く……………↓210へ ●アビオンの村に行く……………↓223へ

洞窟の入り口をのぞきこむアリサ。はたして、怪物メデューサはいるのだろうか？

彼女は、胸をドキドキさせながら、中に足を踏み入れた。

暗く、じめじめした洞窟内。

いきなり2方向に道が分かれているが。

●北に進む……………↓88へ ●東に進む……………↓61へ

128

●Eにチェックがある……………↓150へ ●ない……………↓171へ

129

「ないのか……。しかたがない、こうしよう。ガシコの村の南の谷に『竜の巣』がある。そこに、みごとな宝石ほうせきがあるそうじゃ。換金かんきんすれば、200メセタくらいにはなるはず」
——というわけで、谷にやってきたアリサたち。

「ねえ、『竜の巣』って、あれじゃない。木の枝えだが組み合わさって……。わあ、大きな宝石があるわ！」

「その前に、あのドラゴンを退治たいじする必要があるそうですけどね」

ルツがさし示す木の陰かげから、グリーン・ドラゴンの凶悪きようあくな顔が見えた。

●マジックPが4以上……………↓188へ ●3以下……………↓147へ

130

アリサは飛び上がった。空中から一気に剣を振り下ろす。

だが……。彼女は、自分の目を疑うたがった。サイボーグメイジが、片手で剣を受け止めたのだ。タイロンのオノも、ミヤウの牙きばもまるでダメージを与えていなかった。

「人の話はしつかり聞いておくものだぜ。機械の体だと言ったろうが！」
機械魔道士は、アリサを床に叩きつけた。そして、ダイヤの杖で、彼女の胸を刺しつらぬいた。

END

131

アリサは、空中に停止している敵に切りかかった。だが、硬い殻にはじかれる。

「ち、そこか！」彼女は、殻の一部が開くのを見て、刃先を返した。——だが、そこから毒液がほとばしると、剣が突き刺さるのは同時だった！

アンモナイトは落下し、青い血をなびかせ、海面から消えていった。

「だいじょうぶか、アリサ！」ほかの3匹を退治したタイロンたちがやってきた。

「平気よ。少し体がしびれるだけ……」（HPマイナス1）

↓156へ

132

進んでいくと、突き当たりにドアがあった。ダンジョンキーを使って開けてみる。

「だれでい？ なんだ、この小娘はあ」中にいた髭だらけの男がわめいた。

「ルベノ博士……じゃなさそうね」

「け、オレはそんなんじゃないやねえや。スリのシルバー・ネクスト様たあ、オレのことよ」
 「関係ないみたい」一行は、その男を無視して、外に出た。 □109へ

133

「50メセタ入ってるわ、ラツキー」(プラス50メセタ)

「もらっていいのかねえ」

「こんな所に置いておくのが悪いのよ」アリサは平然と答えた。

●東に進む …………… □189へ ●南に進む …………… □58へ

134

「待つてください。どうやら、敵意は持っていないようです」ルツがタイロンを制した。

「どうしてわかる？」

「テレパシーというヤツですよ」それからルツは、本格的にそのセントールと話を始めた
 (マジックPマイナス1)。——そして、わかったことがいくつか。

セントールが親衛隊の一員なのは事実だ。しかし、ラシークのやり方に不満を持ち、それを訴えたため牢獄に入れられてしまったこと。

アビオンの村にポリメテルを買いに行ったところをつかまったこと。

「ポリメテール？」

「ラコニア以外のものなら、なんでも溶かしてしまおう薬らしいです」

アリサは、セントールと一緒にこないかと誘ったが、騎士は首を振った。もはや、自分にはどこにも居場所がないと言つて。

一行は、その部屋を出た。

⇩ 181へ

135

青いヤツらが、アリサたちに気づいた。銃口をこちらに向け、撃ちまくってくる。

「うわっ！」

「タイロン」

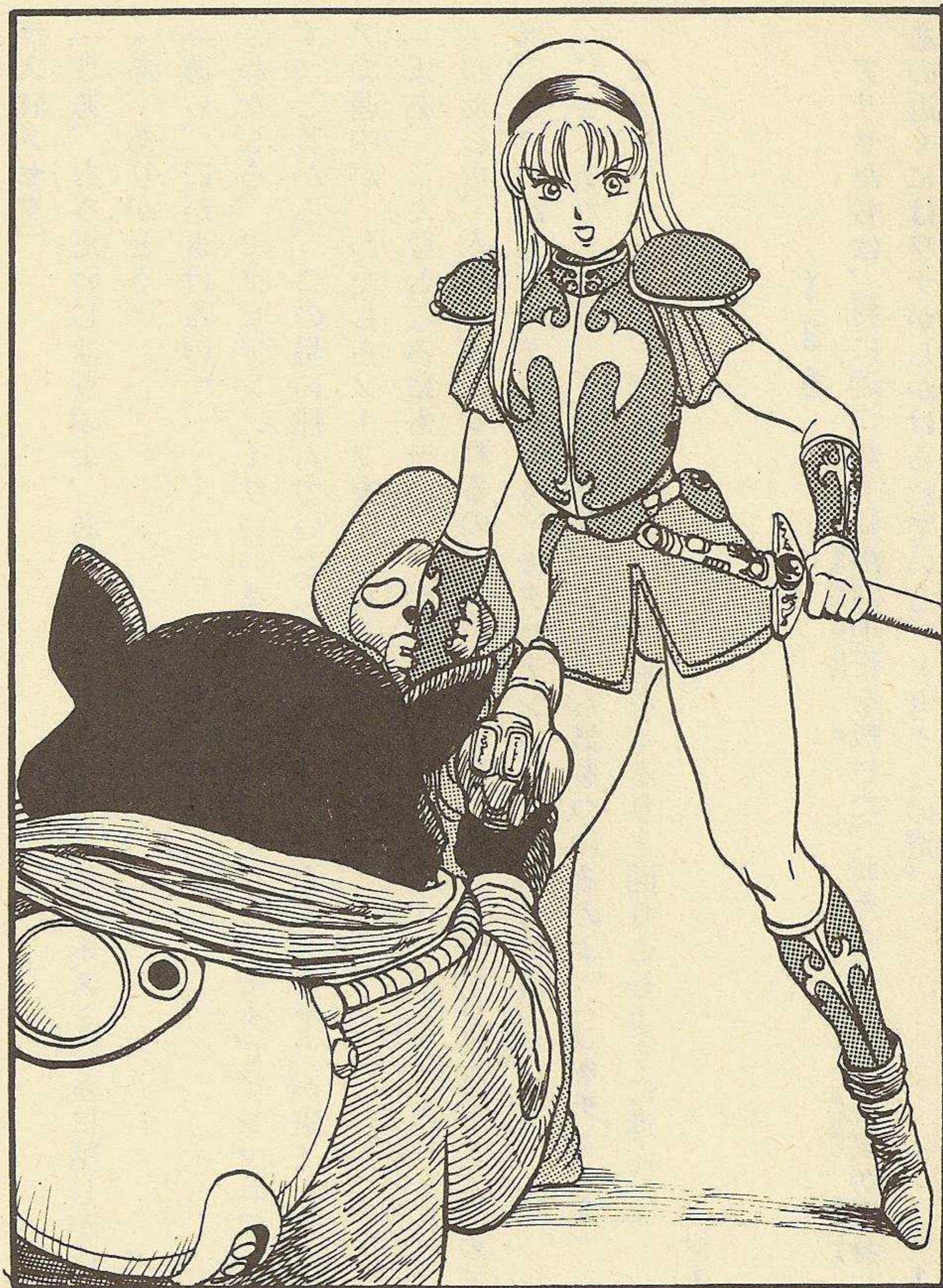
「たいしたことない。ヤツらのビームガンは、低出力タイプだぜ。皮膚に当たっても、軽い火傷をする程度だ」

「でも、あの茶色のネズミたちにとっては、命とりの武器かもよ。早く助けないと」

「おう！ さあ、ネズミども、ビックリさせられたお礼をしてやるぞ！」

タイロンはオノを持って、ネズミどもの間になだれこんだ。アリサとミヤウも加わる。

こう接近戦になると、飛び道具は同士討ちのおそれがある。ビームガンをうかつに使えなくなつた青ネズミたちは、クモの子を散らすように逃げていった（戦闘Pプラス1、プ



135●アリサたちは、巨大な茶色ネズミ——モタビアンノーフを助けた。この星もラシークの魔^まの手がのびているようだ。

ラス50メセタ)

「さあ、もうだいじょうぶよ、あなたたち」アリサが茶色ネズミたちに話しかけた。
へあ、ありがとう

「あら、口がきけるの」
へわたしら、モタビアンノーフいいいます。さっきのヤツら、モタビアンマニアいいいます。
ずっと昔から、この星に住んでいたんやけど、ラシックちゅうヤツが来てから、最近マニアの連中が、わたしらノーフをいじめるんですわ

「まあ、こんなところにもラシックがからんでいたなんて」
へわたしら、人間に助けられるの、初めてですわ。ネコに助けられるのも、初めてですわ。
ほんとに、ほんとにありがとう。モタビアンノーフたちは何度も礼を言った。
「じゃ、あたしらはもう行くけど、これから気をつけるのよ」(Jをチェック)
モタビアンノーフと別れた一行は、大岩をぐるりと回りこむように進んだ。

↓170へ

136

アリサたちは、男に近づかず、溶岩地帯を抜けた。おそらく、男は怪物が変身した姿で、あの近くにはワナがしかけられている、と考えたのだ。

↓156へ

トリニダの牢獄ろうごくに、アリサたちは裏口うらぐちから侵入しんにゆうした。

「いくら裏口だからって、こんなあつさりいくわけないわ。もう見つかっているんじゃない」

「まさにそのとおり。不法侵入ふほうしんにゆうしや者め、覚悟かくごせい！」

背後はいごから、看守かんしゆのじいさんが現われた。

「ふん、じいさんひとりに、オレたちが止められると思うのか」

「甘いな若造わかぞう！」看守は空中で1回転し、アリサたちに襲おそいかかった！

アリサたちは、思わぬ攻撃を受けた。みんな、鋭するどい爪つめにかきむしられたようだった（戦せん

闘Pマイナス2）。

着地ちかぢした時、そいつはすでに人間のかつこうをしていなかった。黒い毛お毛に覆おおわれ、巨大な羽はねを持つ怪人かいじん——バットマンに変身へんしんしていたのだ！

バットマン 15+バトルP（1のF）

アリサたち 戦闘P+バトルP（2のI）で戦います。

●敵よりPが上……………↓166へ ●下……………↓186へ

138

ゴールドレンズに気をとられているうちに、スケルトンが切りかかってきた。
「危ない！」タイロンはアリサをかばい、その剣を受けてしまった。

「タイロン！」

「たいしたケガじゃない。それより一気に反撃だ！」

アリサたちは、奮戦した。だが、いかんせん数が違いすぎる。なんとか、敵は撃退したものの、体はもう傷だらけだった（HPマイナス2）。

↓2へ

139

「おまえたちのだれが、ルベノ号を操縦できるといふんじや。安手のSF映画じやあるまいし、そう簡単にことが運ぶわけがなからう。ハプスビーというロボットを探すんじやよ。わしが牢獄に入っているあいだに、どこかに消えてしまったロボットじや。そいつなら、操縦できるわい」

「心当たりはないんですか？ ただ探すといつても、何年かかることか……」

「たぶん廃品回収の連中が持っていたんじやろう。大陸の北の端に、連中の村があったと思うが」

↓180へ

140

「それにしても、ルツとかいう旦那だんなはどこにいるんだろうな？ 超能力者ちようのうりよくしやかなんか知らないが、妙な所みようにいるもんだぜ」と、タイロン。
T字路に出た。

●南に進む……………⇩96へ ●北に進む……………⇩111へ

●西に進む……………⇩189へ

141

グリーン・スライムが、アリサの頭に飛びついてきた。2匹がかりで彼女の顔をふさぐ。息ができなくなったアリサは、もがき苦しみ、転倒てんとうした（HPマイナス1）。しかし、前から倒れこんだおかげで、グリーン・スライムはぐちゃりと潰つぶれてしまったのだった。ボディー・プレスならぬ、フェイス・プレスというわけだ。
「もー、いや、こんなの！ 責任者せきにんしや出てこい！」精神的打撃せいしんてきだげきのほう大きいアリサであった。「おまけにもう行き止まりだし……………もどんなきや」
⇩61へ

142

●ポリメテールがある……………⇩6へ ●ない……………⇩183へ

マシンガードーは、手にしこまれたビームガンを発射してきた。ビームは闇を切り裂き、アリサの腕をかすめた（HPマイナス2）。

「う！ やったわね」アリサは、ひるまず、ロボットに挑みかかった。次のビームをかわし、頭のTVカメラを、剣で突き刺す！ さらにタイロンが、オノでマシンガードーの首を切り落とした。

「だいじょうぶか、アリサ」

「ええ。かすっただけ。——あ、危ない、ふせて！」

切り口から青白い火花を散らしたあと、マシンガードーは爆発した。

「ふー、おかげで壁に穴が開いたぜ。あそこから、出られる」

⇩174へ

敵と交差するように、アリサは切りかかった。アリサの肩口に刃が食いこむと同時に、スカルソルジャーの首が乾いた音を立てて転がった（HPマイナス1）。

「まさに、肉を切らせて骨を断つところね。だいじょうぶ、見た目ほどひどい傷じゃないわ」アリサは、血がにじむ肩を押さえた。

一行は、もと来た通路を引き返していった。

⇩31へ

145

「いや！ あたし、ぬるぬるしたの大嫌い！」

「そのわりには、ひとりです匹もやつつけたじゃないか」最後の1匹を踏みつけながら、タイロンが言った。

今の彼らにとって、スライムなどたいした敵ではなかった。

●北に行く……………↓168へ ●東に行く……………↓119へ

146

「ほう、良いものがあるな」

エピ村のアーマーショップに入ったタイロンは、目を輝かせた。

○ニードルガン 80メセタ(無数の針を高圧ガスで発射し、一度に多くの敵を攻撃できる)

○アイアン・シールド 40メセタ(革の盾より、ずっと頑丈だ)

どちらも、タイロン好みの武器だ。

(買うも買わないも自由。買った人は、それぞれの持ち金から値段分の金額をマイナスし、アイテムリストに記入してください。ニードルガンもアイアン・シールドも買えば、それぞれ戦闘Pが1ずつプラスされます)

アーマーショップを出た一行は、モタビア星を目ざした。

↓124へ

147

グリーン・ドラゴンが炎を吐き出し、一行を威嚇した。

グリーン・ドラゴン 19 + バトルP (1のC)

アリサたち 戦闘P + バトルP (2のE) で戦います。

●敵よりPが上 ↓191へ ●下 ↓116へ

148

岩に沿って、進んで行く。

「ねえ、なんか地面が動いているような気がしない？」

「砂の中に、なにかいるぞ！」

前方の砂が膨れ上がったかと思うと、恐ろしく細長い怪物が現われた！ 全長10メートル

ル以上のサンドワームだ！

サンドワーム 13 + バトルP (1のC)

アリサたち 戦闘P + バトルP (2のB) で戦います。

●敵よりPが上 ↓108へ ●下 ↓85へ

飛び道具のないアリサたちは、一方的に攻撃を受けた。ビームそのものは、たいした威力はなく、軽い火傷を負う程度だが、これだけ数が多いとノーダメージというわけにはいかない（戦闘Pマイナス1、HPマイナス1）。

彼女たちは、崖の奥のほうに追いこまれていった。その先の地面一帯には、土まんじゅうのようなものがひしめいていた。

そこまで来ると、急にネズミたちは姿を消した。

「しまった！ ヤツらにはめられた。急いでここを出るんだ！」

だが、遅かった。土まんじゅうがいつせいにくぼみ、その底から巨大なアリジゴクの大群が姿を現わした。

●Jにチェックがある……………↓78へ ●ない……………↓48へ

「おや、ねーちゃん、また来たのか」と再びアマモト博士。

『モンスターフライのフライ』や『スコピラスの薫製』、『マンイーターのおひたし』なんかもあるが、どうかね」

「あはははははははははは……………。け、けっこうです。さ、さよなら」

↓31へ

黒い影が、一行の前に現われた。

「だれだ？」その影は、しわがれたような声を出した。

「そつちこそ、何者だ？ まさか、ルツではあるまい」と、タイロン。

影は、ククククと笑った。神経を逆なでするような声だった。

「なにが、おかしい！」

「なあに。このオレ様もおまえと同じことを聞こうとしたからだ。『ルツは、おまえたちの中にいるのか？』とな。——しかし、いないようだな」

「おまえも、ルツを探しているのね。ルツに会って、どうしようというの？」

「そうだな、会ってどうしようか？ 炎で焼き殺そうか。それとも、杖で頭を叩き割ってやろうか。ラシーク様の敵に回るヤツは、どんな死にざまが似合うかな」

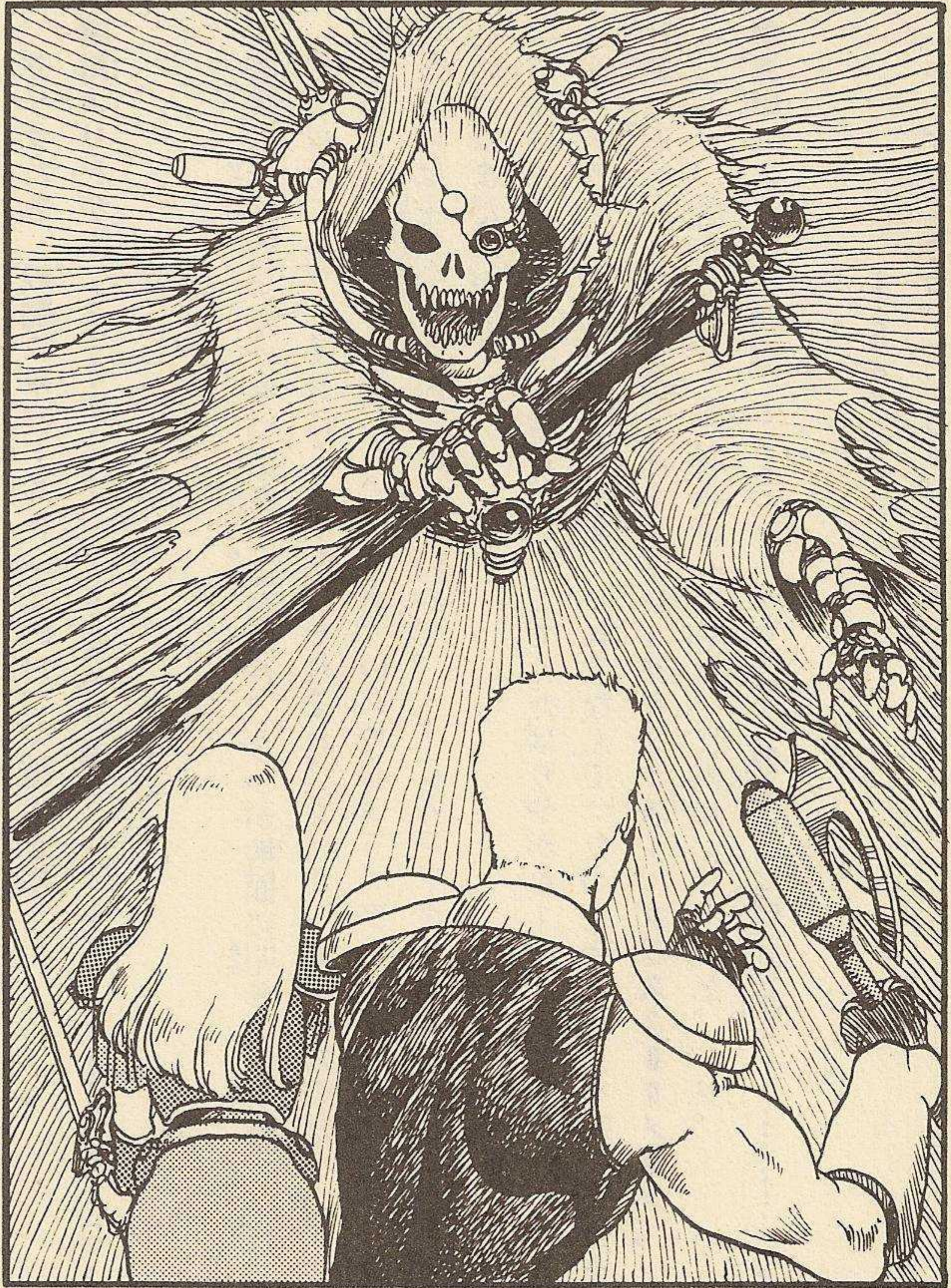
「ラシークの手下ね！ おまえなんか、ルツの所に行かせはしないわ！」

アリサは、剣をかまえた。

「ククク……。おまえら、このオレ様と戦おうというのか。この機械化された魔道士、サイボーグメイジ様と！」

影は、たちどころに実体化した。メカをちりばめたガイコツの姿に！

サイボーグメイジ 18十バトルP (1のE)



151●アリサたちの前で、影が^{かげ}実体化した。^{じつたい}メカを^ち散りばめた^{ぶき}不気味な^みガイコツの^{すがた}姿に！ サイボーグメイジだっ!!

アリサたち 戦闘P+バトルP(2のH)で戦います。

●敵よりPが上 …………… ↓200へ ●下 …………… ↓179へ

152

勝負は一瞬だった。6つの影が宙を飛び、3つが地面に叩きつけられていた。

タイロン、ルツ、それにミヤウが、それぞれクライオンを倒したのだ。

「あたしに1匹くらい回してくれても、いいでしょう」アリサがむくれた。

「たまには主人公も休んだほうがいいぜ。——このコウモリども、意外と金持ちだな。お、こいつはまだ息がある」

「けけけ、この先は溶岩地帯だ。そこでくたばりやがれ——グエツ！」

「ばっかみたい、危険な所を教えてくれるなんて」たった今トドメを刺した剣を、アリサは鞘に収めた(戦闘Pプラス1、マジックPプラス1、プラス200メセタ)。

「しかし、危険だからこそ何かがあるかもしれない……」と、ルツ。

●海岸のほうにまわる …………… ↓173へ ●あえて溶岩地帯へ …………… ↓205へ

153

「ちーずけーきカ。ヨシヨシ。コッチニ来ナサイ」

ロボットに案内され、アリサたちは謁見の間に通された。

「おお、おまえがアリサか。ラシークを倒しにいくそうだな」奥の扉が開き、総督が姿を見せた。

↓104へ

154

セントールは盾を捨てると、その手でビームガンを抜いた！

「いかん！ 出るんだ！」

間一髪、アリサたちは部屋の外に逃げ出した。急いでドアをロックする。

「あんな狭い所じゃ、人数が多いほうが不利だからな」と、タイロン。

セントールが外に出る気配はなかった。

↓181へ

155

ルツの言葉に従い、一行はパルマ星に再びもどった。

「さあ、この中へ」ルツは、職員たちに見つからないように、宇宙空港の隅にやってきた。

「でも、これはマンホールよ」

「ただのマンホールじゃないんですよ」そう言うと、ルツはフタを持ち上げ、中に入った。中は、地下通路になっていた。

さらに驚くことに、出口から抜け出てみると、そこは廃屋の中であつた。

「ここは？」

「この家の外は、もうガシコの森ですよ。——む、しかし、早くもジャマ者が現われたようですね」

廃屋を出た一行が遭遇したのは、真つ赤な大蛇——サーペントだつた。

サーペント 16+バトルP (1のG)

アリサたち 戦闘P+バトルP (2のD) で戦います。

●敵よりPが上 …………… ↓ 118 へ ●下 …………… ↓ 184 へ

156

一行は、大陸の北端までやってきた。目と鼻の先に、バルデボという村がある。そして、海峡の向こうに通じる海底洞窟の入り口もすぐ近くだ。

●バルデボの村に行く …………… ↓ 210 へ ●海底洞窟に入る …………… ↓ 231 へ

157

「ハ、ハイ、元気い」

「ワタシハ、スコブル好調ダ。ロボット国家試験モ一発デトオツタ。トコロデ、オマエ、

ろーどばすヲ、持ッテイルカ？」

「ロードパス？ も、もちろん、持っているわよ」アリサは、それを取り出し、見せた。

——こうしてアツケなく、アリサたちは、牢獄内ろうごくに入ることができたのだった。

●東に進む …………… ↓181へ ●西に進む …………… ↓31へ

158

アリサは、さつきアマモト博士はかせからもらった小ビンをルベノ博士に見せた。

「おお！ これは『シャーキンのツクダニ』ではないか！ わしの大好物だいこうぶつじゃよ。ここの牢獄ろうごく暮しは食い物もうまいし、バカにする者もおらんし、気に入っておったんじゃ。しかし、『シャーキンのツクダニ』だけは手に入らんかった。こうなったら、もうガマンできん！ 外に出て、ツクダニを腹はらいっぱい食くうぞ！」

博士は、ベッドの脇わきの壁かべを蹴けとばした。すると、なんとということか。壁の一角いっかくにぽっかりと穴あなが開いたではないか！

「いつでも出られるようにしておいたんじゃ。どれ、アマモトのヤツも助けるか」
 どうやら、この博士。道楽どうらくで牢獄に入っていたらしい。
 ↓100へ

159

ドアを開けると、中には、汚れた白衣に身を包んだ男がいた。

●ルベノ博士はかせに会ったことがある……………
↓121へ

●ない……………
↓177へ

160

「いけない！ このガスは毒性どくせいのようです」そう言って、ルツは前に手に入れたガスクリナーを取り出した。

「それは、どういう機械なの？」

「一種の空気清浄機くうきせいじょうき。見た目は小さいですが、半径10メートル以内の有毒ガスゆうどくや細菌さいきんを無力化りよくかすることが可能かのうです。わたしから、あまり離れないように進んでください」

「ふーん、便利べんりねえ」
↓209へ

161

アリサたちは、アビオンのドラッグストアに立ち寄り、ポリメテールを買った（マイナス50メセタ）。

「この薬は、ラコニア以外のどんなものも溶かしてしまおうそうよ」

「バルデボ村のスクラップから、ハプスビーを見つけることもたやすいつてことだな」

●バルデボの村に直行 …… ↓ 210へ ●ローアの村にも寄ってみる ↓ 126へ

162

進んでいくと、突き当たりにドアがあった。ダンジョンキーを使って開けてみる。

中にいたのは、青いヨロイに身を包んだ半人半馬の騎士だった。

「こいつは、ラシーク親衛隊のセントールだぜ！」タイロンがオノをかまえた。

●マジックPが3以上 …… ↓ 134へ ●2以下 …… ↓ 112へ

163

尻尾の打撃は、あまりにも大きかった。骨が何本も折れているらしく、アリサはまったく身動きできなかつた。

そこに、グリーン・ドラゴンの炎が伸びてきた。人間を一瞬のうちに焼きつくす炎が！

END



「おお、たしかに」博士は、金を受け取った（マイナス2000メセタ）。

「でも、たった2000メセタで、ホントに宇宙船ができちゃうんですか？」

「おほん、そこがその天才というヤツじゃよ。どっか、その辺でも歩いてきなさい」

（ここで村の病院に行くことが可能。10メセタ払うと、HPプラス2）

博士の言うことは本当だった。アリサたちが帰ってみると、裏庭に真っ白い宇宙船が完成していたのだ。

「どーだ、わしの傑作ルベノ号じゃ。これがあればモタビア星どころか、もつと遠くのデゾリス星まで行けるぞ」

「やったあ！ すぐに出発しましょう！」

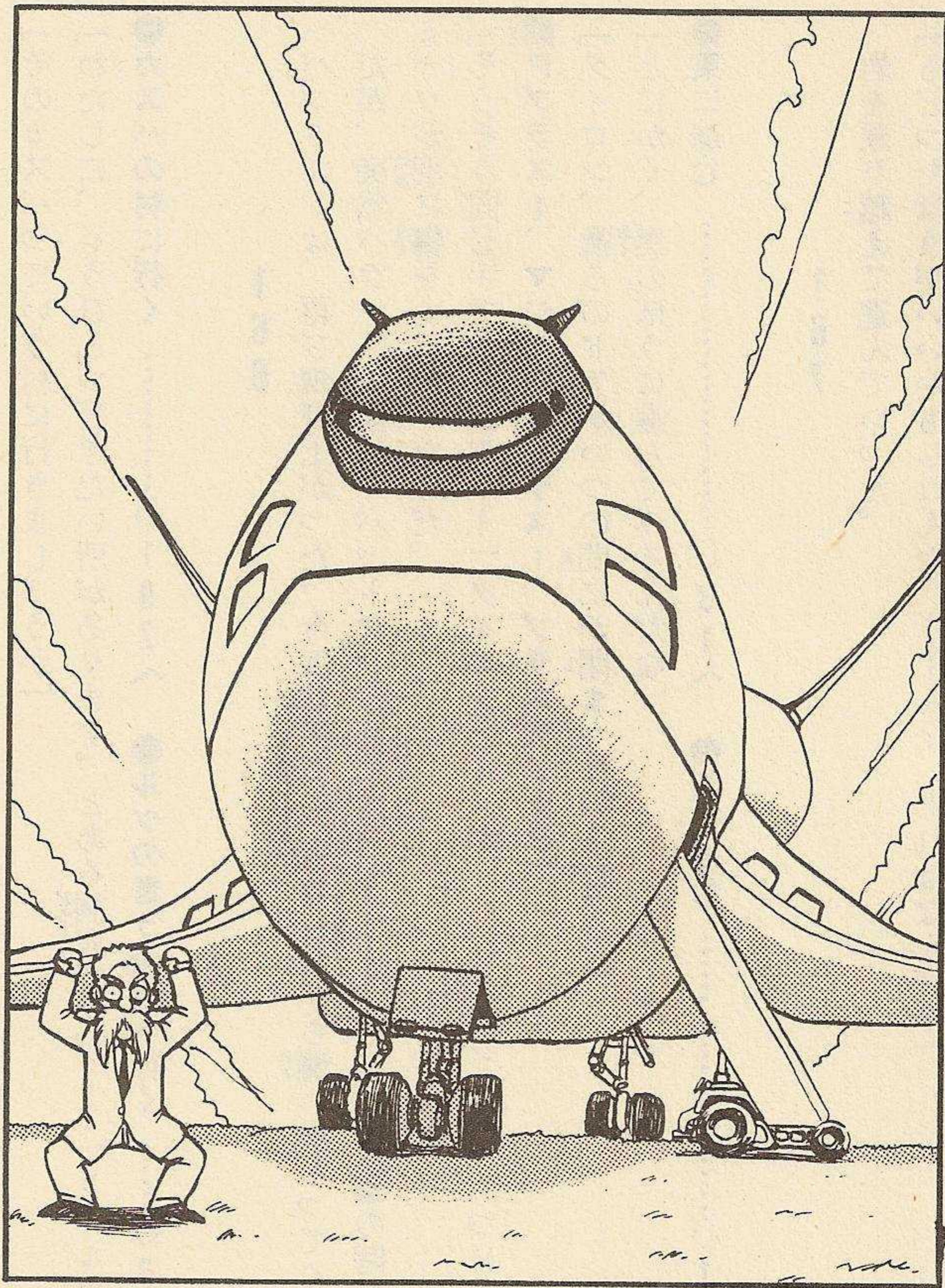
「いや、待て！」と、ルベノ博士が一行をさえぎった。

⇩ 139 へ

ルベノ号は、無事に宇宙を渡り、モタビア星に着いた。いつもの宇宙空港をさけ、パセオの南にあるウーゾの村に着陸する。

（村の病院に行くことが可能。20メセタ払うと、HPプラス5）

村人に話を聞いたアリサは、近くのカスバの村に怪物が棲んでいることを知った。



164●さすが天才！ ルベノ博士は、アッという間に宇宙船を作
ってしまった。「どーだ、わしの傑作ルベノ号じゃ！」

「そのカスバっていう村に行きましようか」

「わたしに、もうひとつ行きたい所があります。とある洞窟どうくつですが……」と、ルツ。

●カスバの村に行く……………↓192へ ●ルツの言う洞窟へ行く……………↓249へ

166

バットマンは、再び飛び上がった。今度は後方こうほうちゆうがえ宙返りしながら襲おそいかかってくる。

だが、突然バランスを崩くずし、バットマンは床ゆかに激突げきとつした！ さっきの攻撃の時、すでにミヤウが羽はねに傷きずをつけていたのだ。

「そうそう同じ手でやられるか！」タイロンのオノが、バットマンを真まつ二つにした（戦せん

闘とうPプラス1、マジックPプラス1、プラス30メセタ）

「タイロン、後ろのドアがいつの間まにか閉しまっているわよ」

「とにかく、奥おくのほうに進んでみるんだな」

●東に進む……………↓31へ ●西に進む……………↓114へ

167

岩を乗り越こえて進んでいった。

「もどったほうがいいのかもしれんな。——ん？ あれはなんだ？」

タイロンのさすほうを見ると、細長い塔が天を突くように建っていた。

●塔に行ってみる …… ↓411へ ●もどって、迂回コースをとる ↓125へ

168

L字の曲がり角に来た。

「こんな所に宝箱があるわ」

現在の戦闘PにバトルP(1のC)を足すと？

●奇数になる …… ↓102へ ●偶数になる …… ↓133へ

169

「毎度ありい」(マイナス200メセタ)。「話というのは、バルデボのスクラップ置き場に、いろいろと高価なものが埋もれているってことですわ。ロボットとか水上艇とか…。もつとも、掘り返すだけで、何カ月もかかるけどなあ。じゃ、これで——」

タイロンは、帰ろうとする主人の襟をつかんだ。

「それだけで200メセタというのは高いぜ。もつと何かあるんだろ」

「はは、旦那には、かないませんな。このポリメテールもつけますよ。こいつは、ラコニア以外ならなんでも溶かしてしまう薬でね、ロボットがラコニア製なら一発で発見できま

すよ」(Fをチェック。ポリメテール入手)

●バルデボの村に直行ちよつこう……………↓210へ ●ローアの村にも寄よつてみる ↓126へ

170

突然、赤い光が降りそそぎ、アリサの足元を焦こがした。

見上げると、崖がけの上に青い服の一团がいた。身長1メートル程度の直立ちよくりつネズミの群むれだ。そいつらは、ビームガンを使ってアリサたちを攻撃してきた!

●ニードルガンがある……………↓107へ ●ない……………↓149へ

171

ダンジョンキーを使ってドアを開けた。中には、ひとりの老人の姿すがたが。

「だれじゃ?」

「失礼しつれい。あなたはルベノ博士はかせじゃないようですね」と、ルツ。

「わしは、アマモト博士じゃ。そうか、ルベノもこの牢獄ろうごくにいるのかね。——実は、ヤツとは昔いっしょ一緒に研究したことがあつての。すまんが、ルベノを見つけたことができたなら、これをやってくれんか」

「なんですか、これ?」アリサは、アマモトから小ビンを受け取った(Eをチェック)。

「シャーキンという怪物のツクダニだよ、けけけ」

「そ、そうですか。それでは、しっかりお渡ししますので」(うげげ……)

アリサたちはその部屋を出た。

↓ 3 1 へ

172

変な匂いにおがすると思えば、この村のあっちこっちには、スクラップが山のように積まれている。

「これじゃ、しかたないわ。さっきの洞窟どうくつに入ってみましようよ」

↓ 2 3 1 へ

173

「溶岩ようがんで蒸し焼きむにされるなんてごめんだわ。海沿いうみぞに行きましよう」

だが、ラシークが支配しはいするこの世界。その海沿いにも、怪物かいぶつは待ちかまえていた。

ザザア！ 水面から、4つの巨大な巻まき貝が飛び出した！

アンモナイト 4匹 18 + バトルP (1のG)

アリサたち 戦闘P + バトルP (2のE) で戦います。

● 敵よりPが上

…………… ↓ 2 0 3 へ

● 下

…………… ↓ 1 3 1 へ

174

「おまえがアリサか。うちのロボットを壊してくれたそうだな……」

一波乱のあと、ようやく総督に会えたアリサたちだが、のっけから顔をしかめられてしまった。無理もないが。

「まあ、いいわい。そのくらいの元気がなければ、ラシークを倒すことは無理だ」

そう言われてホツとするアリサたち。

↓104へ

175

アリサたちは、男に駆け寄りとした。だが、その途中にある溶岩の池から、半魚人の一群が姿を現わした。海にすむシャーキンに似た怪物、マーシーズであった！

「やっぱりワナなの？」

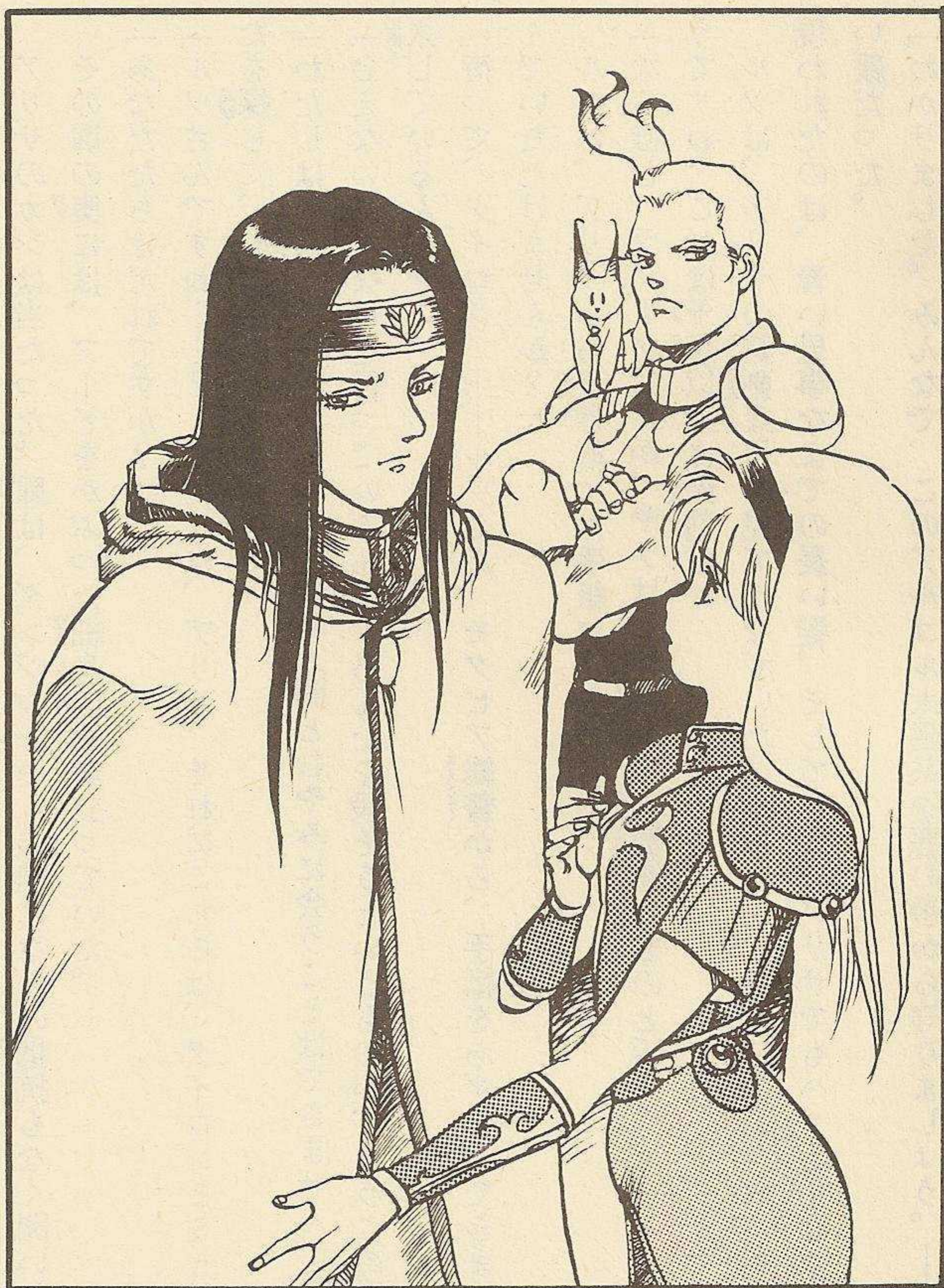
マーシーズの群れ 19 + バトルP (1のF)

アリサたち 戦闘P + バトルP (2のA) で戦います。

●敵よりPが上 …………… ↓123へ ●下 …………… ↓185へ

176

「さっきのヤツが残したこのカギを試してみるわ」



176●「わかりました。みんなで、このアルゴル太陽系を悪の手から守りましょう」ルツは、アリサにそう言った。

アリサのCANは当たった。扉は、ダンジョンキーの前になんの抵抗もなく開いた。その扉の奥には、フードをかぶった細身の男が立っていた。

「あなたたちはだれですか？」

「ルツさんです。……？ あたしは、アリサ。それにこちらは、タイロンとミヤウ。あなたを探しに、砂漠を渡ってきました」

「わたしは修行中の身なのです。外の人間とむやみに会うことはできません」

「会えない？ なにを言っているんだ。あんたを殺そうというものが、もうこの洞窟に侵入しているんだぜ！」

「待つて、タイロン。——ルツさん、モタビア総督から、手紙をあずかってきました。読んでいただけませんか？」

ルツは、アリサから受け取った手紙に目を通した。

「なるほど、ラシークですか。ヤツは、邪教の——混沌のものと手を結ぼうとしているようです。これは予想以上に深刻だ」

ルツは、アリサの真剣な目を見てうなずいた。そして、自分のフードを取った。中から現われたのは、青い見事なまでの長い髪。そして、女のアリサでもハツとするような美しい顔だった。

「わかりました。みんなで、このアルゴル太陽系を悪の手から守りましょう。——そのた

めには、まずパルマ星のガシコの森へ行かなくては……」

「ガシコの森？」

「そこで、ルベノ博士はかせに会うんですよ。ちよつと変わり者ですがね」

↓ 155 へ

177

「ルベノ博士はかせじゃないですか」

「いかにもそうじゃが。おお、たしかキミはルツくん。まさか、このわしをここから連れ出す気じゃなからうね。それは、まっぴらごめんじゃ」

● Eにチェックがある …… ↓ 158 へ ● ない …… ↓ 195 へ

178

ビュートは、予想よそう以上の強敵だった。頭を落とされても、体を剣でくし刺さしにされても倒れず、その怪力かいりきであばれ回ったのだ（HPマイナス2）。

「こうなったら、怪物かいぶつの体をバラバラにするしかないわ！」

アリサたちは、鋭い爪つめと怪力かいりきに悩なやまされながらも、ようやくそれをやりとげた。

この先のL字路をどうするか？

● 西に進む …… ↓ 254 へ ● 北に進む …… ↓ 273 へ

179

「死ね、バカ者ども！」サイボーグメイジは、両手から火球かきゆうを飛ばしてきた！ それぞれ、アリサとタイロンを直撃ちよくげき！ ふたりともヨロイがなければ、即死そくしだった（HPマイナス1、戦闘Pマイナス1）。

「うう……。あれは、フレエリという超能力ちようのうりよくよ」

「超能力者だろうがなんだろうが、不死身ふじみじゃないはずだ。みんなで一斉いつせいに攻撃こうげきするぞ」

●HPが3以上 …………… ↓200へ ●2以下 …………… ↓130へ

180

ルベノ博士はかせの言葉どおり、アリサ一行は大陸の北をめざした。

山ぎわに沿そって進んでいくと、大きな岩がゴロゴロ転ころがっている所に出た。

●岩石地帯を進む …………… ↓167へ ●迂回うかいコースをとる …………… ↓125へ

181

再び分岐点ぶんきてんに出た。東西に通路が延びており、すぐ南側には鋼鉄こうてつのドアがある。

●東に進む …………… ↓109へ ●西に進む …………… ↓31へ

●ドアを開ける …………… ↓162へ

182

さっきの階段の所にもどってきた。

●西に進む …………… ↓263へ ●南に進む …………… ↓225へ

183

「このゴミの山のどこかに、ハプスビーが埋^うもれているわけか……。しかし、掘^ほり返すだけで1カ月以上かかりそうだな、こりゃ」

さすがのタイロンも、村のスクラップ場を見て、うんざり顔だった。

「ポリメテールという薬は、この村にはないようですね」

「さっきの洞窟^{どうくつ}に入ってみましようよ。向こうの大陸に行けばあるかも」と、アリサ。

↓231へ

184

サーペントが炎^{ほのお}を吐^はき出した。標^{ひょうてき}的^{てき}は、アリサ！
 間^{かん}一^{いつ}髪^{ぱつ}、ルツがマントでその炎をさえぎった。

「このヘビやろうが！」背後^{はいご}にまわったタイロンが、オノでサーペントの首を切^{せつ}断^{だん}した！
 (戦^{せん}闘^{とう} P プラス1、プラス50メセタ)

「ルツさん、ケガをしたんじや」

「ちよつとした火傷やけどですよ。肉体労働にくたいろうどうはどうも苦手にがてで」(HPマイナス1)

「そのわりには、さっきの動きはすごかったな。もう少しで、アリサが丸焼きまるやになるところだった」

「まぐれです。さあ、この森を抜ければ、すぐにガシコの村です」

⇩44へ

185

マーシーズどもは溶岩ようがんをしたたらせ、地面に上がってきた。

アリサは、身がまえた。

「待つてください。どうやら、ヤツらの狙いねらはわれわれではないようです」

ルツの言葉どおり、半魚人はんぎょじんどもはアリサたちに寄りよつてこなかった。さっきの男をつかまえると、いやがるのを押さえつけ、溶岩池の中に引きずりこんでいった。

男のあわれな叫び声さけが、いつまでもアリサの耳にこびりついていていた。しかし、溶岩ようがんの中にまで追跡ついせきするわけにもいかなかった。

「ひよつとしたら、脱走者だつそうしゃだったのかも……」

アリサたちは、心残りのまま溶岩地帯を抜け出した。

⇩156へ

怪物は、再び飛んだ。タイロンがすばやくオノをくりだすが、空振り！ バットマンが、空中で停止したため、タイミングが合わなかった。

そのスキを突かれ、タイロンは敵の爪をくらってしまった（HPマイナス1）。
だが、そのバットマンもバランスを崩し、床に激突した！ 今の攻撃の時、ミヤウが羽に傷をつけていたのだ。

「これできさまもおしまいだ！」タイロンのオノが、バットマンを真つ二つにした（戦闘Pプラス1、マジックPプラス1、プラス30メセタ）。

「タイロン、後ろのドアがいつの間にか閉まっているわよ」

「とにかく、奥のほうに進んでみるんだな」

●東に進む …………… ↓31へ ●西に進む …………… ↓114へ

「お嬢さんがた、ロボットを探しているそうやな」どこから嗅ぎつけたのか、村のドラッグストアの主人が、アリサたちになじり寄ってきた。

「え？ そうですけど、なにか？」

「200メセタ出してくれたら、いいこと教えますで」

●2000メセタある……………↓169へ ●ない……………↓202へ

188

グリーン・ドラゴンが、その巨体をぬつと現わした。いかにも強そうだ。

「ここはわたしが」ルツが、すつと一行の前に出た。

ドラゴンは炎を吐いて威嚇してしたが、いきなり氷のようこおりに動かなくなった。

「ビンドワという超能力ちようのうりよくです。さあ、ドラゴンがしびれて動けないうちに、宝石ほうせきをいただ

きましよう」(マジックPマイナス1、宝石を換金かんきんしてプラス2000メセタ)

↓164へ

189

やがて十字路に出た。

●東に進む……………↓140へ ●西に進む……………↓168へ

●南に進む……………↓119へ ●北に進む……………↓87へ

190

不気味ぶきみな静けさの中、一行はT字路に出た。

●南に進む……………↓244へ ●北に進む……………↓218へ
 ●東に進む……………↓296へ

191

グリーン・ドラゴンの口から、10メートルもの火炎が伸びた！
 間一髪、アリサたちは四方に散る。

反撃だ！ ミヤウが、ドラゴンの頭に乗し、目を潰した。叫び声をあげ、のけぞるドラゴン。みんなは、そのむきだしになった腹を狙って、それぞれの武器を突き出した！

グリーン・ドラゴンは、ひっくり返ったまま動かなくなった（戦闘Pプラス1、マジックPプラス1、宝石を換金してプラス200メセタ）。
 ↓164へ

192

カスパの村に向け、ランドマスターを発進！ このルベノ号に塔載されていた乗り物を使えば、砂漠の旅もぐつと楽になる。

「よし、この調子なら、あと1時間もしないうちに到着だ。——ん、あれは？」ハンドルを握るタイロンが目をむいた。

前方に巨大な砂柱が上がったのだ。砂を噴き上げながら出現する長大なミミズ！

「サンドワーム系の怪物だわ！ 青と紫、2匹いる！」

「Uターンしても無理か。よし、ランドマスターを降りるんだ。戦いで壊れるのはまずい」
 ●青いやつから攻撃 …………… ↓250へ ●紫のやつから攻撃 …………… ↓227へ

「あたしがやるわ！」

クライオンどもは、前に出たアリサに襲いかかった！ 円を描くようにまわりこみ、鋭い爪を使ってくる！（HPマイナス1）

アリサは、その猛攻に耐え、最初の1匹の首をはねた。うろたえる敵の間に飛びこみ、羽を切り裂く。羽をやられたクライオンなど敵ではなく、残った2匹は、すぐにアリサの剣のえじきとなった。

「けけけ、この先は溶岩地帯だ。そこでくたばりやがれ——グエツ！」

「ばっかみたい、危険な所を教えてくれるなんて」

最後の敵にトドメを刺した剣を、アリサは鞘に収めた（戦闘Pプラス1、マジックPプラス1、プラス200メセタ）。

「しかし、危険だからこそ何かがあるかもしれない……」と、ルツ。

●海岸のほうに回る …………… ↓173へ ●あえて溶岩地帯へ …………… ↓205へ

194

十字路に出たアリサたちは？

●東に進む

.....⇩257へ

●西に進む

.....⇩228へ

●南に進む

.....⇩294へ

●北に進む

.....⇩213へ

195

何度説得^{せつとく}しても、ルベノ博士^{はかせ}は首をたてに振らなかつた。

ここはいったんあきらめて、アリサたちは外に出た。

⇩109へ

196

セントールは盾^{たて}を捨^すてると、その手でビームガン^を抜^ぬいた！

こう狭^{せま}いと、人数の多いほうが不利だ。アリサたちは、ビームをまともに浴^あびてしまっ

た！

浮足^{うきあし}立^たつたところを、今度は剣で攻撃される（HPマイナス2）。

アリサたちは急いでドアをロックし、部屋を逃^にげ出した。

⇩181へ

「そうだわ！」アリサが、パチンと手を打ち鳴らした。

「アーマーシヨップに行く前に、ケーキ屋さんに寄りましようよ」

「は？ ケーキじゃ敵は倒せんぞ」タイロンは眉をひそめた。

「食べるのか？ 太るとか言っていたらう。それ以上、太くなつてどうする気だ？」

「失礼ね！ おみやげよ、お・み・や・げ！ 知らなかったの!? モタバア総督は甘いものには目がないのよ。——あつた、あのお店で買いましよう」

ボーゼンとするタイロンを引きずつて、アリサはそのケーキ屋に入つていった。

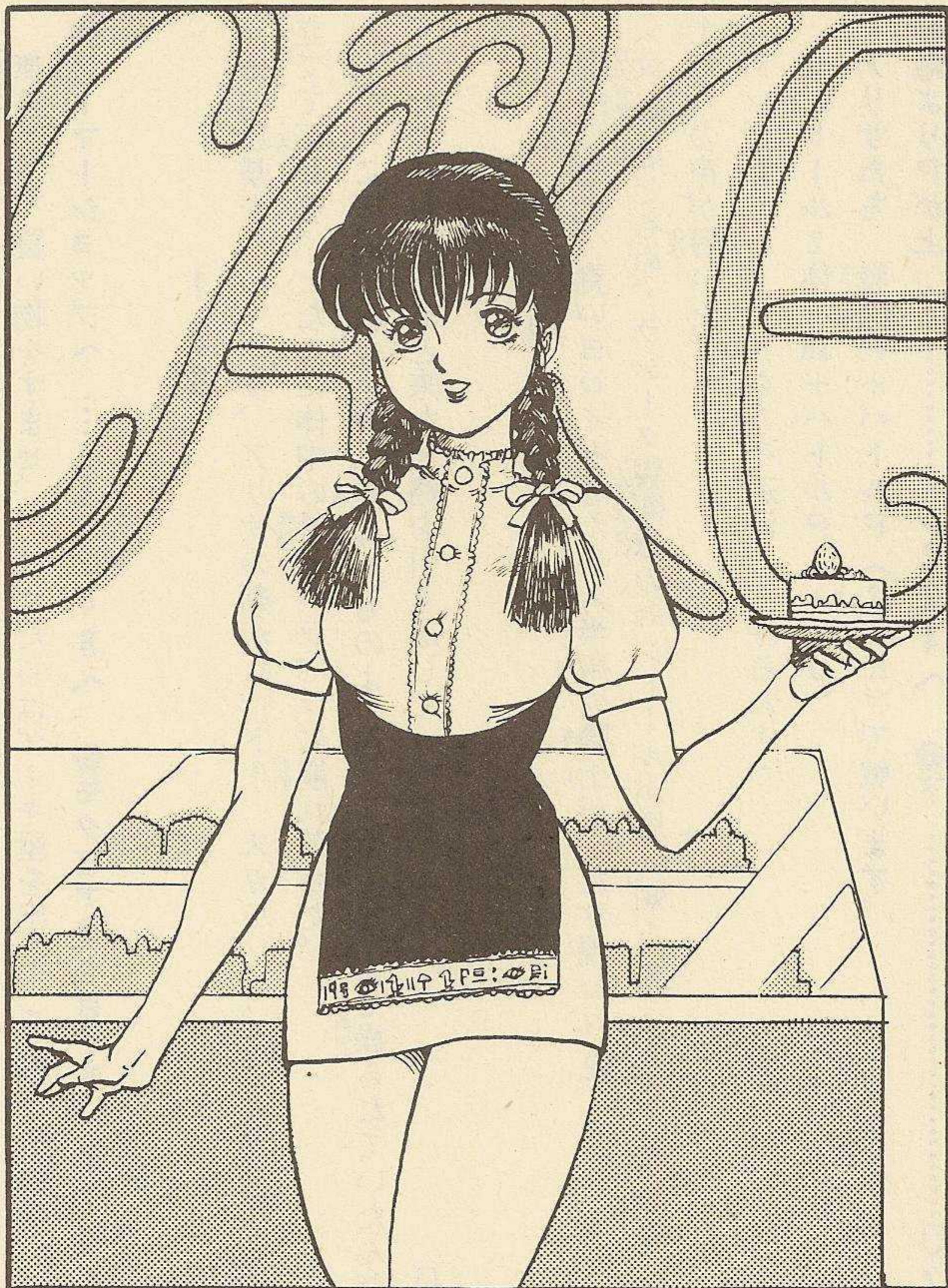
その店には『こんなところにケーキ屋があつてすみません』という看板が出ている。

「なんですか、この看板？」

「いらつしやいませー。さあ、なんでも先代が地下迷宮の奥で営業していた時の口癖だつたようですけど。それより、このチーズケーキいかがですか？」

「わあ、おいしそう♡ こっちのイチゴのシヨートケーキもいいな♡」

「オレは、このおねーさんの服がいい♡ ずげ！ アリサちゃん、その足どけてくんない」
 (シヨートケーキか、チーズケーキ、どちらかを選んで、アイテムリストに記入。値段は
 どちらも同じで、マイナス20メセタ。なお、おねーさんの服は買えませんので、あしからず)



197●色っぽい服を着たおねーさんが現われた。60+バトルP
(1のH)で戦って勝つと、服がもらえます(ウソ)。

無事(?) 買い物をするませ、アリサたちはケーキ屋を出た。それから先は、

●アーマーシヨップへ……………↓146へ ●モタビア星を目ざす……………↓124へ

198

敵の攻撃をかいくぐり、アリサの剣がヒット! スカルソルジャーの首が、乾いた音を立てて転がる。とたんに体中の骨がバラバラに崩れ落ちた。

「見て、この盾の紋章。古い貴族のものよ。きつと邪教の力で操られていたんだわ」
アリサたちは、もと来た通路を引き返していった。
↓31へ

199

通路の先に、青いヨロイを着た半人半馬の騎士がふたり現われる。

へ叛逆者どもめ、ラシーク親衛隊のセントールが思い知らせてやる! 頭の中にその怪騎士たちの声が響いた。

「テレパシーか。そちらこそ退治してやるわ!」

セントール2体 36+バトルP (1のJ)

アリサたち 戦闘P+バトルP (2のE) で戦います。

●敵よりPが上……………↓274へ ●下……………↓248へ

「くらえ、フレエリのマジック！」サイボーグメイジの両手から火球かきゆうが飛んだ！

アリサとミヤウは、飛び上がってかわした。そのまま空中から攻撃をかける。

ガシッ！ アリサの剣をメイジは片手で受け止めた。

「ククク……。機械の体だと言ったろうが。こんな剣など役に立つものか。——む、あのネコはどこへいった？」

魔道士まどうしの背後はいごに取りついたミヤウは、そのままフードを引き下ろした。背中の機械せなかは、装甲そうこうもなく、むきだしだった。

「よーし、よくやったミヤウ。そこをどきな」タイロンがオノを振り上げた。

ズズッ！ サイボーグメイジの背中にオノが食いこんだ。その裂け目さきにタイロンが手を入れ、引きはがす！

「ひっ！ や、やめてくれえ！ うぎややややあ！！」

ベキベキベキ……。裂かれた背中から、火花ひばなが散り、流れでた黒い油に引火いんかした。

「すっごい勝ちかた。さすがタイロン」

「なに、タイロン……。？」燃え上がるメイジが、口をきいた。「バカな、メデューサー様が始し末まつしたはず」

「情報じょうほうが古いな。オレはこのアリサに助けられたんだぜ」

「アリサ……。そうか、あの男の……」そう言い残して、魔道士は死んだ。

ミヤウは、その骨と機械の燃えかすの中から、無傷のカギを見つけ出した（ダンジョンキー入手）。

↓1111へ

201

アリサたちは背中を合わせ、敵を迎えうった。スキのない動きで、バイターフライどもを1匹1匹、叩き落としていく。

幸い、だれも毒針にやられることなく、バイターフライを撃退することができた（戦闘Pプラス1、プラス50メセタ）。

洞窟を出た一行は、そこで『アビオンの村まで500メートル。ローアの村まで2キロ』という看板を見つけた。

●アビオンの村に行く……………↓223へ ●ローアの村に行く……………↓126へ

202

「金がない？ そりゃ、いけませんな。見たところ、強そうな人もいるけど、南の塔に行ったらどうです？ そこにはお宝がいっぱいあるそう。もつとも、怪物がうじゃうじゃいるんで、だれも生きて帰れた者はおらんそうだが」

「帰れた者がいないのに、なんでそんなにくわしいの？」

「そ、それは……」主人は、口ごもった。

「まあ、いいじゃないか、アリサ。話半分としても、怪物がいるのはたしかだろう。そいつらを退治できないようでは、打倒ラシークなど無理だぜ」

タイロンの言うことももつともだ。アリサたちは、主人から道を聞いて、再び南の大陸にもどった。そして、岩場にそびえ立つ塔に向かった。

↓411へ

203

アンモナイトは、そのまま空中に停止した。殻の一部が開き、アリサたちに毒液を吐いてくる！

アリサはそれをかわすと、アンモナイトめがけ飛び上がった。次の毒液が飛んでくる前に、殻の開いているところを突き刺す！ 貝の化け物は、たまらず落下。青い血をなびかせ、海面から消えていった。

振り向けば、ほかの3匹もタイロンたちが片づけていた（戦闘Pプラス1、プラス100メセタ）。

↓156へ

204

「あれ、これは……」アリサが宝箱たからばこのフタを開けた。

「ガスクリーナーですね。もらっておきましょう。あとで役に立つかもしれない」そう言
つて、ルツはその小さな機械を服のポケットに入れた（ガスクリーナー入手）。

●通路をもどる …………… ↓273へ ●塔とうの外に出る …………… ↓17へ

205

汗あせをふきふき、溶岩ようがん地帯ちたいを進む。溶岩そのものには触ふれないようにしているが、熱のた
めに体力が奪うばわれていく（HPマイナス1）。

「もう少しで抜ぬけ出せるわ。——あれ？ 向こうに何か倒れているみたいよ」

「人間の男のようですね。いや、手の形が違う。それにウロコのようなものが……」

●行ってみる …………… ↓175へ ●行かない …………… ↓136へ

206

タロスの分厚ぶあつい皮膚ひふには、なまじつかな攻撃こうげきは通用しない。

アリサたちは、怪物かいぶつのこぶしをかわすと、目を狙ねらって攻撃した！ 続いてノド！ それ
から***も攻撃した。タロスは、たまらずもんどりうって倒れた。

「やっぱり、怪物にも****ってあるのねえ」

「その****って、やらしいから、やめんか」とタイロン。

通路の先はL字の角かどになっていた。

●北に進む……………↓182へ ●西に進む……………↓292へ

207

「まだパルマ星にも、あやしい所はあるようじゃ。ラシーク本人がどこかにいるかもしれん。わしの調べによると、アビオンの塔とうとメデューサの塔に、いろいろと怪物かいどうたちが集まっているそうじゃが」

と、ルベノ博士がアリサたちに説明せつめいした。

「メデューサの塔！ メデューサはそこにいるのか!?」タイロンが声を荒げた。前にやられた時のことを思い出したのだ。

「おそらくな……。アビオンの塔のほうにも、恐おそろしいヤツがいるそうじゃが」

●メデューサの塔に向かう……………↓411へ ●アビオンの塔に向かう……………↓233へ



「ゾンビ系のヤツは、頭が弱点だったな」タイロンは、オノでビュートの首を切り落とした。血まみれの頭がごろんと転がる。

「どうだ、早くぶっ倒れる！——うわっ！」

ビュートは、頭を失っても倒れなかった。それどころか、その鋭い爪でタイロンの脇腹を突いたのだ。死人の怪力は、ヨロイさえもつらぬいていた！（HPマイナス1）

「タイロン！」アリサは、ビュートの胴体をめった突きにした。それでも、まだ倒れない。

「どうすれば、こいつをやっつけられるの、ルツ？」

「おそらく……」ルツは、転がっていたビュートの頭を杖で砕いた。

とたんにビュートの体は、糸の切れたあやつり人形のように、崩れ落ちていった。

「やはり、頭を完全に破壊するしかないようですね」（マジックPプラス1）

この先のL字路をどうするか？

●西に進む …………… ↓ 254 へ ●北に進む …………… ↓ 273 へ

ようやくガス帯を通り抜け、アリサたちはソピアの村にたどり着いた。

ラシークの基地があるのでは、と意気こんでいたアリサ。だが、村のみすぼらしい姿を

見て、彼女はアゼンとした。

「あなたたちが、ラシークを倒そうという勇者さんたちか。ごらんのとおり、ソピアはとても貧しい村でしてなあ」村長の老人がアリサたちに話しかけてきた。

「2000メセタ寄付していただければ、この村に伝わる武器をさしあげますが」

●2000メセタ以上ある……………↓3000へ ●ない……………↓262へ

210

バルデボの村にやってきた。

●Fにチェックがある……………↓142へ ●ない……………↓172へ

211

リバイアサンとデザートリーチは、砂中から姿を現わしたり、また潜ったりしながら襲いかかってきた。アリサたちは必死に応戦する。

怪物の激しい動きに、砂ぼこりが舞い上がり、周囲が暗くなる。——やがて、それがおさまってきた時。

「あれ？ あはは、バツカみたい!!」アリサは、砂の入った目をおさえて笑った。

2匹の怪物は、お互いにからみ合ったまま、動けなくなっていたのである。とどめを刺

すのは簡単だった (戦闘Pプラス1、プラス100メセタ)

↓265へ

212

ふいに陽の光がさしこんできた。塔の入り口のところにもどってきたようだ。

●このまま外に出る …………… ↓17へ ●東に進む …………… ↓273へ

●南に進む …………… ↓254へ

213

霧のようなものが、一行の周囲を包んだ。その中に上半身だけ浮かぶように、いくつもの人影が見える。いずれも、緑色のフードを深くかぶり、顔は見えなかつた。

「ただの脅しですよ」と、ルツが言った。「こいつらはB級の魔道士、ワイトどもだ」

ワイトたち 30バトルP (1のA)

アリサたち 戦闘P+バトルP (2のC) で戦います。

●敵よりPが上 …………… ↓278へ ●下 …………… ↓232へ

214

「ミヤウ！」

ネコは炎ほのおをかわすと、ドラゴンどもに向かつて走った。股またの下をくぐり抜け、ヤツらの背後はいごに回りこむ。そして、攻撃！

この通路の狭せまさが幸さいわいした。グリーン・ドラゴンの巨体——しかも2匹いては、急には方向転換ほうこうてんかんできないのだ。

敵がミヤウに気をとられているスキに、アリサは距離きよりをつめた。すばやく、口に剣を突き入れる！ ドラゴンは、火炎かえんのかわりに血を大量に吐はき出した。

振り向けば、もう1匹はタイロンが片づけていた。

「宝箱たからばこがありましたよ」ルツがさっそく開けてみる。「おや、金だけじゃなくて、剣も入っている。これはラコニア製せいだ。すごい切れ味の剣ですよ」

アリサはその剣を受け取った（プラス2000メセタ。ラコニアン・ソードを入手し、戦せん闘Pプラス5）。

「本当にすごい剣だわ。これを手に入れた以上、長居ながいは無用むようね」

215

悲しみの洞窟どうくつを出たアリサたち。これから先は？

●ソピアの村に行く……………↓247へ ●パルマ星に飛ぶ……………↓408へ

●デゾリス星に飛ぶ……………↓405へ

かなりの強敵と判断したルツは、いきなりヒューンという超能力を使うことにした。一連の動作のあと、ルツは両手から恐るべきものを放った。小型の真空竜巻だ！3つ飛ばされたそれは、吸いこまれるように、ドラゴンワイズに命中！分厚い皮膚をも、あっさりと切り裂いた！（マジックPマイナス3）

「すごいわ、ルツさん！」

だが、さすがはドラゴンワイズ。怖気づいた様子もなく、アリサたちをにらみつけた。

ドラゴンワイズ 21 + バトルP (1のF)

アリサたち 戦闘P + バトルP (2のC) で戦います。

●敵よりPが上 …………… ↓ 298 へ ●下 …………… ↓ 271 へ

飛びかかってきたブルー・スライムを、アリサは剣で真っ二つにした。さらに、床に落ちたヤツを足でメチャクチャに踏みつける。

「なにも、そこまでしなくても……」あきれるタイロン。

「いーの！ こんなぬとぬとしたヤツは、二度と立ち直れないようにしなきゃ！」

あい変わらず、スライムが大嫌いなアリサであった。ブルー・スライムは、6匹ともメ

タメタにされてしまった(戦闘Pプラス1、プラス1000メセタ)。

↓309へ

218

T字路に出た。

「こちらに進めば、外に出てしまいますね」ルツが東のほうをさした。残ったのは、

●南に進む……………↓190へ ●西に進む……………↓277へ

219

「く、苦しい……」

毒ガスは、残り少ない一行の体力をさらに奪っていった。

ミヤウ、ルツ、タイロン……。彼らは、次々と毒ガスの前に倒れた。そして、アリサも血を吐いて、動かなくなった。ソピアの村は、まだずっと先であった。

END

220

カシヤカシヤという音をたてて、襲いかかってくるマッドストーカーの群れ!

だが、実力はアリサたちのほうが上だった。じわじわとガイコツ兵士どもを押ししていく。

今もまたタイロンのオノが、マッドストーカーを真つ二つにした。

その時だ！ タイロンが肩を押さええてうずくまった。突然、飛んできた2条のビームが命中したのだ！（HPマイナス3）

メデューサの手のひらから発射されたビームだった。

「わたしには、こういう力もあるのさ！ さあ、もう1発あげるわ！」

⇩ 301へ

221

バルカンは、広げていた手を胸の前で交差させた。そのとたん、口から熱風が吐き出され、アリサたちを直撃した！（HPマイナス2）

「あちっ！ なによ、この怪物は！」

「あの硬い体の中には、マグマのような物が詰まっているんだ」

バルカンは、再び両腕を広げた。

⇩ 286へ

222

一行の前に、巨大な怪物がぬつと現われた。赤い体毛に覆われたゴリラのような怪物。いや、ゴリラより筋肉質だ。それに、青い腰布を身につけ、耳がとがっている点が違う。

「タロス系のガイアだわ！」

アリサは、この手強てごわそうな敵の名を叫さけんだ。

●戦う…………… ↓ 2 8 8 へ

●逃げる（マジックPが3以上のみ）…………… ↓ 2 5 5 へ

2 2 3

アビオンの村に入った。森にかこまれた静かな村だった。

●Fにチェックがある…………… ↓ 1 6 1 へ ●ない…………… ↓ 1 8 7 へ

2 2 4

ラシークは、杖つえを風車ふうしゃのように回し始めた！

ラシーク 52 + バトルP（1のJ）

アリサたち 戦闘P + バトルP（2のE）で戦います。

●敵よりPが上…………… ↓ 3 8 3 へ ●下…………… ↓ 3 0 5 へ

2 2 5

一行の前に、巨大な怪物かいぶつが立ちふさがった。緑色のゴリラのような怪物、タロスだった。「気をつけろ、こいつは手強てごわいぞ！」

タロス 31 + バトルP (1のF)

アリサたち 戦闘P + バトルP (2のA) で戦います。

●敵よりPが上 ↓ 206へ ●下 ↓ 245へ

226

通路が東西に分かれている所に出た。

どちらかにラシークがいるのか？

●東に進む ↓ 357へ ●西に進む ↓ 401へ

227

紫のヤツに、集中攻撃をかける。

「しめた！ こいつ、動きが鈍いわよ」おもしろいように、剣が突き刺さる。

だが——青いヤツが、一行の背後から襲いかかった。もちろん、アリサも後ろは警戒していたが、青はそれ以上にすばやかだった。

アリサたちは、砂の上に激しく叩きつけられた(戦闘Pマイナス2)。アリサは、より強いヤツに背中を見せるといふ失敗をしたのだ！

↓ 250へ

228

あちらこちらを動きまわるアリサたち。この先の十字路を？

●東に進む

.....

●西に進む

.....

●南に進む

.....

●北に進む

.....

229

出血しゅっけつと熱気ねつきが、アリサたちの体力を奪うばっていた。

煙けむりを吸すいこみ、アリサは激せきしく咳せきこんだ。いっぽうドラゴンワイズは大きく息いきを吸すいこ

むと、強烈きょうれつな火炎かえんを吐はいてくる。

炎ほのおの中の戦いくさい。勝負しょうぶは最初さいしょから、ついていたようなものだった。火炎ちよくげきの直撃ちよくげきが、アリサの15歳の命いのちを奪うばった。

END

230

「ちよいと、娘むすめさん」

ボロコートを着た男がアリサに話しかけてきた。

「さっきのレストランで見たんだが、あんたら、ラシークを追おっているらしいな……。な

ら、武器が欲しいだろう」

「え？ それは、まあ」

「なら、オレの使っていたものを買わないか？ オレはマンモス・ハンターをやっていたんだが、大ケガをしてな……もう足を洗おうと思っっているんだ」

男は、カーバンクルアイという宝石ほうせきとなら武器を交換こうかんしていいと言うが……。

●応じる(宝石ある人のみ) ……↓316へ ●応じない ……↓281へ

231

一行は、海底洞窟かいていどうくつの中を進んでいった。

「なんか、じめじめして気持ち悪いわねえ、なんか出そう」

アリスの言うとおりであった。ぶーんという、かすかな羽音はおとが聞こえてくる。暗闇くらやみに生息せいそく

する巨大昆虫きよだいこんちゆう、バイターフライの羽音はおとだ！

バイターフライの群れ 18+バトルP (1のJ)

アリスたち 戦闘P+バトルP (2のI)で戦います。

●敵よりPが上 ……↓201へ ●下 ……↓252へ

232

ワイトたちの差し出す手に青白い光が集まってきた。急に静電気せいでんきを帯おびたアリサの髪かみやミヤウの毛が、パチパチと鳴った。

「やん、なにこれ……?」

次の瞬間しゆんかん、魔道士まどうしたちの手からいつせいに電光でんこうがほとばしった! アリサたちを直撃ちよくげきし、体をしびれさせる(HPマイナス1)。

「なにが、コケおどしよ、ルツさん!」

「やっぱり、これだけ数が多いと厄介やっかいでしょうかね」と、こんな状態じようたいでもクールさを崩くずさないルツ。

「でも、こんなもんじゃ人は殺せませんよ」

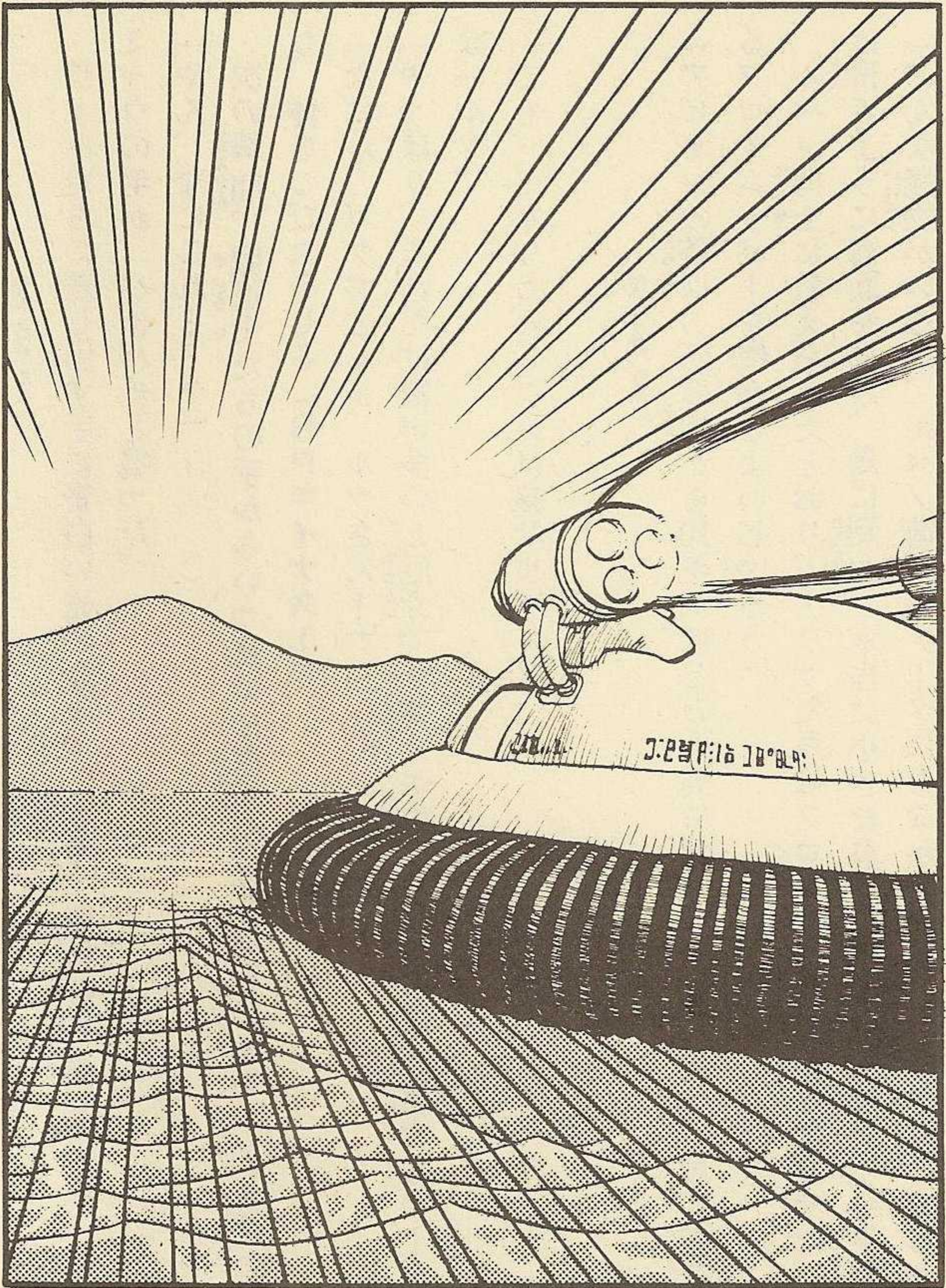
↓278へ

233

「アビオンの塔とうは、西の岬みさきから10キロほどの小島に建っておる。ルベノ号に搭載とうさいされているフロームバーを使うとよいじやろう」

ルベノ博士はかせに教えられたとおり、アリサたちはフロームバーを発進させた。ムーバーは滑すべるように海面を進み、島に到着とうちやく。本当に小さな島で、めざす塔はすぐに見つかった。

「どんな怪物かいぶつがいるか、ルベノ博士のデータにもなかったわ。気をつけなくちゃ」



233●ルベノ号から、フロームバーが発進した。めざす小島はもう目と鼻の先だ。そこにアビオンの塔とうが建たっている。

●東に進む …………… ↓ 2 7 3 へ ●南に進む …………… ↓ 2 5 4 へ

アリサたち一行は足音をしのばせ、塔に侵入した。最初の分岐路を、

2 3 4

し字の曲がり角に出た。曲がるか、引き返すか……。

●東に進む …………… ↓ 1 9 9 へ ●南に進む …………… ↓ 2 6 1 へ

2 3 5

「なにか、ヘンなおいがない？ 肉が腐ったような」

「アリサもか。オレはさらに、ペタペタという足音が聞こえるんだが……」

「死体が歩くような音ですか。腐った肉のところどころから骨が見え、赤黒い血をしたたらせている死体。——無理ありませんな、ほら向こうの角から姿を現わしましたよ。ゾンビ系のなかでも凶悪な、ビュートというヤツです」

その姿を見て、アリサとタイロンは飛び上がった。一方、ルツはまだ淡々としている。やはり超能力者というのは、普通の神経の持ち主ではないようだ……。

ビュート 23 十バトルP (1のD)

アリサたち 戦闘P + バトルP (2のB) で戦います。

236

「これがとどめだあ！」

ラシークの体が再びゆらいだ。

次の瞬間、アリサたちの後ろで爆発が！ 機械の残骸に混じって、ラシークの上半身が床に転がった。

「これは？ どういうこと？」

アリサは、横でレーザーガンをかまえているタイロンに聞いた。

「高速移動に入ったとたん、オレの撃ったレーザーがヤツの腹に命中したんだ。ミサイルが誘爆したんだろう。いくら高速だったって、光の速さには勝てないってことさ」

「ふははははは！」転がっていたラシークの頭が笑いだした。

「兄の敵を討ったと思っっているな。甘いぞ、アリサ！ わしは、ラシーク様の影武者なのだあ！ 本物のラシーク様がおまえらごときにやられるものかあ！ ふげ！」

アリサの剣が、そいつの顔を真つ二つにした。

「ふん、下劣なヤツ！」

一行は広間を出て、反対側の通路を進んだ。

237

フタを開けたとたん、針が飛び出し、アリサの手を傷つけた（戦闘Pマイナス1）。
 「痛っ！ なによ、これもう！——へんな機械が入っているけど」
 「だいじょうぶですか。ん？ この機械は、ガスクリーナーのようですね。もらいましよ
 う。あとで役に立つかもしれない」（ガスクリーナー入手）。

●通路をもどる …………… ↓273へ ●塔の外に出る …………… ↓17へ

238

リバイアサンとデザートリーチは何度も砂中から現われ、また潜った。巨体の激しい動
 きに、砂ぼこりが舞い上がり、周囲が暗くなるほどだった。

「あ！」アリサは、砂の入った目をおさえた。

次の瞬間、彼女の体は大きく跳ねとばされていた。リバイアサンのしつぽ攻撃！ 砂が
 クッションの役割をしなければ、骨の何本かは折れていたに違いない（HPマイナス1）。
 「このミミズ野郎！」

さらにアリサを襲おうとするリバイアサンを、タイロンが食い止めた。ミヤウヤルツが
 とどめを刺す（戦闘Pプラス1、プラス50メセタ）。

「ありがとう。もう1匹の紫のほうは？」アリサはタイロンに起こされた。

「逃にげてしまったようだな」

↓265へ

239

突然、炎ほのおの帯おびが真正面ましようめんから伸のびてきた！ あやうく身をかわすアリサたち。

「だれだ!？」

奇怪きかいな鳴なき声が返かえってきた。薄暗うすぐらい通路おとぎの奥おくに、赤い炎がちらちら見える。——やがて、グリーン・ドラゴンがその恐おそろしい姿すがたを現あらわした。それも2匹！

グリーン・ドラゴン 35 + バトルP (1のC)

アリサたち 戦闘せんとうP + バトルP (2のH) で戦たたかいます。

●敵よりPが上 …………… ↓214へ ●下 …………… ↓258へ

240

L字の曲がり角かどに出た。このまま曲がるか、もどるか？

●南に進む …………… ↓26へ ●東に進む …………… ↓269へ

241

『混沌こんとんの使い』は、想像そうぞう以上の敵だった。

こともあろうに、ヘタンドレ！——最強の攻撃魔術を使ったのだ！
 青白い電光が、宙に集まり、巨大な球になった。その球ははじけ、四方に飛び散った！
 かわす方法はなかった。その場にいた全員が黒こげになって死んだ。

END

242

「さあこい、怪物め！」アリサたちは武器をかまえた。

ドラゴンワイズ 30 + バトルP (1のD)

アリサたち 戦闘P + バトルP (2のB) で戦います。

●敵よりPが上 …………… ↓ 298 へ ●下 …………… ↓ 271 へ

243

うなり声をあげ、ガイアは、丸太ほどもある腕を伸ばしてきた。

アリサはそれをすり抜け、ガイアの懐に潜りこんだ。怪物の足を思いつきり踏みつける。

——だが、ガイアは蚊が止まったほどにも感じていないようだ。

「あら、鈍感なヤツ。なら、これは！」

彼女は、そのまま脚をはねあげた。ブーツの先端が、股間にヒット！ ガイアは、身を

折りたたむようにして苦しんだ。そこを狙って、あつさりど、とどめを刺す。

「うーん、なんて悪どい勝ちかたなんだ」

「どーいうこと、タイロンさん？」

アリサがニヤリとして振り返った。

「い、いや、戦い慣れてきたな、ということ」タイロンの上でミヤウが肩をすくめる。

先が行き止まりだったので、アリサたちはもと来た通路をもどった。

↓380へ

244

L字の曲がり角に出た。

●西に進む

……………↓314へ

●北に進む

……………↓190へ

245

「やーっ！」アリサとタイロンは同時に武器をくりだした。

必殺の同時攻撃！——と思えたが、まったく効かなかった。タロスの分厚い皮膚には、刃物が通じないのだ。

うるたえるアリサに、タロスの巨大なこぶしが襲いかかった。間一髪、タイロンがかばって受ける（HPマイナス3）。アリサはタイロンの名を叫んだ。

「な、なんてことはない。——それより、ヤツの急所きゆうしよを狙うねらんだ！」

言われるより早く、ルツとミヤウは飛び上がっていた。ルツは後頭部を、ミヤウは目を攻撃した。たまらず倒れたタロス。そのノドに、タイロンのオノが落ちた。

「ふう、思い知ったか、ゴリラ野郎やろう……」

●その先のL字の角かどを北に進む……………↓182へ

●西に進む……………↓292へ

246

L字の曲がり角かどに出た。南側の壁かべには氷の結晶こおり けっしょうをかたどった扉とびらがある。しかし、ロックされているらしく、手で押したくらいではビクともしない。

(この扉あを開けられるのはミラクルキーを持つ者、もしくはマジックPが15以上の者のみ。超能力ちようのうりよくを使って開ける場合は、マジックPマイナス5)

●南側の扉を開ける (条件じょうけんを満たしている者のみ) ……↓299へ

●東に進む……………↓358へ ●北に進む……………↓310へ

247

ソピアの村に向かう一行は、ガスのたちこめる湿原しっげんにさしかかった。

「ガスが濃こくなつてきたわね。ほとんど前が見えやしない」

●ガスクリーナーを持っている……………↓160へ

●持っていない……………↓275へ

248

セントールは、それぞれ右手に剣、左手にビームガンを持って攻撃してきた。

鋭すまじいビームがアリサたちに飛んでくる。ヨロイや盾たてに命中し、焦こげ穴を開ける。

「こんな所じゃ、身を隠かくす場所もないわ。一時撒退いちじてつたいよ」アリサが叫さけんだ。

だが、そうはできなかつた。1体がアリサたちの後方に回りこんだのだ。すばやい動き

だつた。だてに親衛隊しんえいたいに選えらばれているわけではない。

アリサは苦痛くつうに身をよじつた。セントールの剣が、前後から体をつらぬいたのだ！

急速きゆうそくに意識いしきを失うしないつつあるアリサは、仲間なかまの声を聞いたような気がした……………。

END

249

アリサたちは、ルツの案内あんないでその洞窟どうくつにやつてきた。

ふいに、上のほうから何か落ちてきた。モンスターフライだ！

「む、待て、死んでいるぜ。——ここは、いったいどういう所なんだ、ルツ？」
 「わたしの師匠ししやう、タジムが修行しゆぎやうしている洞窟どうくつです。どうやら、ラシークの配下はいかの襲撃しゆうげきにあつたようですね。師匠のことだから、だいじょうぶだとは思いますが」
 一行は洞窟の中に入った。すぐに分岐路ぶんきろになっている。
 「わたしも、ここに入るのは初めてです。カンで進むしかない」

●南に進む …………… ↓190へ ●西に進む …………… ↓277へ

250

2匹の怪物かいぶつは、10メートル以上もの姿すがたを見せた。それでもまだ、かなりの部分が砂すなの中に残っているようだ。青いほうをリバイアサン、紫むらさきのほうをデザートリーチという。

リバイアサンとデザートリーチ 25+バトルP (1のG)
 アリサたち 戦闘P+バトルP (2のE) で戦います。

●敵よりPが上 …………… ↓211へ ●下 …………… ↓238へ

251

怪物かいぶつが出る危険地帯きけんちたいだけあつて、アーマーショップは街まちのいたる所にあつた。その中の一軒いっけんにアリサたちは入つた。売っていたのは、

○レーザーガン 2000メセタ（銃の中では最高の威力。ヒートガンを持っている人は、それを下取りに出すことによつて、1000メセタで買える。ニードルガンの方は、150メセタ）

○アニマルクラブ 1500メセタ（ミヤウ用の防具）

○サイコウオンド 1500メセタ（ルツ用の武器）

（買ったものは、アイテムリストに記入し、値段分の金をマイナスすること。また、買えば、それぞれ戦闘Pが1ずつプラスされる）

アリサたちは、店をあとにした。

↓343へ

252

アリサは、首筋にチクンという痛みを感じた。とたんに軽いめまいが襲う。

「気をつけろ！ こいつら毒針を持っているぞ！」

アリサたちは背中を合わせ、バイターフライと戦った。なんとか撃退したものの、めまいのため討ちもらしたヤツも多かつた。

洞窟を出た一行は、そこで『アビオンの村まで500メートル。ローアの村まで2キロ』という看板を見つけた。

●アビオンの村に行く……………↓223へ ●ローアの村に行く……………↓126へ

253

階段を見つけたアリサたちは、それを登っていった。かなりの距離を移動し、やっと上の階に到着。地上からは相当の高さにあるようだ。
「見て、この階も迷宮よ」

- 北に進む ↓213へ
- 南に進む ↓294へ
- 西に進む ↓228へ

254

L字の曲がり角に出た。角の南側に、不気味な飾りのついた扉がある。
「なによ、このドア。ダンジョンキーでも開かないわ」

(この扉は、ミラクルキーを持つ者、もしくはマジックPが15以上の者でなければ開けられない)

- 東に進む ↓235へ
- 北に進む ↓212へ
- 南のドアを開ける (条件を満たしている者のみ) ↓283へ



255

ヤツを相手に戦っているのは、メデューサーやラシークと戦うまでに体力を消耗しょうもうしてしま
う。アリサは、自分の持つ超能力ちようのうりよくのひとつを使った。

「ラクスタ！」（マジックPマイナス2）

ガイアは、アリサたちの逃げ足の速はやさに驚おどろいた。冗談じようだんのようだが、これはホントの超能
力なのである。——一行はもと来た通路へ。

↓380へ

256

一行の行く手を灰色はいいろの壁かべがさえぎった。

「行き止まりか……。あれ、こんな所に宝箱たからばこがあるわよ」壁のくぼみで、アリサがそれを見つけた。

現在の戦闘Pせんとうに、バトルP（2のH）を足たすと？！

●奇数きすう ↓204へ ●偶数ぐうすう ↓237へ

257

階段の所にもどってきた。ひよつとしたら、下の階にまだ見落としがあるかも……。

●階段を降りる ↓276へ ●降りないでもどる ↓194へ

258

まだ距離きょりがあるうちに、ドラゴンどもは再びほのお炎を吐いた。今度は同時に！
狭い通路せまで、2本の炎をかわすことは無理だ。アリサたちは、身を伏ふせたが、背中せなかをや
られてしまった（HPマイナス3）。

ヨロイのおかげで、なんとか助かっているが、このままではやられる！

●HPが6以上 …………… ↓214へ ●5以下 …………… ↓289へ

259

オノは、メデューサの髪かみ（ヘビ！）をかすめ、壁かべに深々と突つき刺ささった。血にまみれた
ヘビが、床ゆかでのたうちまわった。

「こしやくな、ぼうや！ 二度と生き返れないようにしてやるよ」

メデューサの目が妖あやしく輝かがく。

タイロンは、盾たてをかざした。

「そ、その盾は……」

「どうした、早く石にしてみるよ。——できまい。このペルセウスの盾は、おまえの魔力まりよく
を封ふうじこめる力を持っているんだ」タイロンは、壁からオノを引き抜いた。

「なまいきな！ マッドストーカーよ、こいつらを八つ裂ざきにしておしまい！」

メデューサとマッドストーカーの群れ 42 + バトルP (1のH)
 アリサたち 戦闘P + バトルP (2のF) で戦います。
 ●敵よりPが上 ↓ 301へ ●下 ↓ 220へ

260

ラシークはどこにいるのか？ さて、次はどこに？

●ソピアの村に行く ↓ 247へ ●パルマ星に飛ぶ ↓ 408へ
 ●デゾリス星に飛ぶ ↓ 405へ

261

L字の曲がり角^{かど}に出た。まだどこからともなく女の笑い声が聞こえる。

●北に進む ↓ 234へ ●東に進む ↓ 284へ

262

「そうですか……。それでは、しかたありませんな。別にいじわるをしているわけではなく、この村も食^くつていかなくはなりませんから……」
 「ええ、わかりますよ」(ちえっ！)

アリサたちは、村長から教えられた地下道を通り、無事にガス帯の外に出た。ルベノ号を止めてあるウーゾの村に帰る。その先は？

●パルマ星に飛ぶ ↓ 207へ ●デゾリス星に飛ぶ ↓ 405へ

263

その先は、さらにT字路になっていた。

●東に進む ↓ 182へ ●西に進む ↓ 239へ

●南に進む ↓ 292へ

264

前方の曲がり角から、カシヤカシヤという不気味な音が聞こえてきた。剣と盾を持ったガイコツたちが、何体もアリサたちの前に立ちふさがった。白骨兵士系の中では最強のマッドストーカーの群れだ！

マッドストーカーの群れ 33 + バトルP (1のJ)

アリサたち 戦闘P + バトルP (2のB) で戦います。

●敵よりPが上 ↓ 359へ ●下 ↓ 320へ

砂漠を渡り、アリサたちはカスバの村に到着した。

「ああ。ウーゾで聞いた話では、近くの洞窟の中に怪物がいるそうだな。先にそっちの洞窟に行ってみるか」

「待って——あれは何？」

アリサは、たち登る煙に気づいた。さらに遠くのほうには何本もそれがある。

「どうした？ 火事か？」

「と、とんでもない！ 煙のほうから駆けてきた村人は、止まらずに叫んだ。「ドラゴンワイズが、洞窟から出てきたんだ！ こんなことは10年ぶりだよ！」

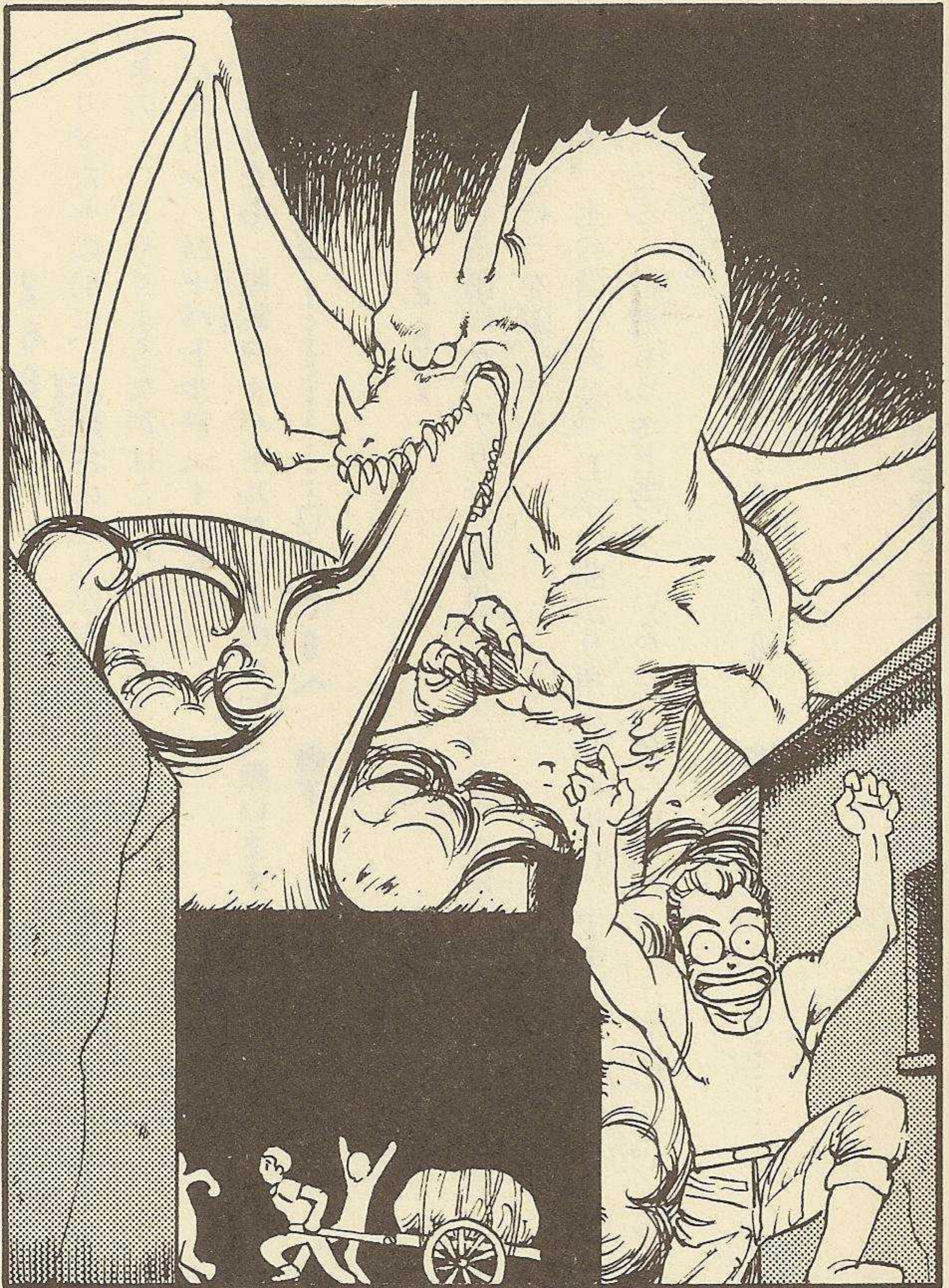
「ドラゴンワイズだって！」今度はタイロンが叫んだ。

ドラゴンワイズは、額にカーバンクアイという宝石をはめこんでいることで有名な竜だ。性格は、竜の種類の中でも特に凶暴。宝石目当てに戦って、返り討ちにあつた者は、数多くいるという。

「あれがそうね？」

彼女たちは、燃え上がる家を前にして立ち止まった。炎の中に浮び上がる巨大な姿！ ドラゴンワイズの大きく裂けた口は、逃げまどう村人をせせら笑っているようだった。

●マジックPが6以上……………↓216へ ●5以下……………↓242へ



265●10年ぶりに^{どうくつ}洞窟から^{すがた}姿を現わしたドラゴンワイズ。その大
 きく裂けた口は、村人をせせら笑っているようだった。

266

アリサたちの前に、赤鋼色せきどういろの巨人が現われた。魔力まりよくで動く怪物かいぶつ——バルカンだった。さ
っきの、つぶやくような声はこいつの声だったのだ。

バルカン 24+バトルP (1のA)

アリサたち 戦闘P+バトルP (2のG) で戦います。

●敵よりPが上 …………… ↓ 286へ ●下 …………… ↓ 221へ

267

上下に通じる階段を、アリサは発見した。ラシークは、上にいるとのことなので、迷わ
ずに上りのほうのぼを選択せんたくする。

そして、上の階とうちやくに到着。L字の曲がり角かどを北に折れ、T字路の所で立ち止まった。

さて、どちらに進もうかと考えていると、後ろのシャッターが閉とじた。もうこれで下
は降りられない。

●西に進む …………… ↓ 328へ ●東に進む …………… ↓ 415へ

268

へタレドレ！——その言葉を聞くこと、それは死を意味する。こともあろうに、『混沌こんとんの

『使い』は、その最強の超能力をいきなり使ったのだ！

青白い電光が宙に集まり、巨大な球になった。まさにそれがはじけようという時。

「いかん！」タジムがその球に飛びこんだ。

すさまじい音とともに、老人の体が吹っ飛んだ！ 肉の焦げる嫌なにおいが広まった。

「タジム様！」

へちい！ あと1秒後には、皆殺しにできたものを！

ルツは、フードをはらった。青い長髪がざわざわと波打つ。彼の体から発散される怒り

のエネルギーをアリサは感じとった。

「このルツ、きさまには容赦せん！」今までにない激しい口調だった。

怪人の振り下ろすオノをくぐり抜け、ルツは突進した。杖の先端が、ダークマローダー

の顔面を打ち砕いた！

ルツはタジムを振り返った。アリサが抱き起こしている老人はすでに虫の息だった。

「わが、可愛い弟子、ルツよ。……おまえは、予想以上に成長して……くれた。おまえを

生かすために、死ぬことを……わしは誇りに思う。その箱に……渡すものがある。ラシ

ークとのた……戦いに役立てるがよ……い」タジムは死んだ（Hをチエック）。

（箱に入っていたのはミラクルキーと、超能力者が使うフロードマントだった。それぞれ

をアイテムリストに記入。マジックPプラス10）

ルツは、師匠ししやうの形見かたみのフラードマントをはおった。

●Gにチェックがある……………↓215へ ●ない……………↓307へ

269

またしても分岐路ぶんきろに出た。アリサたちはこのT字路を、

●北に進む……………↓290へ ●西に進む……………↓240へ

●南に進む……………↓311へ

270

氷のトンネルを抜け、村に着いた。ここがアウクバルだ。

細長い体に防寒具ぼうかんぐをまといつけた原住民げんじゆうみん——デゾリアンたちが、アリサたちを迎えてくれた。思ったより、人なつっこい連中だった。

彼らの話によれば、ラシークはこの近くのコロナの塔とうに来たことがあるそうだった。

「コロナの塔！ それはどこにあるの？」

「このアウクバルの南、3キロほどの所ですだよ。恐ろしい化け物が、いっぱいいるだ」

「でしようね……。あれ？ この村は、なんでふたつに仕切しきってあるんですか？ 向こう

側にも人は住んでいるんでしょ」

「けっ！ 東地区のヤツらはウソつきですだよ。なるべくつき合わないようにしているだ」

●コロナの塔に向かう……………↓335へ ●村の反対側に行く……………↓355へ

271

ドラゴンワイズの攻撃は、予想以上にすごかった。

なんと、燃え上がる家を持ち上げ、投げ飛ばしてきたのだ！ 直撃はかわしたものの、

飛び散った破片や炎がアリサたちを襲った！（HPマイナス3）

●現在のHPが5以上……………↓298へ ●4以下……………↓229へ

272

アリサたちは、塔のあった場所に行ってみた。雪の中から、それらしい残骸がいくつかに飛び出しているだけで、もはや塔など跡形もなかった。

「あれ？ これは」アリサは、雪の上に転がっていた壺を拾いあげた。「ネキセさんからもらった、兄さんの壺にそっくりだわ。たしかにそう」（ラコニアン・ポット入手）

そこから引き上げようとした時。——巨大な影が一行の上に覆いかぶさった。

マンモスだ！ さっきの群れからはぐれていた2頭だった！

●レーザーガンを持っている……………↓351へ ●持っていない……………↓323へ

石畳いしだたみで造られた通路を進んでいく。やがてT字路に出た。

●東に進む……………↓256へ ●西に進む……………↓212へ

●南に進む……………↓235へ

セントールは、それぞれ右手に剣、左手にビームガンを持って攻撃してきた。

いきなり、赤いビームがアリサの頬ほおをかすめる。

「接近戦せつきんせんよ！ ヤツらに銃じゆうを使わせちゃダメ！」

ミヤウが空中から怪騎士かいきしどもに襲おそいかかった。それに注意を奪うばわれているスキに、アリサたちは距離きょりをつめた。激しく剣と剣がぶつかり、火花ひばなを散ちらす。

「やーっ！」

必殺の気合いをこめ、アリサは剣を振ふるった！ 鈍にぶい音がし、セントールの面当めんあてが割わ

れた。血を噴ふき上げ、怪騎士は倒れた。

振り向けば、もう1体はミヤウとタイロンが片づけていた。

セントールをやっつけた一行は、L字の曲がり角を、

●西に進む……………↓234へ ●南に進む……………↓380へ

275

「なんか変。急にめまいが……」(HPマイナス4)

このガスは、ただのガスではなかった。じわじわと体をむしばんでいく毒ガスだった!

●HPが6以上 …………… ↓209へ ●5以下 …………… ↓219へ

276

再び長い階段を下り、アリサたちは下の階にもどった。

いったい、メデューサはどこにいるのか?

↓380へ

277

L字の曲がり角に出た。

●東に進む …………… ↓218へ ●南に進む …………… ↓314へ

278

いきなり、ルツが前に踏みこんでいった。近寄られたヤツが慌てて手を差し出した。そこから火花が散ってルツの服を少し焦がす。その程度か」

ルツの髪が、ワイトの首にからみついた。それ自体が意志を持つように動き、魔道士の息の根を止めてしまった。

ほかのワイトたちがうろたえ、包囲を崩した。そのチャンスを見逃すアリサたちではない。残りのワイトたちをアツという間に片づけてしまった。

一行は、そこからL字の曲がり角を、

●西に進む

.....↓295へ

●南に進む

.....↓194へ

279

飛びかかってくるブルー・スライムを、剣でなぎはらうアリサ。ほかの5匹も、すでにタイロンたちがやつつけていた。

「たかがスライム。こんなもんよ。さあ、行きましようよ。——きやつ！」

突然、何かに足をからまれ、アリサは転倒した（HPマイナス1）。

やられたはずのスライムだった。このブルー・スライムはヒール（体力回復）の超能力が使えるのだ。

スライムは足をつたい、アリサにかみついてきた。

「へ、変態スライム！」

彼女は、その怪物を両手で引きはがすと、思いっきり床に叩きつけた！ さらに足でメ

チャクチャに踏みつける。ここまで破壊されれば、スライムも復元は不可能だった。
 残りのスライムは、一目散に逃げていった(プラス50メセタ)。
 ↓309へ

280

こちらでも、わかったことはほぼ同じだった。ただ……。
 「なに、コロナの塔が北にあるだと！ バカこくでねえ！ 東地区の連中こそ、ウソつきだあ。ホントの塔は南にあるだよ！」

●南の塔に向かう……………↓335へ ●北の塔に向かう……………↓400へ

281

「せっかくの話だけど、お断りするわ。じゃ」
 「お、おい、娘さん——」

アリサたちは、男を無視して歩いた。どうも、うさんくさい話だ。本当に武器があると
 しても、錆びた剣とか、暴発する銃とかのたぐいだろう。

男を引き離れたアリサたちは、

●アーマーショップに行く……………↓251へ ●スクレを出る……………↓343へ

いきなり広間に出た。細かい飾りの入った柱が、何本も天井を支えている。
「さっそくお出迎えみたいよ」

柱の陰からガイコツ兵士たちが現われた。

「マッドストーリーカードもか。オレたちの相手には、ちと役不足だな」

「大きな口をきくようになったわね、タイロンのぼうや」女の笑い声が響きわたった。

「では、わたしが相手をしましょうか」

広間の奥から、奇怪な怪物が現われた。髪の毛の1本1本が、生きたへび。そして、下半身そのものも巨大な大蛇のそれだった。

「きさまあ、メデューサ!!」

「また、やられに来たのかい、ぼうや。仲間を連れてきたってムダだよ」

「おのれ！」タイロンは、いきなりオノを投げつけた!

●ベルセウスの盾を持って 259へ ●持っていない …………… 312へ

ドアを開け、その先の長い階段を上っていった。

やがて上の階にたどり着いた。地上からは、かなりの高さにあるようだった。

通路の先が、さっそく分岐路ぶんきろになっている。

●南に進む ↓225へ ●西に進む ↓263へ

284

L字の曲がり角かどに出た。壁かべにちりばめられたヘビの彫刻ちようこくが、今にも飛びかかってきそうなほどりアルだ。

●北に進む ↓380へ ●西に進む ↓261へ

285

塔とうの中に入った。すると、いきなり――。

へふははは、来たか、愚おろかな人間ども。引き返すのなら今のうちだぞ」という声がした。突然、アリサたちの後ろにシャッターが落ちた。

へおつと、引き返すこともできなくなったな。ははは、では中に入って死ぬがよい!」

「ふん! そんなはったりなんか効きくもんですか」

意気いきごむアリサは、L字路を、
●南に進む ↓26へ ●東に進む ↓269へ

機械音をあげ、バルカンは口を開いた。肌はだが焼けるような熱風ねつふうを吐はき出す！

アリサたちは、身を投げ出すようにしてそれをかわした。

さらに怪物かいぶつは、固かたいこぶしを振り下ろす！ 狙ねらいはわずかにそれ、地面を打ち抜ぬいた。

アリサはバルカンの踵かかとを攻撃した！ その効果こうかはアリサの予想よそう以上だった。

バルカンは、ガクンと膝ひざを落とし、倒れた。口からマグマを血のように噴ふき出したかと思うと、体がバラバラに砕くだけ散ちったのだ！

「ふう、なんて好運こううんなの、一発で弱点じやくてんをつけるなんて……」

その先が行き止まりだったので、アリサたちはもと来た通路をもどった。⇩314へ

気になったアリサたちは、アルプラチノ高原こうげんに行ってみた。

「あの赤いのがラエルマベリーじゃない。わりとあつきり見つかつたじゃない」

「でも、どんなものなんだか、さっぱり分からないんだぜ。荷物にもつが増ふえるだけだ」

「力持ちのタイロンが、持てばいいだけのことでしょう」

「……（何も言えないタイロン）」（ラエルマベリー入手、アイテムリストに記入）

スクレまでもどつたアリサたちは、さつそくルベノ号を離陸りりくさせた。目的地は、もちろ

んパルマ星だ。

↓362へ

288

ガイア 38 + バトルP (1のD)

アリサたち 戦闘P + バトルP (2のG) で戦います。

●敵よりPが上 …… ↓243へ ●下 …… ↓302へ

289

アリサは思いきって立ち上がった。火炎かえんを浴あびつつも、ドラゴンに肉迫にくはく！ ついに1匹のノドを剣で突ついた。

「ただじゃ、死なないわ……タイロン、ルツ……ミヤウ、あとを頼たのんだ……わ」
重傷じゆうしやうを負おったアリサは、仲間なかまに見守まもられながら、兄のあとを追おった。

END (MPが5以上の人のみ、416へ)

290

先は階段のぼになつていた。アリサたちはそれを上り、上の階にたどり着いた。とたんに、後ろのシャッターが閉とじた。

「脅^{おど}しのつもりか？ ふん、どうあろうとこつちは先に進むだけさ」

●西に進む …………… ↓ 310へ ●南に進む …………… ↓ 358へ

291

下から、怪物^{かいぶつ}どもが上がってきた。ゴーレム、キングセイバー、フロストドラゴン、デスベアラー、マシンガード、マッドストーカーといった強敵の群^むれ……。これら全部を相手に、勝てるわけがない。

「だからといって、どこに逃^にげればいいのかよ！」
それもそのとおり。アリサたちは、縁^{ふち}に追^おいつめられ、そこから叩^{たた}き落とされた！

END

292

L字の曲がり角^{かど}に出た。

●東に進む …………… ↓ 225へ ●北に進む …………… ↓ 263へ

293

念^{ねん}のため、ミヤウが超能力^{ちようのうりよく}（ラピット）で宝箱^{たからばこ}の中を探^{さが}った（マジックPマイナス2）。

へやっぱりだ。爆弾ぼくだんがしかけられていたよ。今、外はずした。中に入っていたのは体力増強ぞうきようよう用のルオギニンだった。こういう所では、お金よりもこちらのほうがありがたい（HPプラス4）。

アリサたちは、もと来た通路をもどった。

↓ 26へ

294

T字路に出たアリサたち。どちらへ進むか？

●南に進む ↓ 318へ ●北に進む ↓ 194へ

●西に進む ↓ 264へ

295

L字の曲がり角かどに出た。曲がるか、引き返すか.....

●東に進む ↓ 213へ ●南に進む ↓ 228へ

296

一行の前に黒い影かげが、立ちふさがった。

「また怪物かいぶつか！」タイロンがオノをかざした。それをルツが制せいする。

「ルツよ、おもしろい連中と一緒にいるのう」影が、小柄な老人の姿に実体化した。

「お久しぶりです、タジム様。——怪物の死体を入口で見ましたが」

「ここに来たのは、今のところ、ザコばかりよ。それよりルツよ、ラシーク退治の旅に出ているそうじゃが、どのくらいの力がついたか試してやる。かかってきなさい」

「ちよつと待って！ 先生と弟子で戦おうというの！」アリサがふたりの間に入った。

「お嬢さん、どいていなさい。ケガなんかしたら損じゃよ」

「アリサさん、そのとおりだ。——師匠、ぎっくり腰になっても知りませんよ」

「口だけは達者になったな、ルツ」

「さあ、どうでしょうか」

ルツは杖を振り下ろした！ 先端がタジムの頭をかすめ、後ろの壁に穴を開けた！

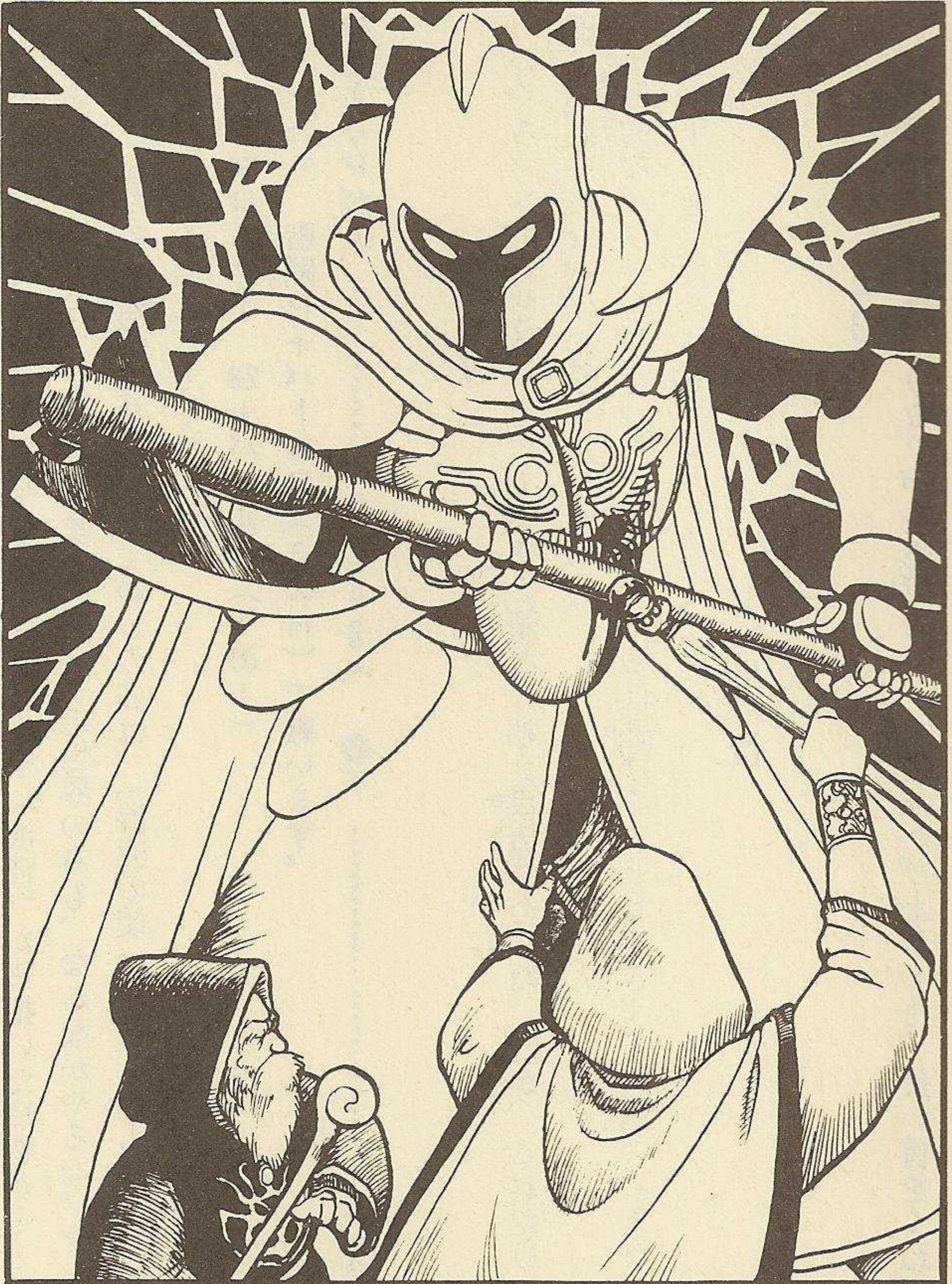
「ほう、やるようになったな」タジムが、ニヤリとしてその場を離れた。

アリサとタイロンは、ハツとした。——なんとということだろう。ルツが開けた穴から、血が流れ始めたのだ！

「どういうこと!？」

次の瞬間、壁をすり抜けるように、青いヨロイの怪人が現われた。血は、そいつの胸の穴から流れていた。

ルツとタジムは、最初からこの怪人のいることに気づいていたのだ。



296●ルツとタジムの師弟対決の途中、^{とちゆう}ダークマローダーが^{すがた}姿を
^{こんとん}現わした。「混沌」からの使い、^{じゃきよう まどうし}邪教の魔道士だ！

「こやつ、今までのザコとは違うな。ラシークが『混沌』から招いた怪物か……」
へふふふ……怪人は、不気味に笑った。へこの世界の者も、なかなかやるな。ラシークが、
わしを呼んだのも無理はない。——わしの名は、『混沌の使い』ダークマローダー！ 今受
けたこの傷、千倍にしてやる！

ダークマローダー 28 + バトルP (1のー)

ルツたち 戦闘P + バトルP (2のH) で戦います。

●敵よりPが上 …… ↓ 268へ ●下 …… ↓ 241へ

297

いくらマンモスとはいえ、1頭や2頭なら戦う自信はあった。だが、これだけの大群を
前に、剣や銃など何の役にたとう。

圧倒的なパワーの差だった。アリサたちは逃げることもできず、雪崩のようなマンモス
どもの下じきになってしまった！

END

298

ドラゴンワイズは、うなり声をあげると、宙に浮かび上がった。長い首をくねらせ、ア

リサに飛びかかった！ ふいを突かれ、ほかの者は手をだせない！

(兄さん、あたしに力を)。その瞬間、アリサの小柄な体は宙に舞った。

ドラゴンワイズは、そのまま飛び続け、石造りの巨大な壁に激突した。石材はガラガラと崩れ落ち、竜の体に降りそそぐ。

と、石材をはねとばし、ドラゴンワイズが首を伸ばした。そのノドには、アリサの剣が突き刺さっていた！ 竜は、最後の炎を天に向かって噴き出し、息絶えた。

「やったぞ、アリサ！ オレでさえ、こんな大物をやったことはない」と、タイロン。

「はあ……」

竜の額から宝石を抜き取ると、アリサは、ぺたんとしりもちをついた。急に緊張から解放されて、力が抜けたようだ(カーバンクルアイ入手、マジックPプラス2、プラス200メセタ)。

「す、すごい！ 本当にドラゴンワイズを退治しちまった！ しかも、こんな女の子が！」
恐怖に震えていた村人が集まってきた。

その村人たちから、アリサは、ソピアという村が近くにあることを聞いた。ガスに包まれているため、めったに人の出入りはないということだが(Gをチェック)。

「なんか、あやしいわね。ラシーク本人がいるかも……」

●Hにチェックがある………↓260へ ●ない………↓249へ

扉とびらを開けたとたん、冷氣れいきがアリサたちにまとわりついた。

空気中の水蒸気すいじょうきが凍りつき、キラキラと光っていた。ダイヤモンド・ダストという現象げんしやうだ。その美しい光景こうけいの中に、氷こおりの巨人が4体立っていた。

「ここまで来たか、反逆者はんぎやくしやども」

「ラシークはどこ!？」

「ここにはいない。ラシーク様はパルマ星、バヤマーレの丘のずっと上におられるのだ」

「そ、そんな所に?」

バヤマーレの丘といえば、アリサの出発点のすぐ近くではないか。そこをチェックしなかつたとは、うかつだった。

「でも、そんな大事なことを教えていいのか?」

「別にかまわない。おまえたちは、我らわれアイスマンの手にかかつて死ぬのだから!」

●超能力ちやうのうりよくで攻撃こうげき（マジックPが8以上のみ）……………↓321へ

●普通ふつうに攻撃……………↓347へ

300

村長は頭を下げ、金を受け取った（マイナス2000メセタ）。

それから、お返しにと言つて、宝箱たからばこをアリサたちにさし出した。

「中に入っている盾たては、『ペルセウスの盾』といひますのじゃ」

「おお！ ペルセウスの使つていたという盾か！ はるかな昔、メデューサを倒した時に使つていたという」タイロンが、興奮こうふんした様子ようすで盾を持ち上げた。かなり重いこの盾を使ひこなせるのは、彼しかいないだろう（ペルセウスの盾を入手、戦闘せんとうPプラス3）。

アリサたちは、村長から教えられた地下道を通り、無事ぶじにガス帯の外に出た。ルベノ号を止とめてあるウーゾの村に帰る。その先は？

●パルマ星に飛ぶ …………… ↓ 207 へ ●デゾリス星に飛ぶ …………… ↓ 405 へ

301

「死ね！」メデューサの手のひらから、鋭いビームがほとばしつた。

それは、タイロンの頭をかすめ、切り結むすんでいたマッドストーカーに当たつた。頭蓋骨ずがいこつが、粉こなみじんになつて消える。

「死ぬのはそつちだ！」

タイロンは、ジャマをするガイコツ兵士をなぎ倒し、跳とんだ！ 豪快ごうかいに舞まう巨体！

「ちつ」メデューサは、さらにビームを放はなつ。

勇者はそれを盾たてで受け、オノを振り下ろした！

ズバア——ッ！

ズズズ……。ヘビ女、メデューサの顔が、ゆっくりと左右に倒れていった。

その一撃は、怪物の体を真つ二つに引き裂いていたのだ。

「やったね、タイロン！」残りの敵を片づけたアリサたちが、駆け寄ってきた。真つ先にミヤウが肩の上に飛び乗る。

勇者の口元に、会心の笑みがあった。因縁の対決に今、完全決着をつけたのだ……。

タイロンは、メデューサの玉座にかけてあったオノを手にした。それこそ、彼が探し求めていた伝説のオノ——ラコニアン・アクセスであった。

(ラコニアン・アクセスをアイテムリストに記入し、戦闘Pプラス5。プラス300メセタ)

「パルマもモタビアも、怪しい所は回ったし……。これで、まだ行っていないのはデゾリス星だけね」

⇩405へ

302

アリサは、ガイアの胸を狙って剣を突き出した。だが、厚い体毛と皮膚のため、大したダメージはない。

ガイアは、驚く彼女を丸太のような腕で抱き上げた。

「離してよ、けだもの！ あ、ホントにけだものか……。痛い、ほ、骨が折れる……。口

氷のトンネルを抜け、村に着いた。ここがアウクバルだ。

細長い体に防寒具をまといつけた原住民——デゾリアンたちが、アリサたちを迎えてくれた。思ったより友好的だった。

彼らの話によれば、ラシークはこの星のコロナの塔に来たことがあるそうだった。

「コロナの塔！ それはどこにあるの？」

「このアウクバルの北、5キロほどの所ですだよ。恐ろしい化け物が、いっぱいいるだ」

「でしようね……。あれ？ この村は、なんでふたつに仕切つてあるんですか？ 向こう側にも人は住んでいるんですよ」

「けっ！ 西地区のヤツらはウソつきですだよ。なるべく付き合わないようになっているだ」
「ふーん」（一をチエック）

●コロナの塔に向かう……………↓400へ ●村の反対側に行く……………↓280へ

またもやラシークの杖から飛んだ電光が、アリサたちを打ちのめした！

「ここまでやってきたことに免じ、なぶり殺しだけはやめておこう。ひと思いに殺してやる！」

次の電光は、強烈だった。一瞬のうちにアリサたちの心臓が停止したのだから……。

END

306

「みんな、さがって！」ルツが一行の先頭に出た。

「どうする気だ、旦那。まさか死ぬ気じゃ」

「そんなつもりはありませんよ、タイロンさん。最大の攻撃魔術を使うだけです」

ルツは、『タンドレ』の呪文をとこなえた！ それも二度二度と。

彼の体が青く光り、そこから何本もの稲妻が飛んだ！ 光の矢が、マンモスの大群に降

りそそぐ！（マジックPマイナス6）

直撃を受けた巨獣は燃え上がり、まわりのものはパニック状態におちいった。群れは、傷ついた仲間さえ踏み潰し、逆方向に走っていった。

「——む。ここは……？」

「動かないで、ルツさん。ほんの1分くらい、気を失っていたんですよ。だいじょうぶ、マンモスたちは、逃げていきましたから。それにしてもすごいわ、アルゴルーの怪物どもをたったひとりで追いつ返すなんて」

「そのかわり、塔も倒れてしまったけどな。マンモスどもの暴走で……」

「タイロン！ そんなことなんか、いいじゃない！」

アリサの剣幕けんまくに驚きおどろ、ミヤウが主人の肩かたから飛び降りた。

●1にチェックがある……………↓374へ ●ない……………↓272へ

307

悲しみの洞窟どうくつを出たアリサたち。これから先は？

●カスバの村に行く……………↓265へ ●パルマ星に飛ぶ……………↓408へ

●デゾリス星に飛ぶ……………↓405へ

308

フタを開けたとたん、宝箱たからばこから針はりが飛び出した！ 手を押さえ、うめくアリサせんとう（戦闘P

マイナス1）。

不幸ふこうちゆう中の幸さいわいで、中にあるルオギニンは無事ぶじだった（それを飲んでHPプラス4）。

一行はもと来た通路をもどり、さらに西のほうへ。……………↓402へ

309

トンネルを抜ぬけると、スクレの街まちだった。外に比べると、別世界のように暖あたたかい所だ。

(街の病院に行くことが可能。20メセタ払うと、HPプラス5)。

アリサたちは、近くのレストランで、この星についての情報を集めた。最近、見たこともなかった怪物が現われ、街の人間にも被害が出ているという。ひどい時には、街の玄関でもあるトンネルの中にも入ってくるそうさだ。

「だから、ブルー・スライムがいたのね……。他に人の住んでいる所はないんですか？」

「原住民、デゾリアンたちの村がいくつかありますよ。一番大きいのは、アウクバルですかねえ。いくつか地下通路を通れば、たどり着きますよ。もつとも、途中で怪物に会わなければですけどね」と、レストランの給仕が教えてくれた。

「ラシークが、最近この星に寄ったということとは？」

給仕は、黙って首を振った。そして、腫れ物に触るような手つきで、皿を片づけた。

「しかたがないな。やはり、オレたちの手で化け物退治を続けるとするか」

「待って、タイロン、その前に——」

●アーマーショップに行く……↓251へ ●さらに人に聞く………↓230へ

310

空中に4つの奇怪な影が浮かび上がった。脚のないサソリを直立させたような怪物——
エクゼキュートだ！

エクゼキュート4匹 39+バトルP(1のA)

アリサたち 戦闘P+バトルP(2のD)で戦います。

●敵よりPが上 …… ↓341へ ●下 …… ↓365へ

311

先のT字路で、ひよろ長い怪人たちが一行を待ちかまえていた。

「デゾリアンみたい」アリサは、この星の原住民の名を口にした。

「違あーう。我々は、デゾリアンなどよりもつとエライ、デゾリアンヘッドなのだあー。ラシーク様に逆らっているという、おまえらを退治してやるう。そうすれば、我々はもつともつとエラくなれるのだあー！」

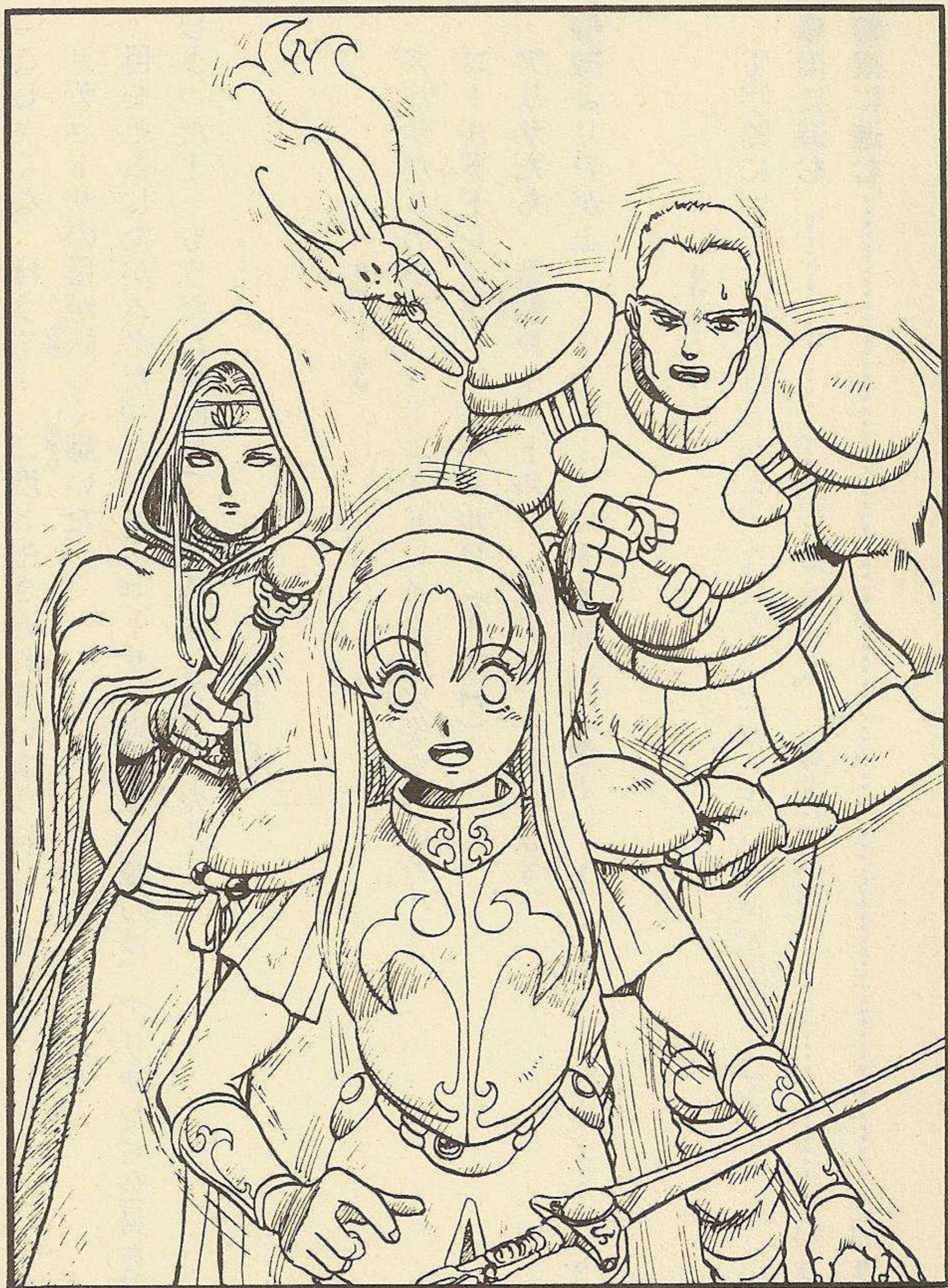
デゾリアンヘッドたち 41+バトルP(1のH)

アリサたち 戦闘P+バトルP(2のB)で戦います。

●敵よりPが上 …… ↓340へ ●下 …… ↓389へ

312

オノは、メデューサの髪(へビ!)をかすめ、壁に深々と突き刺さった。ちぎれたへビが、床でのたうちまわった。



312●メデューサの^{まりよく}魔力の前に、アリサたちは石になってしまっ
た！ ^{はんげき}もう反撃はできない。アリサの^{ぼうけん}冒険は終わった……。

「こしやくな、ぼうや！ 二度と生き返れないようにしてやるよ」
メデューサの目が妖しく輝いた。
目をそらしたがムダだった。メデューサの恐ろしい魔力は、アリサたち全員を石にしてしまった！ もうだれも助けしてくれる者はなかった……。

END

313

アリサたちめがけ、ゴールドドレイクは火炎を吐いた！

ゴールドドレイク 47 + バトルP (1のH)

アリサたち 戦闘P + バトルP (2のC) で戦います。

●敵よりPが上 …… ↓ 404へ ●下 …… ↓ 388へ

314

T字路に出た。南のほうから、なにかつぶやくような声が聞こえてくる。

●南に進む …… ↓ 266へ ●北に進む …… ↓ 277へ

●東に進む …… ↓ 244へ

助けてくれた礼れいを言うのと、デゾリアンはさっさと外に出ていった。

「なんだったんだ、今の？」

「それはともかく、彼は情報じょうほうを残してくれましたよ」と、ルツ。彼はテレパシーで、デゾリアンの頭の中をしつかりとのぞいていたのだ（マジックPマイナス2）。

「彼の言っていたラエルマベリーというのは、アルプラチノ高原特産の果実かじつのことです。もちろん普通ふつうの食料にもなりますが、ジャコウネコという生物が食べると、特殊とくしゆな現象げんじようが起こるといふことです」

「ジャコウネコ？ それに特殊な現象って？」

「そこまでは読み取れませんが……」

↓287へ

「いいわよ」

本当にいいのか、という顔をするタイロンたちに、アリサはウインクした。

当の男も、あっさりOKされるとは思っていなかったようだ。顔のキズあとを指でひっかき、言葉につまったようだった。

「———そ、そうかい。武器っていうのは、こいつだ」男は大きなカバンを開けた。

「対マンモス用のミサイル・ランチャー。街のアーマーシヨップなんかじゃ、手に入らない代物だ。弾頭は、もう製造中止で1発しかないけど、威力はバツグンだぜ。マンモスやドラゴンといった大物だつて、一撃でやっつけることができる」

「でも、1発しか撃てないんじゃないやなあ」

「外さなきゃいいのよ。タイロンには、その自信がないっていうの？」

「そ、そんなことはない！」

「なら決まりね」アリサは、にこりと笑った（アイテムリストからカーバンクルアイを消し、ミサイル・ランチャーを記入する）。

男と別れたアリサたちは、

●アーマーシヨップに行く …… ↓ 2 5 1 へ ●スクレを出る …… ↓ 3 4 3 へ

3 1 7

アリサが手を触れたとたん、宝箱はボン！ と破裂した。

破片が飛び散り、一行を傷つけた！（戦闘Pマイナス1、HPマイナス2）。

「なんてワナなの！ 味方がひっかかったらどうする気!？」アリサが叫んだ。

アリサたちはL字路を、

●南に進む …… ↓ 4 1 2 へ ●東に進む …… ↓ 4 0 2 へ

318

通路の先は行き止まりになっていた。壁の一部がくぼんで、そこに宝箱が収まっている。
 「何が入っているのかしら？」

●マジックPが3以上……………↓339へ ●2以下……………↓361へ

319

デスベアラーが攻撃呪文をとこなえようとしている？

●マジックPが7以上……………↓366へ ●6以下……………↓337へ

320

アリサは、先頭のヤツの頭骸骨を叩き落とした。

「一丁あがり！——え？ きやつ！」頭を失ったマッドストーリーカーは倒れず、アリサの腕を切りつけた！（HPマイナス1）

「こいつら、不死身じゃないでしょうね!？」

その時、アリサの剣が偶然、相手のあばらの部分に入った。人間なら、ちようど心臓のある場所だ。——とたんにマッドストーリーカーはバラバラに崩れ落ちた。

「そうか！ そそこが弱点か！」

最強とはいえ、たかがガイコツ。弱点がわかれば大した敵ではなかった。アリサたちは、アツという間にマッドストーリーカーを全滅させてしまった。その後、曲がり角をどうするか？

●東に進む …………… ↓294へ ●北に進む …………… ↓228へ

321

アイスマンが、より冷たい息を吹きかけてきた。——だが、アリサたちには届かなかった。ルツがムワラで見えない壁を作り、はね返したからだ。

「お返しだ！」

今度は、ルツとアリサの手から火球が飛んだ！ アリサも、フレエリの超能力を操れるようになっていたのだ（マジックPマイナス6）。

ふたりの手から放たれた火球は、巨人たちの体にえぐりこんでいった。

だが、さすがにこのコロナの塔を任せただけにはある。それだけでは、倒れなかった。

アイスマン4体 42 + バトルP (1のJ)

アリサたち 戦闘P + バトルP (2のG) で戦います。

●敵よりPが上 …………… ↓375へ ●下 …………… ↓393へ

322

あの杖だ！ あの杖を奪ってしまえば、ラシークは攻撃手段を失う。

タイロンたちが正面から戦ってくれているうちに、アリサはそつと後ろに回りこんだ。スキを見て、手を伸す。

——その瞬間アリサの体ははじき飛ばされた！（戦闘Pマイナス1）

「バカめ。この杖は、『混沌』に祝福された者でなければ、触れることも許されないのだ」

「くっ！ けっこうよ、そんなものに祝福されなくても」腫れた手をかばい、アリサは起き上がった。

↓224へ

323

アリサたちは、つねにマンモスの後ろに回りこんで戦った。まともに力比べして、勝てる敵ではない、長い鼻と牙から身を守る必要があったからだ。

何度も何度も攻撃をくりかえし、ようやく2頭ともやつつけた時には、アリサも倒れそうなくらい疲れていた（戦闘Pプラス1、HPマイナス2）。

一行はアウクバル周辺にもどり、ぐるぐる回っているうちにもうひとつの塔を発見した。「これがコロナの塔かも。だって、村の半分はウソつきだって言っていたでしょ」アリサは、自分に言い聞かせるように言った。

↓285へ

324

ゴールドドレイクを撃破したアリサたちは、エア・キャツスルに降り立った。デゾリス星で、アイスマンが言った『丘のずっと上』というのは、まさにこのことだったのだ。

空飛ぶ巨大な岩盤の上に建てられた白亜の城。その美しさに加え、今までの戦いが、ウソに思えるほどの静けさ。

城の中を歩くアリサは疑問を抱いた。

「ここにラシークがいるのかしら……」

「もちろんだ。わしはここにおる」城の大広間にひとりの男が立っていた。

「ようこそ、エア・キャツスルに。わしが、ラシークだ」男は静かな口調で言った。

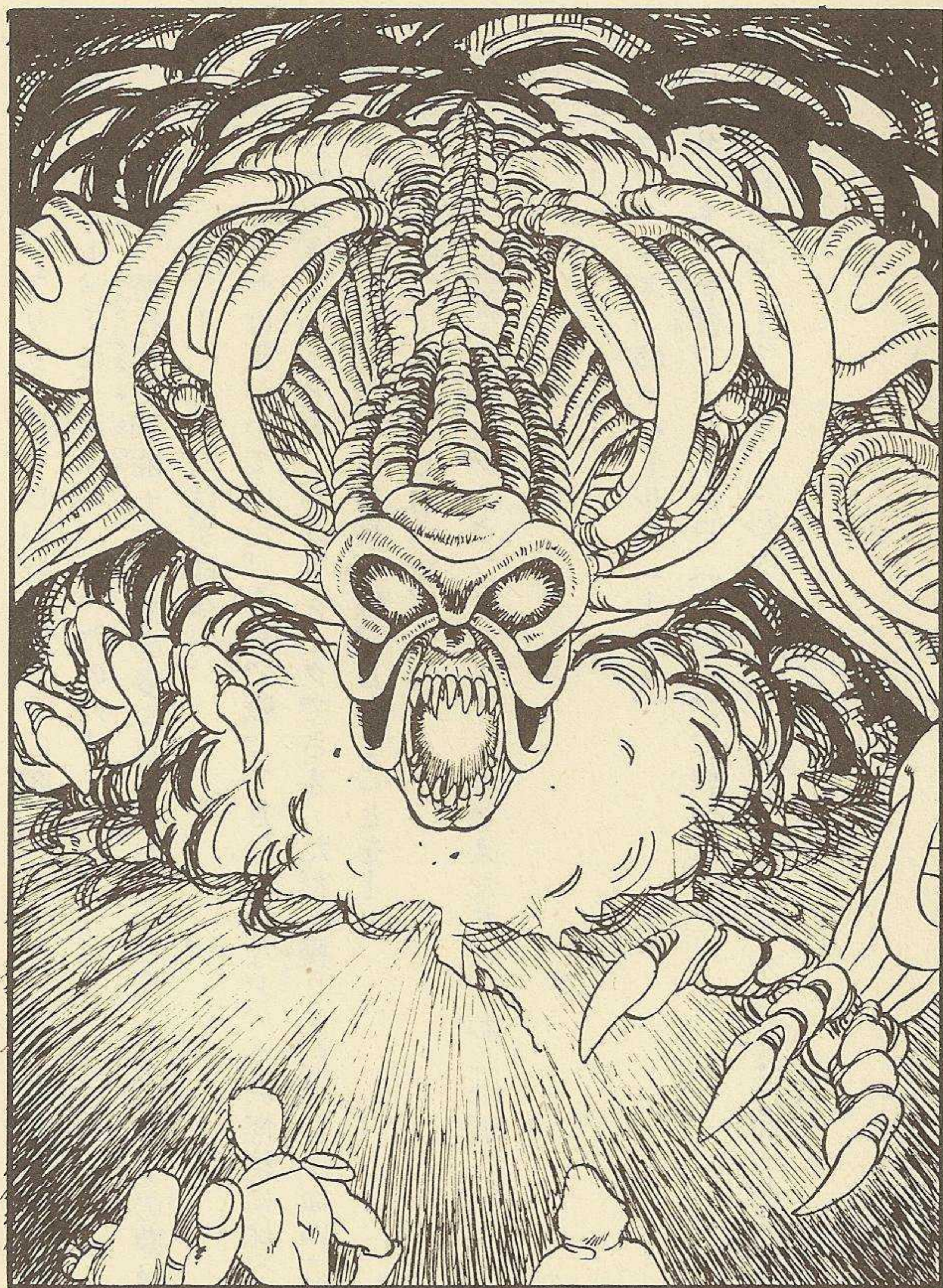
⇩ 395 ⇨

325

ハッチの中から、黒い霧のようなものが流れ出てきた。一瞬、渦を巻いたかと思うと、

それは怪物の姿に実体化した！

発達した筋肉と機械を融合させたようなメタリック・ブルーの巨体。下半身は、まだ黒い霧の中にあって見えない。



325●霧きりの中から、メタリック・ブルーの巨大な怪物かいぶつが現われた。
今まで戦った敵など、こいつに比べればザコだ！

なによりも、アリサの目をひいたのは、その顔だった。モタビア総督そうとくの家で見た悪夢あくむの怪物——ナイトメアに、瓜うりふたつだったのだ！

アリサの持つ潜在的予知能力せんざいてきよちのうりよくが、あの夢を見させたのか？ ならば、あの夢は正夢まさゆめ？
——いや、違う！ そんなはずはない。

しかし、アリサは気づいていた。今まで戦ってきた相手など、この怪物に比べれば、単なるザコに過ぎすないことを。あのラシークでさえ、ただの操り人形あやつでしかないことを。そして、この怪物こそが倒すべき真の敵だということをして！

怪物の赤い目が、ピクリと動いた。

へわが名は、『混沌こんとんの魔王まおう』ダークファルス！ おまえたちは、わしの新しいしもべとなつてもらう！

「なにを！」

ダークファルス 55 + バトルP (1のA)

アリサたち 戦闘P + バトルP (2のJ) で戦います。

●敵よりPが上 …………… ↓ 392へ ●下 …………… ↓ 372へ

326

行き止まりの所に、赤いロボットが待ちかまえていた。戦闘用にフルチューンアップされたマシンガンダーだ！

マシンガンダー 43 + バトルP (1のG)

アリサたち 戦闘P + バトルP (2のA) で戦います。

● 敵よりPが上 …………… ↓ 353へ ● 下 …………… ↓ 390へ

327

ちようど突き当たりの所で、アリサは宝箱を見つけた。

●マジックPが3以上 …………… ↓ 293へ ● 2以下 …………… ↓ 345へ

328

突つき当たりの所にゴーレムが立っていた。全身を茶色の毛に覆われた、筋肉の化け物。強いタロス系モンスターの中でも、最強の敵だ！

ゴーレム 46 + バトルP (1のJ)

アリサたち 戦闘P + バトルP (2のD) で戦います。

●敵よりPが上 …………… ↓394へ ●下 …………… ↓379へ

329

アリサは、まだ慎重しんちようだった。

離れた所から、さらにフレエリ——火球かきゆうをダークファルスに叩たたきつける！
怪物かいぶつがのけぞっているうちに、すばやく自分の剣けんを拾ひろう。

勝負はまだわからない。このダークファルスという怪物、まだまだ底力そこぢからを見せていない。
いや、敵の攻撃を待っているようではだめだ。こちらから攻せめなくては！

「アリサ、オレたちがついていて忘れるなよ」と、タイロン。

(そうよ、みんながいるんだわ！)

ダークファルス 58 + バトルP (1のG)

アリサたち 戦闘P + バトルP (2のD) で戦います。

●敵よりPが上 …………… ↓420へ ●下 …………… ↓398へ

330

中に入っていたのは、体力増強たいりぞうきやう用のルオギニンだった。こういうところでは、お金よりもこちらのほうが役に立つ (HPプラス4)。

アリサたちは、もと来た通路をもどり、さらに西のほうへ。

↓402へ

331

勝負を長びかせれば、勝ち目はない。

マンモスの牙をかわし、アリサはジャンプ。巨獣の額に、剣を突き立てた！

「みんな、よけて！」

額から血しぶきをあげ、マンモスは走り出した。必死で身をかかわすタイロンたち。マンモスは、奥の壁をぶち抜き、頭をそこにめりこませて停止した。

「ふう、ブレーキの壊れた重戦車ってとこね」（マジックプラス1）

●L字路を東に進む …… ↓373へ ●北に進む …… ↓26へ

332

「死ぬのはあああ、おまえだあああ！」

ラシークの姿が、一瞬ぶれたかと思うと、突然アリサたちの後ろに現われた。そして、胴体からミサイルを発射した！ 轟音とともに、床が吹っ飛ぶ。直撃ではなかったものの、かなりのダメージだ（HPマイナス2）。

「く、部屋の中でミサイルを使うなんて、気違いじみてるわ！」

「ふふふふふ！ わしの体には高速移動が可能な加速装置と、ミサイル・ランチャーが内蔵されておるのだあ！ きさまらごときに勝ち目はないわあ！」

●レーザーガンを持っている ↓236へ ●持っていない …………… ↓364へ

333

「ラエルマベリー？ そういえば聞いたことがあるわ」

アリサは、モタビア総督の屋敷でロボットが言っていたことを思いだした。

そのことについて、いろいろデゾリアンに聞いてみた。

その結果わかったのは、ラエルマベリーは、アルプラチノ高原特産の果実ということだった。普通の食料にもなるが、ジャコウネコという生物が食べると、特殊な現象が起こるといふ。

「ジャコウネコ？ 特殊な現象？ どうしてそれが御禁制の品になってしまふの？」

その時には、デゾリアンはとつくに外に出ていつていた。謎だらけのアリサたちを残して。

↓287へ

334

ミヤウ、タイロン、ルツがたちどころに火だるまとなった。

アリサは、満身の力をこめて切りかかったが、炎の圧力に押しもどされてしまった。フロストドラゴンの攻撃が終わった跡には、骨さえ残っていないかった。こうなれば、いかなる魔術でも復活は不可能！

アリサの冒険は終わった。

END

335

アイスデツカーをアウクバルに置き、アリサたちは歩いて塔に向かった。

氷原のあちこちに深いクレバス（割れ目）があるというので、そうしたのだ。

一行が谷間の底に着いたころ、ちようど吹雪も止んできた。

「ねえ、見えるでしょ。谷の向こう側に塔が建っているの。きっと、あれがそうよ」

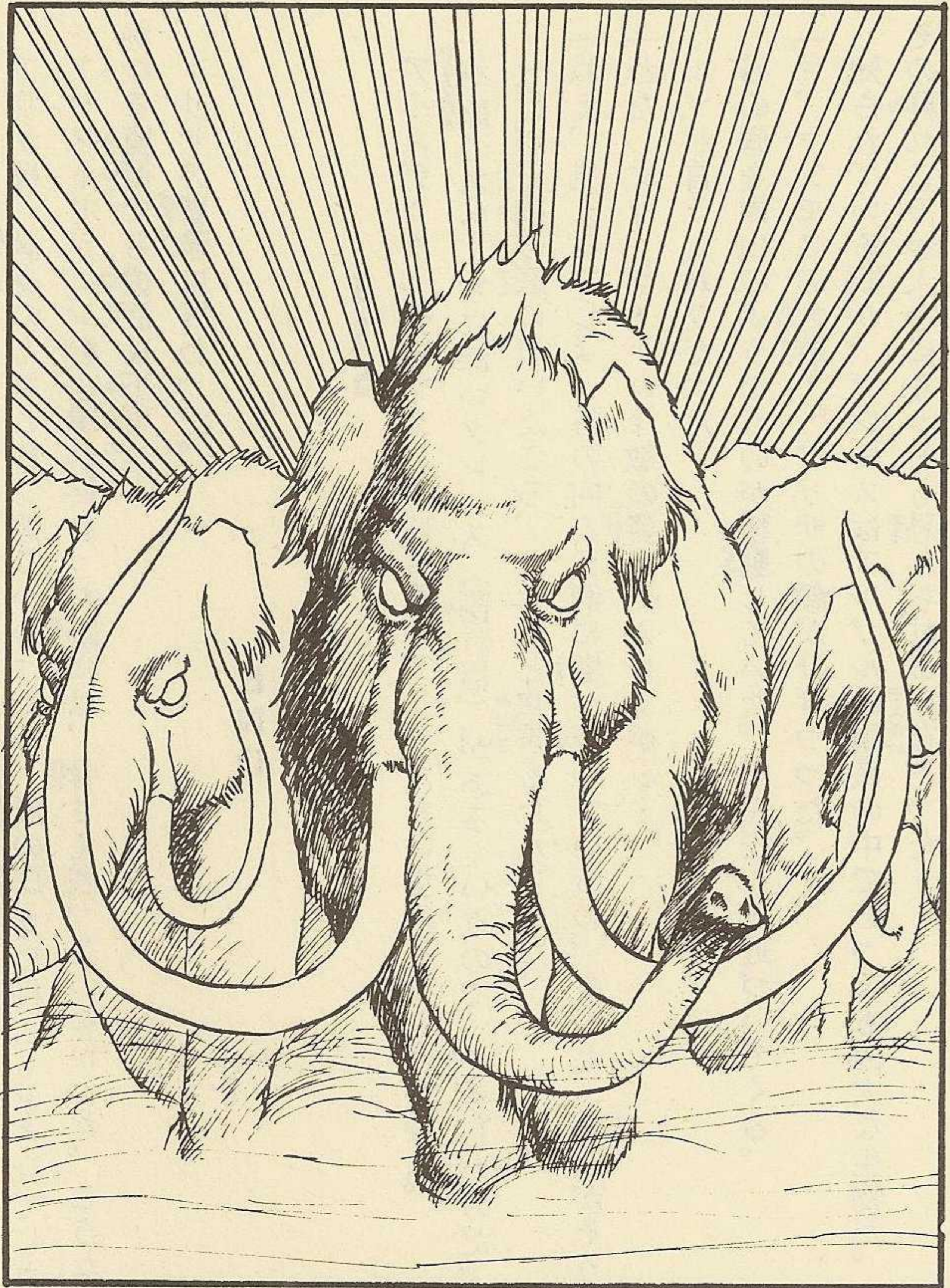
「わたしには、やっかない敵の姿も見えますが……」

ルツが言うとおりでたつた。

谷の底を黒山のようなものが移動していた。だんだんと近づいてくる。

「マ、マンモスの大群！」アリサの顔がひきつった。

知られている限り、マンモスはアルゴル太陽系の中でもっとも巨大な生物だ。そして、その群れこそが人々にもっとも恐れられる存在だった！



335●マンモスの大群たいぐんが現われた！ アルゴル太陽系の中で、も
っともおそ恐れられている存在そんざいだ。切り抜ぬけられるか!?

- ミサイル・ランチャーを使う（ある人のみ）……………↓363へ
- 超能力を使う（マジックPが8以上のみ）……………↓306へ
- どちらも無い……………↓297へ

336

中に入っていたのは、体力増強用のルオギニンだった。非常用ということ、ラシークが設置しているのだろう。

逆にこれを利用しない手はない（ルオギニン飲んで、HPプラス4）。

アリサたちはL字路を、

- 南に進む……………↓412へ ●東に進む……………↓402へ

337

「タンドレ！」デスベアラーは、いきなり必殺の魔術を使った！
 恐るべき稲妻が、アリサたちを直撃！ あわれ、黒こげになり、床に転がった。
 へふふふ。戦いというのは、どんな方法であろうと勝てば良いのだ。勝てばな……」

END

338

ラシークは、杖を高く差し上げた。

「ヒール！」アリサは無意識のうちに、その体力回復の超能力を使った（HPプラス3）。急に立ち上がったアリサたちを見て、ラシークは手を止めた。

↓360へ

339

「待った！」ミヤウが、宝箱を開けようとしたアリサを止めた。

「爆弾が仕掛けられているよ」ミヤウは、ラブットという超能力で箱のワナを見抜き、それを解除した（マジックPマイナス2）。

「ふー、危ない危ない。助かったわ、ミヤウ」

宝箱に入っていたのは、ルオギニンという体力増強の薬だった（これを飲んで、HPプラス4）。アリサたちは、もと来た通路にもどった。

↓294へ

340

デゾリアンヘッドたちは、ビームガンを撃ってきた。狭い場所での銃撃戦！

アリサたちは、飛んでくるビームを恐れず、突っこんでいった。敵はあわて、かえって狙いは不正確になる。アリサの剣が、デゾリアンヘッドたちをなぎはらった！

「こ、降参こうさんでえーす。あなたたちのほうがエラーイー！」

「おほほ、女王様とお呼びよび！ なんちゃって。——え、ウソよ、ウソ」

デゾリアンヘッドたちの話によれば、まだ自分たちの仲間なかまがこの辺にいらるとのことだった。とりあえず、アリサたちはこの先のT字路を、

●北に進む …………… ↓269へ ●南に進む …………… ↓373へ

●西に進む …………… ↓26へ

341

エクゼキュートは、アリサたちに迫せまってきた！

ヒュッ！ カギツメのついた尾おが、アリサの首筋くびすじをかすめる。

「おっと、危あぶない！」

2匹目、3匹目と攻撃が続く。

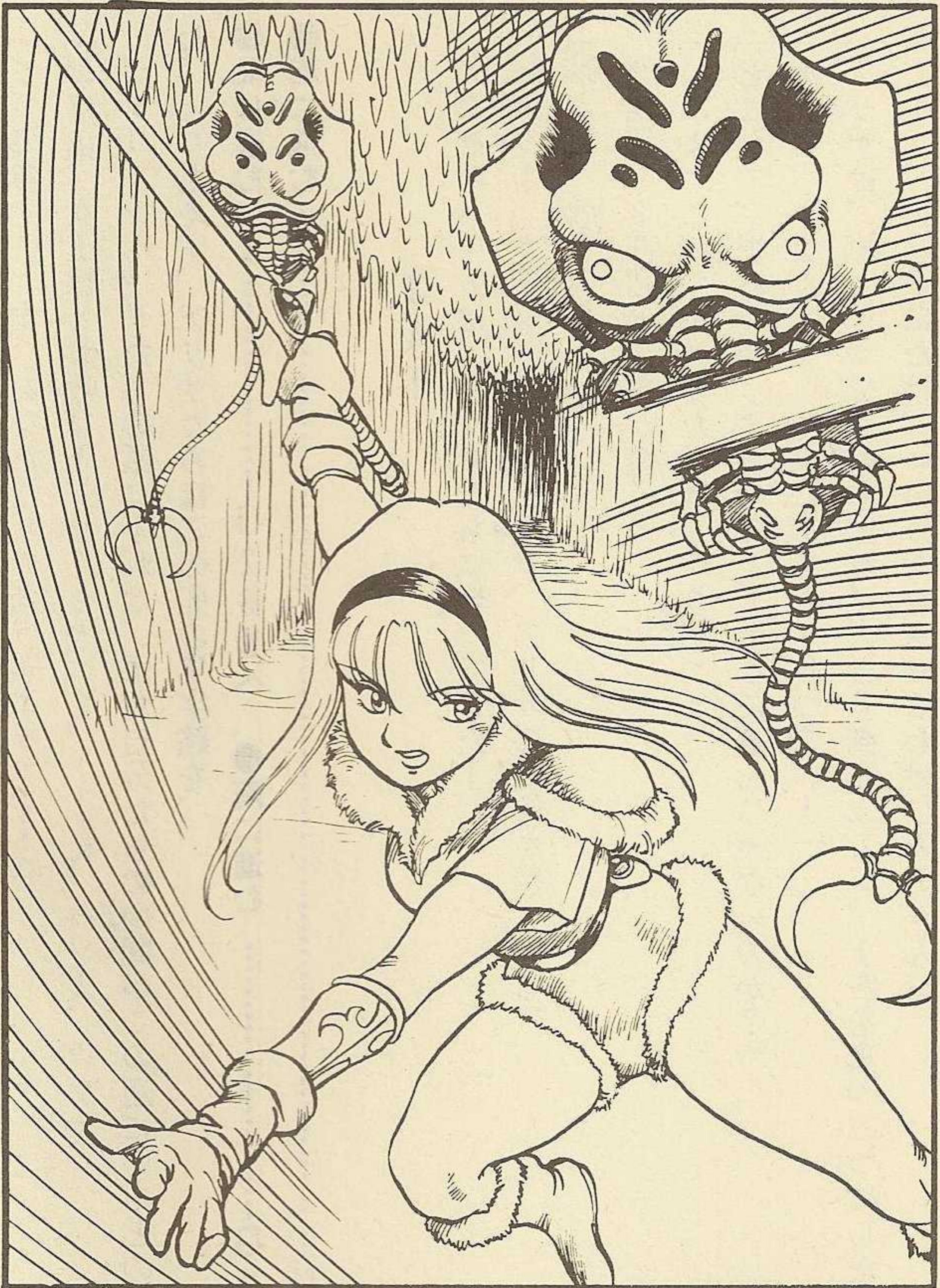
「なによ、こいつら。あたしはばかり狙ねらって」

「どこかで、恨うらみを買うようなことでもしてるんじゃないのか？」

「そんなバカな！ ——それにしても、しつこい！」

アリサは、思いきって反撃はんげきに出た。大きく剣をふるい、1匹を真つ二つにした！

「よーし、アリサにだけ、いいカツコさせるわけにもいかんな」



341●「えーい！」アリサは、思いきって反撃に出た。大きく剣をふるい、エクゼキュートを真っ二つにした！

エクゼキュートの尾をつかみ、壁かべに叩たたきつけるタイロン。
残りの2匹も、ミヤウとルツがとどめを刺さしていた（マジックPプラス1）。

●L字路を南に進む …… ↓246へ ●東に進む …… ↓386へ

342

助けてくれた礼れいを言うと、デゾリアンはさつきと外に出ていった。

「なんだったんだ、今の？」

「さあ。とにかく、あたしたちも早く出ましよう。そして、パルマ星にもどるのよ！」
スクレまでもどったアリサたちは、さつそくルベノ号を離陸りりくさせた。 ↓362へ

343

地上に出た一行は、さつき聞いたアウクバルに向かうことにした。

ルベノ号に搭載とうさいされている寒冷地用かんれいちようビークル、アイスデツカーを発車させる。

しばらく雪原せっげんの上を走ったあと、一面氷こおりでできた崖がけにぶち当たった。

「洞窟どうくつがふたつ並ならんでいるわよ」

「地下通路の入り口だろ。どちらもアウクバルに通じているそうだがな」

●右から入る …… ↓304へ ●左から入る …… ↓270へ

アリサは、キングセイバーと激しい剣の打ち合いをした。ときおり飛んでくる馬の蹴りをも、うまく受け流して戦う。

「ち、しぶとい小娘め！」キングセイバーは腰のビームガンを抜いた。だが、ルツにすぐ叩き落とされてしまう。

「いけませんな、女の子相手の勝負にこんなものを使うとは」

「バカ者、勝負は勝てばいいのだ——ぐっ！」アリサの剣が、キングセイバーの胸をヨロイごとつらぬいていた。

「あなたの言うことは正しいわ。ただし、あたしが勝てばね」

アリサたちは、キングセイバーがふさごうとしていた通路を進んだ。

↓ 226 へ

アリサが手を触れたとたん、宝箱はボン！と破裂した。

「くっ！爆弾ね」アリサは、腕を押さえてうめいた。幸い、小さな爆発だったが（戦闘

Pマイナス1、HPマイナス2）。

「覚えてらっしゃいよ」見えない敵に向かってアリサは叫んだ。

一行は、もと来た通路をもどる。

↓ 26 へ

344~347

346

へしぶといヤツらだ」

ダークファルスが、稲妻を吐こうと、口を開けた。まさにその瞬間！ アリサの剣がその口に吸いこまれるように刺さった！

へぐおおおおおおおおお

っ！！

『混沌の魔王』は、この世のものとは思えない叫び声をあげた。口から、青白い光をほとばしらせる。

●マジックPが3以上 …… ↓ 3 2 9 へ ● 2以下 …… ↓ 3 6 7 へ

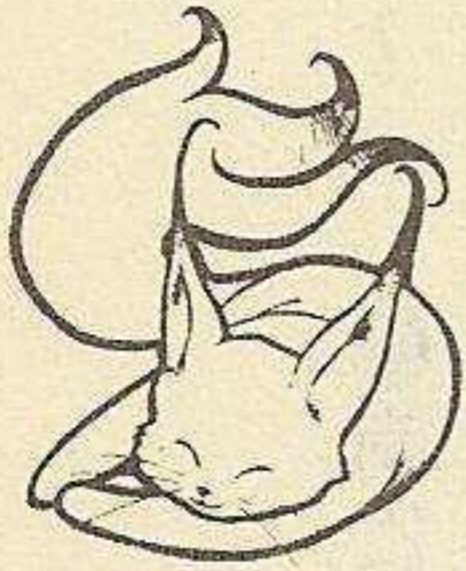
347

「そう簡単に死ぬもんですか！」

アイスマン 4体 47+バトルP (1のE)

アリサたち 戦闘P+バトルP (2のI) で戦います。

●敵よりPが上 …… ↓ 3 7 5 へ ●下 …… ↓ 3 9 3 へ



348

L字の曲がり角かどに出た。

●東に進む

.....⇩397へ

●南に進む

.....⇩368へ

349

「フレエリ！」ルツの杖つえから火球かきゆうが飛んだ！（マジックPマイナス2）

ダークファルスの胸むねに命中し、さしもの怪物かいぶつも動きをひるませた。

「だめだ、この程度では倒せない。もつと強力な術じゆつを使えればいいのだが」ルツが、唇くちびるをかんだ。
⇩419へ

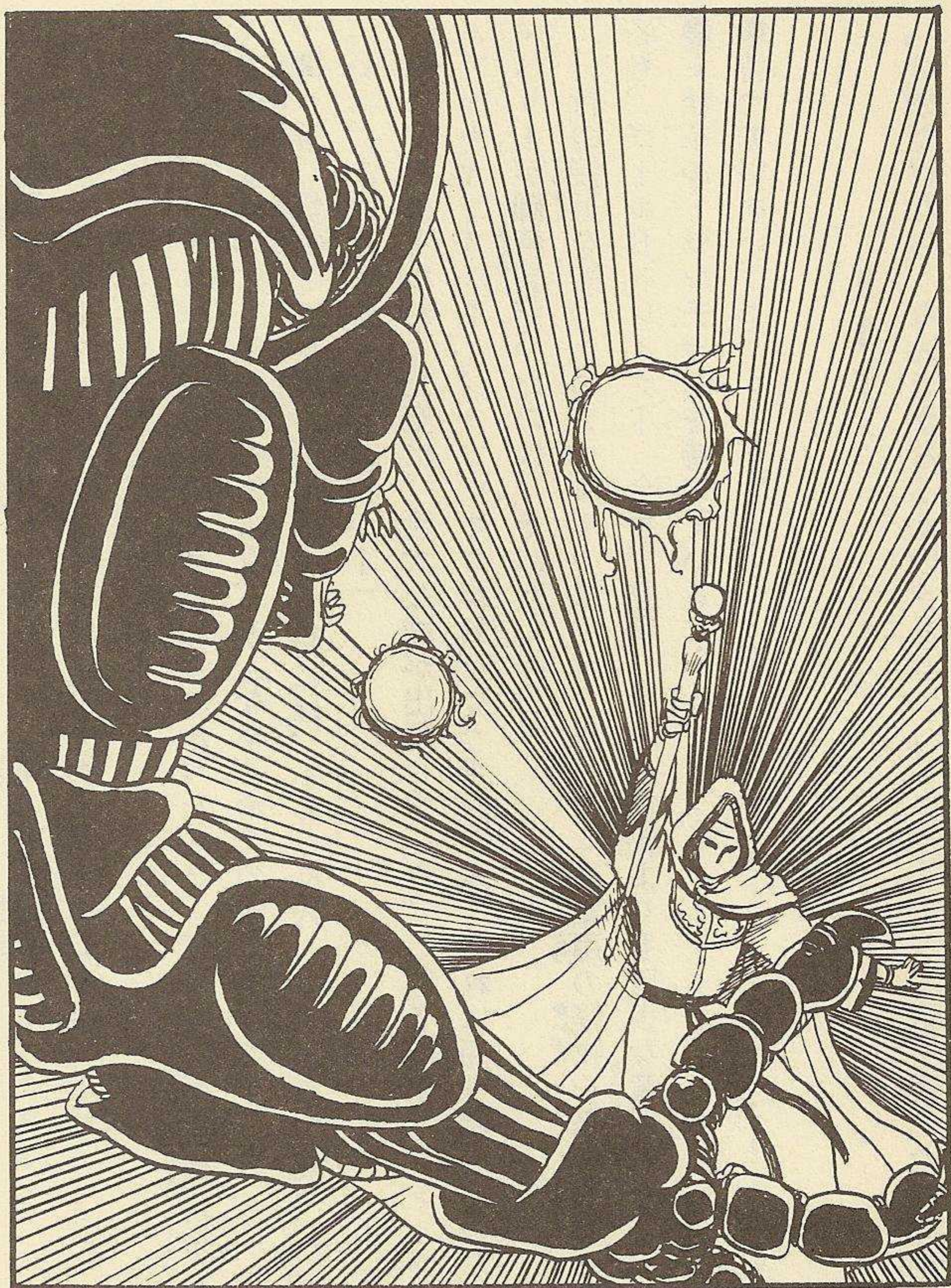
350

下を見おろすタイロンのポケットから、ラエルマベリーが転ころがった。デゾリス星で取った時に比べて、より毒々どくどくしい赤色になっている。

アリサたちは知らなかったが、ラエルマベリーはラコニアン・ポットで保存ほぞんしなければ、有毒物質ゆうどくぶつしつが生じるのだ。

そのラエルマベリーを本能的ほんのうてきにミヤウがかじった。

突然、ミヤウの体は熱を帯おび、まばゆい光に包まれた。そして、みるみるうちにミヤウ



349●フレエリ！ ルツは、火球^{かきゆう}をダークファルスに叩^{たた}きつけた。
さしもの怪物^{かいぶつ}もひるんだようだが、勝負はまだこれから。

は、大きな翼つばさを持った美しい獣けものへと変わった（毒どくのため戦闘せんとうPマイナス3）。

「ミヤウ！ ラエルマベリーを食べると、不思議ふしぎな現象げんじょうが起こるって言うってたな……ジャコウネコって、ミヤウのことだったのか！」

「なによ、タイロン。飼かい主しゅのくせに知らなかったの？ でもなんか表情ひょうじょうが苦しくるそう」へだいじょうぶ！ そんなことより、みんな早くボクの背せに乗のって！

間かん一いつ髪ぱつ、怪物かいぶつどもが屋上おくじょうに出てきた時には、ミヤウはバヤマーレの空高くにいた。

「ねえ、あれ見て！ お、お城が！」

今までなにもなかった空に、巨大な城が出現していた。これこそが、ラシークの本拠地ほんきよちエア・キャツスル！ ジャコウネコが飛び立った時のみ、それは姿すがたを現あらわすのだ。ラエルマベリーが御禁制ごきんせいだったのは、そのためだ。

一行の接近せつきんを知ったエア・キャツスルは、さっそく迎撃用げいげきようの怪物かいぶつを飛び立たせた。その名も、ゴールドドレイク！ 今まで登場したどの怪物よりも巨大な竜りゆうだった！

●ミサイル・ランチャーを持っている……………⇩409へ

●持っていない……………⇩313へ

351

「2頭だけなら、なんとかなるか」タイロンはレーザーガンを取り出した。発射はっしゃ！

レーザーが、マンモスの長い鼻を切り落とした。タイロンが銃を動かすと、そのとおりにレーザービームが動き、巨獣を切り裂いていく。

大出力のレーザーガンだから可能で、ニードルガンやヒートガンではこうはいかない。ちようど銃のエネルギーが尽きた時、マンモスは絶叫して倒れた。残りの1頭は、アリスたちが共同で片づけていた（戦闘Pプラス1、マジックPプラス2）。

「すごい威力だな、タイロン殿」と、ルツ。

「こいつが効くのは、せいぜい1頭か2頭さ。それ以上だと、撃っている間にほかのヤツにやられる」

タイロンは、エネルギー・カートリッジを交換して、そう言った。

一行はアウクバル周辺にもどり、ぐるぐる回っているうちにもうひとつの塔を発見した。

「これがコロナの塔かも。だって、村の半分はウソつきだって言っていたでしょ」アリスは、自分に言い聞かせるように言った。

352

「階段だわ。きつとラシークは上のほうにいるはず」

アリスたちは、慎重に階段を上っていった。

⇩ 285へ

⇩ 377へ

マシンガンダーが、左手に仕込まれたビームガンを発射した！
 それをかわし、アリサはダッシュ！ TVカメラを狙われていると判断したロボットは、
 右手を顔の前でかまえた。

だが、アリサの剣はマシンガンダーの胸をぶち抜いていた！ もはやその技は、弱点を
 狙わなくても、すごい威力をもっていたのだ。

「おいおい、オレたちの出番も残しておいてくれよ」
 舌を出すアリサ。このあと一行は、もと来た道をもどっていった。

⇩ 378 へ

いきなりマンモスの鼻が伸び、アリサをつかまえた。すごい力で締め上げてくる（HP
 マイナス2、戦闘Pマイナス1）。さらに巨獣は、その獲物を牙に突き刺そうとした。

「くっ！ そうはさせるか！」

間一髪、アリサはマンモスの額に剣を突き立てた！

「ブオオオオッ！」マンモスは彼女を放り投げ、すさまじい勢いで走りだした！
 必死で身をかわずタイロンたち。マンモスは、奥の壁をぶち抜き、頭をそこにめりこま
 せて停止した。

「ブレーキの壊れた重戦車つてとこね。いたた」
アリサがよろよると立ち上がった。

●L字路を東に進む ↓373へ ●北に進む ↓26へ

355

こちら側でも、わかったことはほぼ同じだった。ただ.....。

「なにい、コロナの塔が南にあるだと！ アホこくでねえ！ 西地区の連中こそ、ウソつきだあ。ホントの塔は北にあるだよ！」（―にチェックを入れる）

●北の塔に向かう ↓400へ ●南の塔に向かう ↓335へ

356

ちようど突き当たりの所でアリサは宝箱を見つけた。

（開ける場合は、現在の戦闘PにバトルP（2のE）を足す。それが奇数か、偶数か？）

●奇数 ↓308へ ●偶数 ↓330へ

●開けないで、西のほうへもどる ↓402へ

広間のような所に出た。その中心に、青い服を着た怪人物かいじんぶつがひとり。

「おまえがアリサとやらか。よくぞ、ここまでこれたものだな。ふふふふ……」

「ラシークか!？」

「ふふふ、だと言ったらどうする?」

「殺す!」

ラシーク 50 + バトルP (1のB)

アリサたち 戦闘P + バトルP (2のG) で戦います。

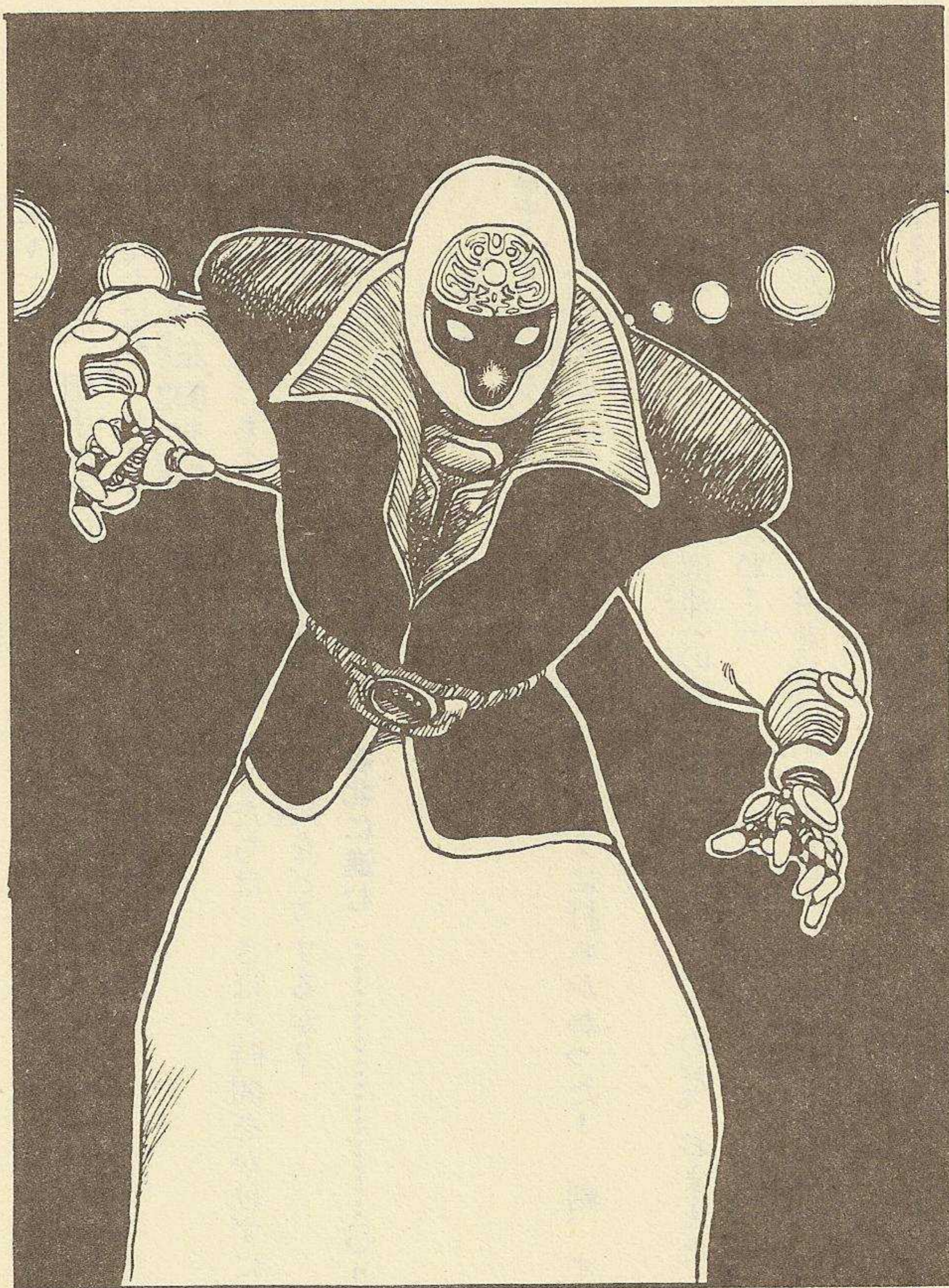
● 敵よりPが上 …………… ↓ 382へ ● 下 …………… ↓ 332へ

L字の曲がり角かどにでた。

● 北に進む …………… ↓ 386へ ● 西に進む …………… ↓ 246へ

マッドストーリーカードのもと、激しい剣の戦い!

ガイコツどもは、腕うでをもがれたり頭を落したりしながらも戦い続けた。



357●広間のような所で、怪人物が立っていた。「ラシークか!？」
「ふふふ、だと言ったらどうする?」「殺す!」

「なによ、こいつら！ しつこいのは嫌いよ！」

アリサの剣が偶然、相手のあばらの部分に入った。人間なら、ちようど心臓のあつた場所だ。——とたんにマッドストーカーはバラバラに崩れ落ちた。

「そうか。みんな、左胸を狙うのよ！」

弱点がわかれば、こつちのものだった。アリサたちは、さほど時間をかけずにマッドストーカーを全滅させてしまった。その後、曲がり角をどうするか？

●東に進む …………… ↓ 294 へ ●北に進む …………… ↓ 228 へ

360

「死ぬのはそつちよ、ラシーク！」

アリサたちは、突風のようなすばやさで、ラシークに打ちかかった！ 剣、オノ、牙、杖が、怪人の体に突き刺さる。

「ははは、ムダだ。わしの体は、『混沌』の魔力で保護されているのだ。おまえたちの貧弱な武器では、かすり傷さえつかんわ！」

ラシークの杖が電光を放った！ 身を投げ出すように、それをかわすアリサ。

「どこか……どこかに弱点があるはずよ……」

●頭を狙う …………… ↓ 406 へ ●杖を狙う …………… ↓ 322 へ

361

フタを開けたとたん、アリサははじけとんだ！ 宝箱たからばこに爆弾ばくだんが仕掛しかけられていたのだ。威力いりよくは小さく、幸さいわい大きなケガこそはなかったが（HPマイナス3、戦闘せんとうPマイナス1）。

「いたた、もー、なんてひどいことをするの！」

ぶつぶつ言いながら、アリサたちはもと来た通路にもどった。

⇩ 294 へ

362

「まあ、アリサ！ すっかり見違えちゃって！」スエロがアリサに抱だきついてきた。

パルマ星の居住区きよじゆうくにもどったアリサは、叔母おばの家に立ち寄よったのだった。

アリサが仲間なかまたちを紹介しょうかいすると、スエロは彼らに深々とおじぎをした。

「いろいろとご迷惑めいわくをかけていると思いますが、これからもよろしくお願いします」

「いやなに、お互たがい様ですよ。それより、この辺あたりはどうですか？」

スエロ叔母おばの顔がくもった。税金ぜいきんは高くなる一方で、それに反対する人々はみんな怪物かいぶつに殺されていくという。どうやら、邪教じやきようの力により、別の世界からどんだん怪物が呼び集められているようだった。

「ラシークめ、なんとか早くヤツの息いきの根ねを止めなくては！」

「今晚こんくらいは、ここで泊とまっていきなさい。部屋はありますから、タイロンさんやルツ

さんたちも。とにかく、体を休めないと勝てる相手にも勝てませんよ」

アリサたちはスエロの言うとおりにした。

横になったとたん、アリサは深い眠りに落ちていった。そして、兄の夢を見た……（H
Pプラス3、マジックPプラス2）。

↓391へ

363

「早くもこいつの出番か！」タイロンはミサイル・ランチヤーを肩に固定した。

「でも、弾頭は1発だけよ！ 倒せるのは、せいぜい2、3頭だわ」

「まかせなさい！」

ランチヤーが火を噴いた！ ミサイルは白い尾を引き、氷壁にぶつかって爆発した！

「げっ！ 外れちゃったじゃない。ヘタクソ！」

「——と思うだろ。ところが」

突然、氷壁が音をたてて崩れ始めた！ 今の衝撃が雪崩をひき起こしたのだ。次々と落ちる巨大な氷の塊が、谷底のマンモスたちを押し潰していった。

「すつごーい！ 一発大逆転だわ！ タイロンってアルゴルーの天才だわ！」

ところが、雪崩はマンモスだけではなく、塔も倒していたのだった……。

「はあ……前言取り消し。やっぱり、アルゴルーのドジだわ」

「あのなあ」(ミサイル・ランチャーを失う)

●ーにチェックがある……………↓374へ ●ない……………↓272へ

364

「これがとどめだあ！ バラバラになって、あの世の兄の所にいけっ！」

ラシークがまたミサイルを発射はっしや！ 今度は直撃ちよくげきだった。

アリサたちは、ラシークの言うとおりになってしまった……………。

END

365

アリサの剣が、最初さいしよの1匹を真つ二つにした。

「こんなヤツら、大したことはない——うっ！」

後ろからの攻撃だった。ヒュツと音をたて、エクゼキュートの長い尾おが、アリサの首くびからみつく。その先端せんたんのカギヅメが、肩口かたぐちに突つき刺ささった！ ちよつとした毒どくがあるらしく、視界しかいがゆらぎ始めた(戦闘せんとうPマイナス1、HPマイナス1)。

「このやろうめ！」タイロンはその尾おをひきちぎり、本体を壁かべに叩たたきつけた。残りの2匹も、ミヤウとルツがとどめを刺した。

「だいじょうぶか？」

「平気よ。ちよつと足がふらつくだけ。それより、首に跡あとついちゃったらどうしよう」

●L字路を南に進む……………↓246へ ●東に進む……………↓386へ

366

へタンドレ！↓デスベアラーは、いきなり必殺ひつさつの魔術まじゆつを使った！

稲妻いなずまが、アリサたちを直撃ちよくげき！ アリサたちは、黒こげになり、床ゆかに転ころがるかと思えた。

——だが、事實じじつは逆さかだった。

反対にデスベアラーのほうほうが転ころがっていた。

ほんのわずかの差で、ルツのタンドレが先に決まっていたのだ。

強敵を倒したアリサたちはL字路を、

●東に進む……………↓417へ ●北に進む……………↓348へ

367

やった！ 今度こそダメージを与あたえたか！?

アリサは、ダークファアルスの口から、自分の剣を抜き取ぬった。とどめを刺さそうと思った

とたん、怪物の太い腕うでが、アリサの体をはじき飛ばした！（戦闘せんとうPマイナス2）

なんというヤツだ。口の中に剣を突っこまれ、まだこれだけ動けるとは！

アリサは、改めてこの怪物の恐ろしさに身の毛のよだつ思いがした。

「アリサ、オレたちがついていることを忘れるなよ」と、タイロン。

(そうよ、みんながいるんだわ！)

ダークファルス 58 + バトルP (1のG)

アリサたち 戦闘P + バトルP (2のD) で戦います。

●敵よりPが上 …………… ↓420へ ●下 …………… ↓398へ

368

L字の曲がり角で、ルツが一行を止めた。優れた超能力者にしかわからないような、かすかな気配を感じたのだ。

やがて、壁をすり抜け、黒いヨロイに身を固めた怪人が姿を現わした。

「おまえも『混沌』からの使いか！」ルツは、師匠を殺した者の名を口にした。

へなるほど、ダークマローダーを倒したのは、おまえらか。いかにも、わしは『混沌』の

使いデスベアラー。おまえらの命はわしがもらった！

デスベアラー 45 + バトルP (1のI)

アリサたち 戦闘P + バトルP (2のC) で戦います。

●敵よりPが上 …………… ↓385へ ●下 …………… ↓319へ

369

「やーっ」気合いをこめ、ダークファルスめがけて切りこんだ！

ダークファルス 57+バトルP (1のC)

アリサたち 戦闘P+バトルP (2のH) で戦います。

●敵よりPが上 …………… ↓346へ ●下 …………… ↓398へ

370

アリサたちは、とつさに身を伏せ、フロストドラゴンの炎をさけた。そして、立ち上がりざま、竜の腹の下に潜りこんだ。柔らかい腹に剣を突き刺す！

一方、飛び上がったミヤウは、竜の目を攻撃した。

たまらずフロストドラゴンは、すさまじい絶叫をあげてひっくり返る。タイロンが、その首を切り落とし、とどめを刺した。

意外とアツケなく勝負がついたが、それだけアリサたちに力がついたということだろう。

●L字路を東に進む …………… ↓267へ ●北に進む …………… ↓381へ

下を見おろすタイロンのポケットから、ラコニアン・ポットが落ちた。いきなりミヤウが頭を突っこんで、中のラエルマベリーをかじった。

突然、ミヤウの体は熱を帯び、まばゆい光に包まれた。

「ミヤウ!？」

そして、みるみるうちにミヤウは、大きな翼を持った美しい獣へと変わった。

「ラエルマベリーを食べると、不思議な現象が起こるって言うってたな……ジャコウネコって、ミヤウのことだったのか！」

「なによ、タイロン。飼い主のくせに知らなかったの？」

へそんなことより、みんな早くボクの背に乗って!」

間一髪、怪物どもが屋上に出てきた時には、ミヤウはバヤマーレの空高くにいた。

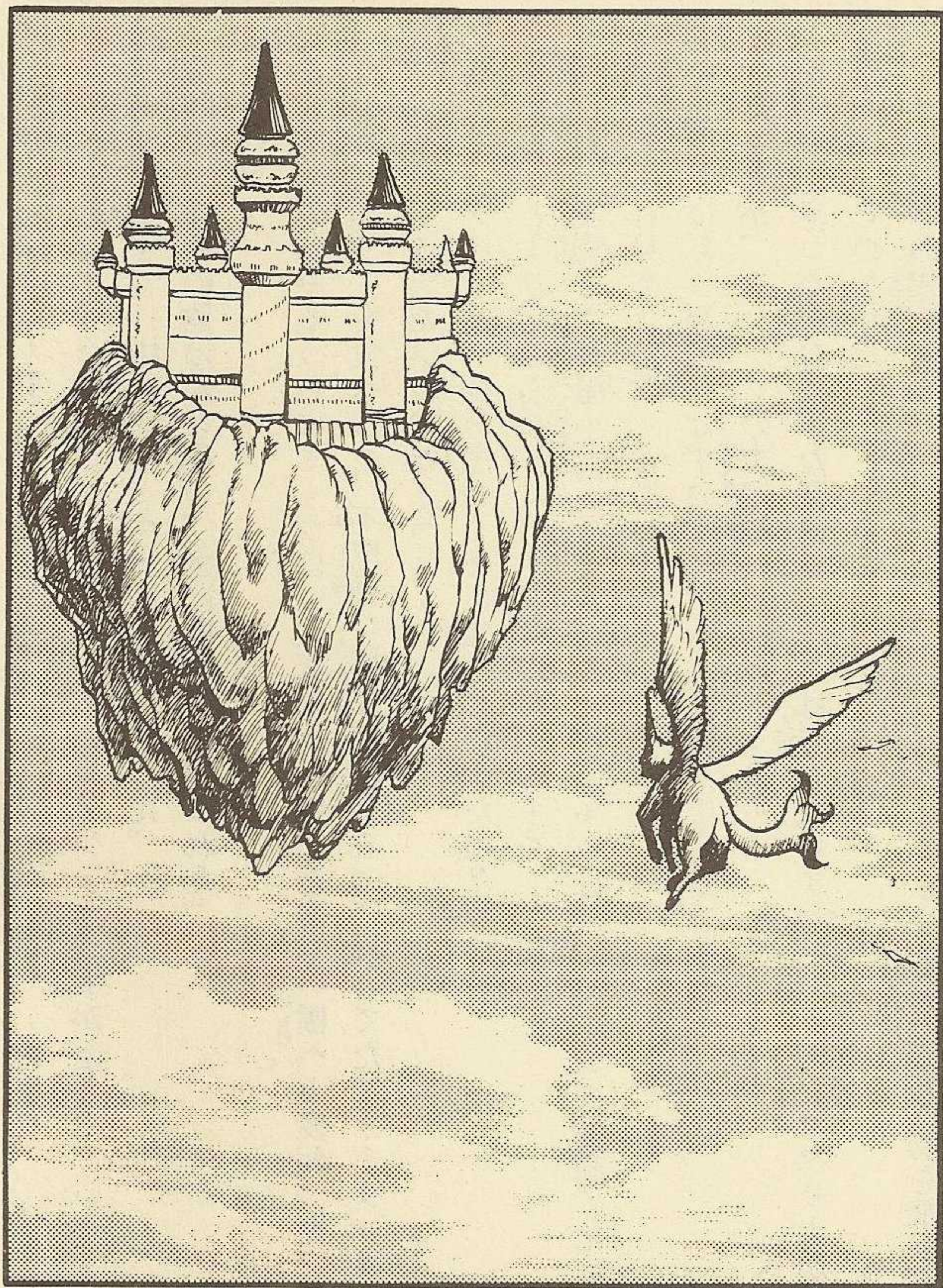
「ねえ、あれ見て! お、お城が!」

今までなにもなかったはずの空に、巨大な城が出現していた。

これこそが、ラシークの本拠地エア・キャツスル!

ジャコウネコが飛び立った時のみ、それは姿を現わすのだ。ラエルマベリーが御禁制だったのは、そのためだ。

アリサたちの接近を知ったエア・キャツスルは、さっそく迎撃用の怪物を飛び立たせた。



371●突然、姿を現わしたエア・キャッスル！ アリサたちは、ラ
シークを倒すため、その悪魔の城めがけ、飛び上がった。

その名も、ゴールドドレイク！ 今まで登場したどの怪物よりも巨大な竜だった！

●ミサイル・ランチャーを持っている……………↓409へ

●持っていない……………↓313へ

372

ダークファルスの目が、不気味な輝きを増した。

金縛りの魔術だ！

いきなりアリサたちは、その強力な術にかかってしまった。手足はおろか、口さえもきくことができない。

●HPが4以上……………↓392へ ●3以下……………↓410へ

373

アリサたちは、L字の曲がり角に出た。

●北に進む……………↓311へ ●西に進む……………↓303へ

アウクバルの連中の話では、北のほうに、もうひとつ塔とうがあるはずだった。こうなれば、そちらに向かうしかない。

一行はいったん村にもどり、再出発。今度はアイスデッカーに乗って！ ↓400へ

「やーっ！」アリサとミヤウが飛び上がった！

空中から攻撃をかけると見せかけて、ヤツらの背後はいごに降り立つ。思ったとおり、アイスマンたちは動きが鈍にぶい。

「今よ！」

アリサは、巨人の踵かかとに剣を突き立てた！ とたんにも、アイスマンの全身にヒビが入り、その体は崩れ落ちた。ここが弱点だ。

それからは、こつちのもの。残りの敵もルツたちが片づけた（マジックPプラス2）。

広間の奥にあった宝箱たからばこから、ラコニアでできたヨロイを発見した（ラコニア・アーマー入手、アイテムリストに記入し、戦闘Pプラス5）。

「不思議ね。このヨロイ、あたしにぴったりだわ。——だれ？」アリサは宝箱の陰かげにだれかいることに気づいた。

「わわ、こ、殺さないでください」デゾリアンがあわてて飛び出してきた。

「ラエルマベリーを取りに来ていたら、この塔の連中につかまってしまったんですよ」

●Cにチェックがある …… ↓333へ ●ない …… ↓399へ

376

見つけた階段を、アリサたちは上^{のぼ}っていった。かなりの距離^{きより}を上り、上の階^{とうちやく}に到着する。L字の曲がり角^{かど}を北に折れ、T字路の所で立ち止まった。

さて、どちらに進もうかと考えていると、後ろのシャッターが閉^とじた。もうこれで下りられない。

●西に進む …… ↓328へ ●東に進む …… ↓415へ

377

上の階^{とうちやく}に到着した一行はL字の曲がり角^{かど}を北に折れ、T字路の所で立ち止まった。そこでいきなり、後ろのシャッターが閉^とじた。もうこれで下りられない。

●西に進む …… ↓402へ ●東に進む …… ↓356へ

アリサたちはT字路に出た。

●南に進む……………⇩352へ ●北に進む……………⇩326へ

●西に進む……………⇩397へ

ゴーレムは、覆おおいかぶさるように両手を伸ばしてきた。

それをかわし、アリサは怪物かいぶつの胸むねに剣を突き立てた！ どうつと倒れるゴーレム。

「あっけないわね。——きやつ！」

突然、アリサの足首を激痛げきつうが走った。ゴーレムの指が食いこんでいた。すごい怪力かいりきだ。

ゴーレムは、指の力だけでアリサを逆さかさに持ち上げ、投げ飛ばした。あやうくタイロンが受け止めたが、ふたりとも壁かべに叩たたきつけられる！（HPマイナス2）

起き上がろうとしたゴーレムの額ひたいを、ルツが杖つえで突ついた。すると、ウソのように怪物かいぶつは動かなくなった。神経しんけいのツボのような所を狙ねらったらしい。

「この人を敵に回さなくて良かった……」そういつて、アリサは立ち上がった。

一行は、さらにラシークを探さがし、もと来た通路をもどった。 ⇩415へ

380

十字路に出た。

- 南に進む ↓ 2 8 4 へ
- 北に進む ↓ 1 9 9 へ
- 東に進む ↓ 2 5 3 へ
- 西に進む ↓ 2 2 2 へ

381

L字の曲がり角で、アリサは宝箱を見つけた。

(開ける場合は、現在の戦闘PにバトルP(2のH)を足す。それが奇数か、偶数か?)

- 奇数 ↓ 3 3 6 へ
- 偶数 ↓ 3 1 7 へ
- 開けないで、南に進む ↓ 4 1 2 へ
- 開けないで、東に進む ↓ 4 0 2 へ

382

「死ぬのはあああ、おまえだあああ！」ラシークは胴体からミサイルを発射した！
 しかし、爆発は起きなかった。ルツが師匠の形見のフラードマントで、ミサイルをからめとってしまったのだ。このマントにはすごい力が封じられているみたいだ。

「そんなアホな！」

「こんな所でミサイルを使うほうがアホよ！」

驚く^{おどろ}ラシークの体を、アリサの剣がつらぬいた。

「おかしいわ、こんなアホがラシークのはずがない」

「ふふふふ、さすがアリサ。わしは、ラシーク様の影武者^{かげむしや}なのだあ！ 本物のラシーク様

がおまえらごときにやられるものかあ！ ふげ」

アリサの剣がそいつの顔を真つ二つにした。「ふん、下劣^{げれつ}なヤツ！」

一行は、広間を出て、反対側の通路を進んだ。

⇩401へ

383

回転するラシークの杖^{つえ}の先から、電光^{でんこう}が飛んだ！

だが、それはアリサたちの足元を焼いただけだった。今までの戦いで、ヤツの攻撃のタイミングはもうつかんでいる。2撃目、3撃目も、アリサたちはかわした。

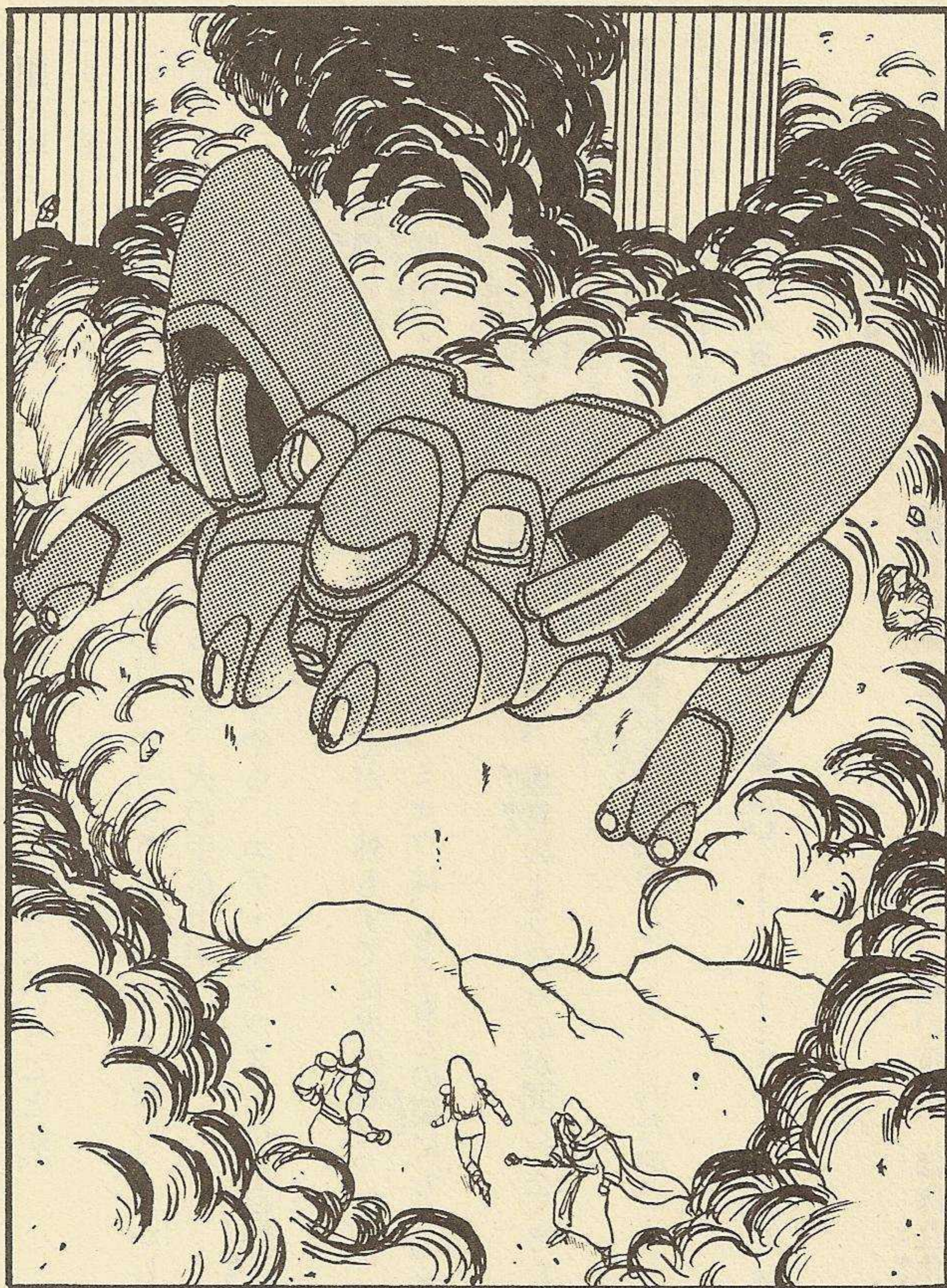
「どうしたの、『混沌^{こんとん}』の魔力^{まりよく}は、もう品切れ？」

「バカな？」

ラシークは杖を振りかぶると、アリサめがけて打ちかかってきた。

彼女は床^{ゆか}を蹴^けって、身をかわした。

「そーいう戦いなら、あたしは飽^あきるほど、や・っ・て・き・て・ん・の・よ！」
空中から、ラシークの頭を切り裂いた！ 血しぶきがドツと噴^ふき出す。



383●エア・キャッスルの自爆装置じばくそうちが作動した。燃え上がる城の外そと
 庭にわにモタビア軍の救きゆうえん援機きが！ 総督そうとくがよこしたのか。

頭が弱点——『混沌』の力もそこには及んでいなかっただという事か。

「か、勝ったの……?」

あつけない勝利だった。勝負というのは、こういうものかもしれない。しかし……。ラシークが倒れた直後、城のあちこちから、火の手が上がった。

「おい、アリサ！ 急いで脱出するぞ。どうやら、エア・キャツスルには自爆装置がしかけられているみたいだ」

一行は、誘爆を続ける城内から飛び出た。だが、外もすでに火の海だった。

「どうやって脱出する気？ ここは空の上よ。ミヤウは、もうもとの姿にもどっているし、ラエルマベリーはもうないし」

アリサたちが、外庭で立ち往生していると、爆音のようなものが聞こえてきた。たちこめる煙の間から、接近する航空機の姿が見えた。

「あれは……モタバアの紋章だ。あの総督が救援機をよこしてくれたのか！ 助かったぜ」タイロンが手を上げて叫んだ。

●Dにチェックがある……………↓418へ ●ない……………↓403へ

384

アリサは、キングセイバーと激しい剣の打ち合いをした。剣の腕は、ほぼ互角。

しかし、敵には別の武器があった。後ろ脚で立ち上がったかと思うと、前足ですさまじい蹴りを放ったのだ！ アリサの小柄な体が吹っ飛んだ！（HPマイナス2）

「とどめだ！」キングセイバーは腰のビームガンを抜いた。

だが、ルツにすぐ叩き落とされてしまう。

「いけませんな、この勝負にこんなものを持ち出すとは」

「バカ者、勝負は勝てばいいのだ——ぐっ！」起き上がったアリサの剣が、キングセイバーの胸をヨロイごとつらぬいていた。

「あなたの言うことは正しいわ。ただし、あたしが勝てばね」

アリサたちは、キングセイバーがふさごうとしていた通路を進んだ。

↓ 2 2 6 へ

385

アリサたちは、速攻をかけた。

アリサの剣が、タイロンのオノが、ミヤウの爪が、次々とデスベアラーに攻撃をかける。

へき、きさまらーっ！

「どうだ、いかに『混沌』からの使いだろうが、精神集中しなければ魔術は使えない」
へならば、これを食らえ！

デスベアラーが巨大なオノを振り上げた。だが、その瞬間！ ルツの杖が、怪人の面当

てを叩き割った。

その中に顔はなく、黒い霧きりのようなものが流れ出てきた。おそらく『混沌こんとん』の世界では決まったものの形というものが無いのだろう。

強敵を倒したアリサたちはL字路を、

●東に進む …………… ↓ 4 1 7 へ ●北に進む …………… ↓ 3 4 8 へ

3 8 6

L字の曲がり角かどに出た。

●南に進む …………… ↓ 3 5 8 へ ●西に進む …………… ↓ 3 1 0 へ

3 8 7

アリサは、アリジゴクの頭を切り落とした。「今よ。走って！」

アリサたちは、なんとかアリジゴク帯たいを突破とっぱした。その足で、『マハルの洞窟どうくつ』にたどりつく。

洞窟内に入り、T字路の所まで進む。すると、そこで後方にシャッターが落ちた。

「とにかく奥に進むしかないようだな……」

●東に進む …………… ↓ 1 1 9 へ ●西に進む …………… ↓ 5 8 へ

急上昇きゆうじやうしやうして、ミヤウは炎ほのおをかわした。竜りゆうの背中せなかの上に回りこみ、それぞれの武器を振り下ろす！

しかし、表皮ひやうひは硬かたく、それほどダメージは与あたえられない。怒おこったゴールドドレイクは、尻尾しっぽをくねらせ、ミヤウを打うった！ ショックで、アリサは宙に投げ出された！（HPマイナス2）

「くっ！」アリサは必死に巨竜きゆうりゆうの翼つばさにしがみついた。

（この怪物かいぶつを倒す手はひとつ）

アリサは決心すると、自分の命綱いのちづなでもあるゴールドドレイクの翼つばさを切り始めた。片翼かたよくを失ったゴールドドレイクは、きりもみしながら落下！ アリサもその衝撃しょうげきに気が遠とほくなつていった……。

——ハッと気がついた時、アリサはがっちりした腕うでの中にいた。

「タイロン！」

「気がついたか。あやうくバラバラになるところをキャッチしたんだぜ」
彼女は、顔を赤くしてタイロンから離はなれると、小声でありがとうと言った。

デゾリアンヘッドたちはビームガンを撃つてきた。アリスやタイロンの足に命中！
 こう距離が離れていては不利だった。

アリスたちは、思いきって突っこんでいこうとしたが、足の傷がそれをさえぎった。
 とどめのビームが、アリスの額を撃ち抜いた！

END

アリスはマシンガーダーのビームをかわし、跳躍した。狙いはヤツのTVカメラだ。
 ところが、さすが戦闘用ロボット。その行動を予測し、すばやく腕をくりだしてきた。

ヨロイごとアリスをはじき飛ばす！（HPマイナス1）

とどめを刺そうと寄ってきたマシンガーダーだが、突然、白煙を噴き上げて倒れた。その
 後ろから、ぬつとタイロンが顔を見せる。

「1対1の対決じゃないんだから、あまり無理するなよ」

この後一行は、もと来た道をもどっていった。

早朝^{そうちよう}。スエロに見送られ、アリサたちは出発した。

バヤマーレの丘は、港町^{みなとまち}シオンの北、10キロの所にあつた。ラシークが政権^{せいけん}を握^{にぎ}つてから、丘全体を巨大な城壁^{じやうへき}で囲^{かこ}つてしまつたという。

アリサたちは、検問所^{けんもんじよ}のひとつを強引^{ごういん}に突破^{とつぱ}し、丘に足を踏^ふみ入れた。そして、丘の頂^{いただき}に建^たっている巨大な塔^{とう}を見上げた。

バヤマーレの塔。今までに入つたどんな塔よりも高い。アイスマンの言つていた『丘のずつと上』というのは、きつとここに違いなかつた。

一行が塔の中に入ると、後ろのシャッターが音をたてて落下した。

「いつもの脅^{おど}しね。そんな手なんか、効^きくもんですか！」

●T字路を東に進む……………↓378へ ●西に進む……………↓348へ

●南に進む……………↓417へ

ダークファアルスの口がカツと開き、稲妻^{いなずま}が飛んだ！

それはアリサたちの足元ではじけ、一行は石畳^{いしだたみ}の上に投げ出された。

「うっ！ 体は動くか？」

「なんとかかね。まだ戦えるわよ」

「それじゃ、反撃開始だ！」

アリサたちは敵の不意打ちから立ち直り、戦闘体勢に入った。

- マジックPが5以上 …… ↓407へ
- マジックPが3〜4 …… ↓349へ
- マジックPが2以下 …… ↓369へ

393

アイスマンは、口から冷気を吹き出した。いや、それはただの息ではなかった。硬い氷の粒が無数にふくまれていたのだ！

「くっ！」

すさまじい威力だった。直撃を受けたヨロイはまるで月のクレーターのようにくぼんでしまった。もちろん、生身の所などは血まみれだ（HPマイナス4）。

- HPが5以上 …… ↓375へ
- 4以下 …… ↓413へ

394

ゴーレムは、覆いかぶさるように両手を伸ばしてきた。

アリサはその手から逃れ、後ろから切りかかった。

「おバカさん！ おとなしくつかまると思っているの！」

アリサのほうを振り向くと、今度はタイロンが後ろから攻撃をかける。かく乱戦法だ！
こうなると、いかに怪力の持ち主であろうと、その実力を発揮できない。勝負は、アリサたちの一方的な勝利に終わった。

一行は、さらにラシークを探し、もと来た通路をもどった。

⇩ 415 へ

395

こいつが、あたしの捜し求めていた男。そして、兄の敵。アリサは、自分でも驚くほど冷静に、ラシークと向かい合った。ラシークは、冷たい氷のような目をした男だった。

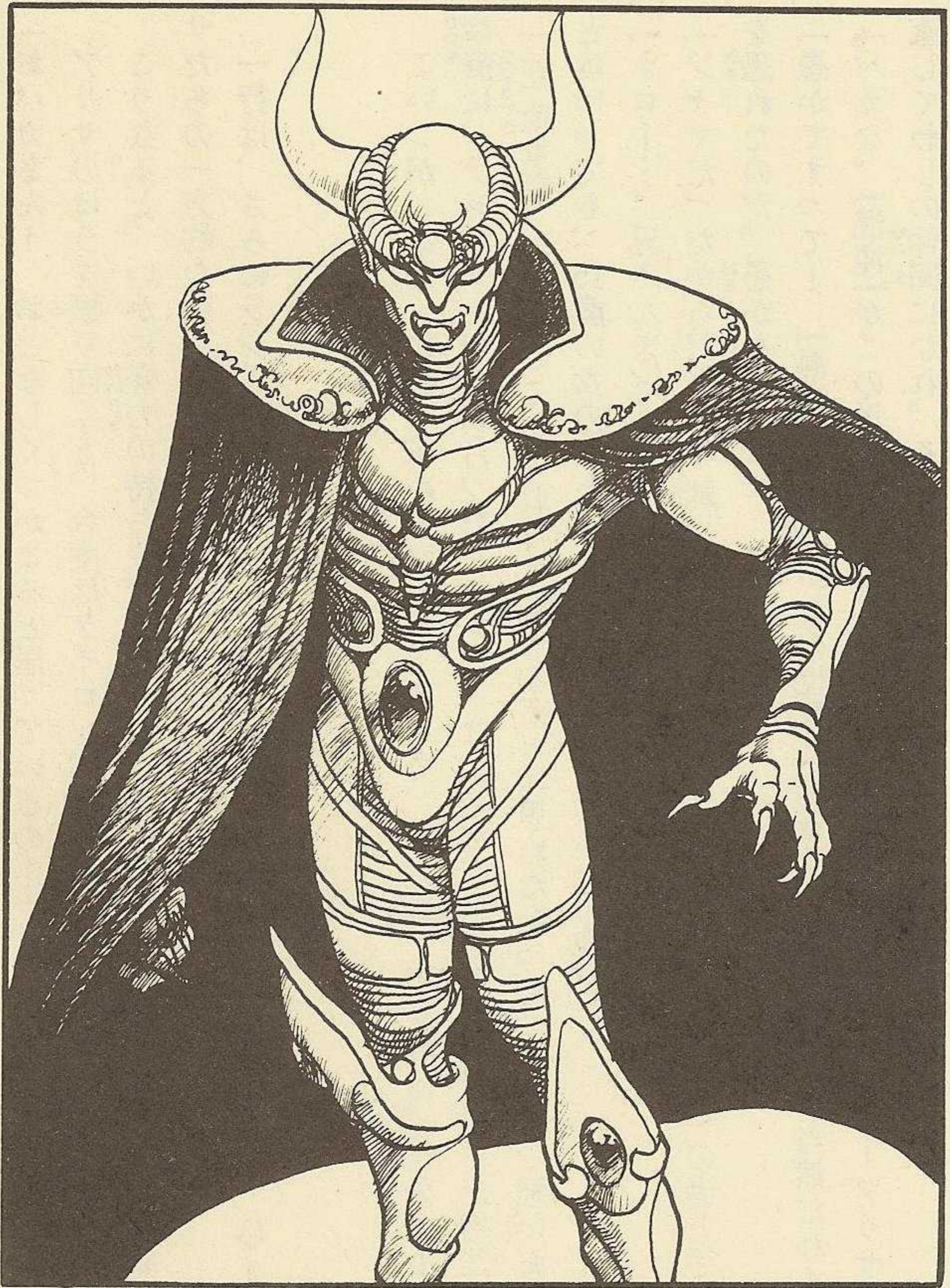
「正直な話、まさかここに來れる人間がいるとは思わなかった。それも、強いお供がいるとはいつても、15歳の女の子とはな……。さすがはネロの妹だ」

「ネロ……。兄さんをどうして……。殺したの!？」

「ジャマだったからだよ、単純にね。彼は、わしが邪教の——『混沌』の者と手を結ぶのを恐れたのだ。愚かなことよ」

「愚かですって！ 『混沌』の怪物がこの世界に來ることを恐れるのは当然だわ！」

「バカな。『混沌』がこの世を支配する。こんな素晴らしいことはない。——アリサよ、考え直してわしの仲間になれ。そうすれば、今までのことを許してやろう」



395●ラシークは、冷たい氷こおりのような目をした男だった。「アリサよ、わしの仲間なかまになれ。そうすれば、許ゆるしてやる」

「嫌だと言ったら」

「殺す」

ラシークは、どんな脅し文句よりも恐ろしい声で、ぽつんと言った。

ラシーク 50+バトルP (1のD)

アリサたち 戦闘P+バトルP (2の-)で戦います。

●敵よりPが上 ↓360へ ●下 ↓414へ

396

フロストドラゴンは、真っ赤な火炎を吐き出してきた。

ものすごい高温！ 盾やヨロイの表面がかすかに溶け始めた！ アリサたちは、熱気に意識を失いそうになる (HPマイナス2)。

●HPが4以上 ↓370へ ●3以下 ↓334へ

397

T字の分岐路に出た。いったい、ラシークはどこに居るのか？

●東に進む ↓378へ ●西に進む ↓348へ

●南に進む ↓417へ

ダークファルスは地面を滑るように動き、アリサたちの攻撃をかわしていた。

何度か切っ先が怪物の体をとらえるが、硬い体にはじかれてしまう。

突然、ダークファルスは予想外の反撃に出た。稲妻を、自分が乗ってきた航空機に浴びせたのだ！ 四散する機体。

へこれで、もうおまえたちは帰ることができない

「ふん、そんなことは先刻ご承知よ！」

アリサは傾斜した石畳にしがみつくように、もう目と鼻の先にあるバヤマーレの丘を指さした。

周囲の炎はさらに広がり、エア・キャツスルそのものが、今まさに大地に激突しようとしていた……。

「いろいろありがとう、タイロン、ルツ、ミヤウ……」

アリサは、『混沌の魔王』とともに散った。15歳の命を犠牲にして、アルゴル太陽系を魔の手から救ったのだ。

UNHAPPY END

399

●マジックPが4以上……………↓315へ ●3以下……………↓342へ

400

吹雪ふぶきのため、視界しかいは白一色となっている。やがて前方に、細長い塔とうがその姿すがたを浮かうび上がらせてきた。

「きつと、あれがコロナの塔よ」……………↓285へ

401

通路の先に短い階段があつた。それを上ると、急にどんよりとした曇りくも空が開けた。「屋上おくじょうか。しかし、ラシックはいつたどこにいるんだ?」「下からいろいろ上がつてくるわよ」

●ラエルマベリーとラコニアン・ポットがある……………↓371へ
●ラエルマベリーだけがある……………↓350へ ●どちらもない……………↓291へ



402

T字路に出た。

●西に進む……………↓381へ ●南に進む……………↓267へ

●東に進む……………↓356へ

403

モタビアからの救援機が、前庭に着陸した。

「急げ！ 煙に巻かれるとやっかいだ」

すぐにカチリという音がし、ハッチが内側から開いた。

だが、その瞬間——アリサたちは、庭の石畳に叩きつけられた。救援機の中から、異様な力が噴き出し、一行をはじめ飛び出したのだ！（戦闘Pマイナス1、HPマイナス1）

「いったい何が!？」
↓325へ

404

急降下して炎をかわすミヤウ！ アリサたちは、たてがみにしがみついた。

ゴールドドレイクの腹に、はりつくように接近した。

それぞれの武器を、柔かい腹に突き立てる！ 真っ赤な血がゴボツとあふれ出た。

効果はアリサの予想以上だった。火を発生させる器官のどこかを切り裂いたらしく、切り口から炎が噴き出したのだ！

「危ない！ 逃げろ！」急いで離れるミヤウ。

次の瞬間、ゴールドドレイクは、まるで発火した気球のようにはじけ飛んだ！

↓324へ

405

デゾリス。それは、雪と氷に閉ざされた星だった。

開拓されたばかりの星なので、まだ正規の宇宙空港はない。ハプスビーは、ただひとつ造られた植民都市スクレの近くに、ルベノ号を着陸させた。

「うう、寒い。あたし、デゾリスに来たのは初めてよ」色っぽい冬服に着替えたアリサが、ルベノ号から降りた。

「ただの氷原じゃない。ハプスビー、場所を間違えたんじゃないの？」

「はいエ。寒サヲ防グタメ、すくれハ、地下ニ造ラレテイルノデス」

ハプスビーの言うとおりであった。アリサたちは、近くにあったドーム状の入り口を見つけ、その中に入っていた。

「けっこう長いトンネルね。——げっ、あれなに？」

奥おくのほうから、青いぶよぶよした塊かたまりが飛びはねてきた。全部で6匹いる。

「ブルー・スライムだわ！ ホントにここは、スクレなの!？」

ブルー・スライム6匹 31+バトルP（1のE）

アリサたち 戦闘P+バトルP（2のI）で戦います。

●敵よりPが上……………↓217へ ●下……………↓279へ

406

タイロンたちが正面から牽制けんせいしているうちに、アリサはそつと後ろに回りこんだ。

ラシークの首が回った。

かまわず、アリサは思いっきり飛びかかった。頭めがけて、剣を振り下ろす！ 切っ先

は頭をかすめ、カブトのツノを1本折おった。

「外はずしたか！」

だが、その一撃いちげきは思った以上の効果こうかがあった。ラシークが、折られたツノを押さえて、

うずくまったのだ。

「小娘こむすめ、もう許ゆるさんぞ！」

立ち上がったその顔に、もう冷静れいせいさはなかった。

↓224へ

407

ミヤウは、パウマの超能力ちようのうりよくをアリサにかけた（マジックPマイナス3）。
 とたん、アリサは力がみなぎるのを感じた。パウマは、一時的に攻撃力を引き上げる
 ことのできる能力なのだ（戦闘Pプラス3）。

⇩369へ

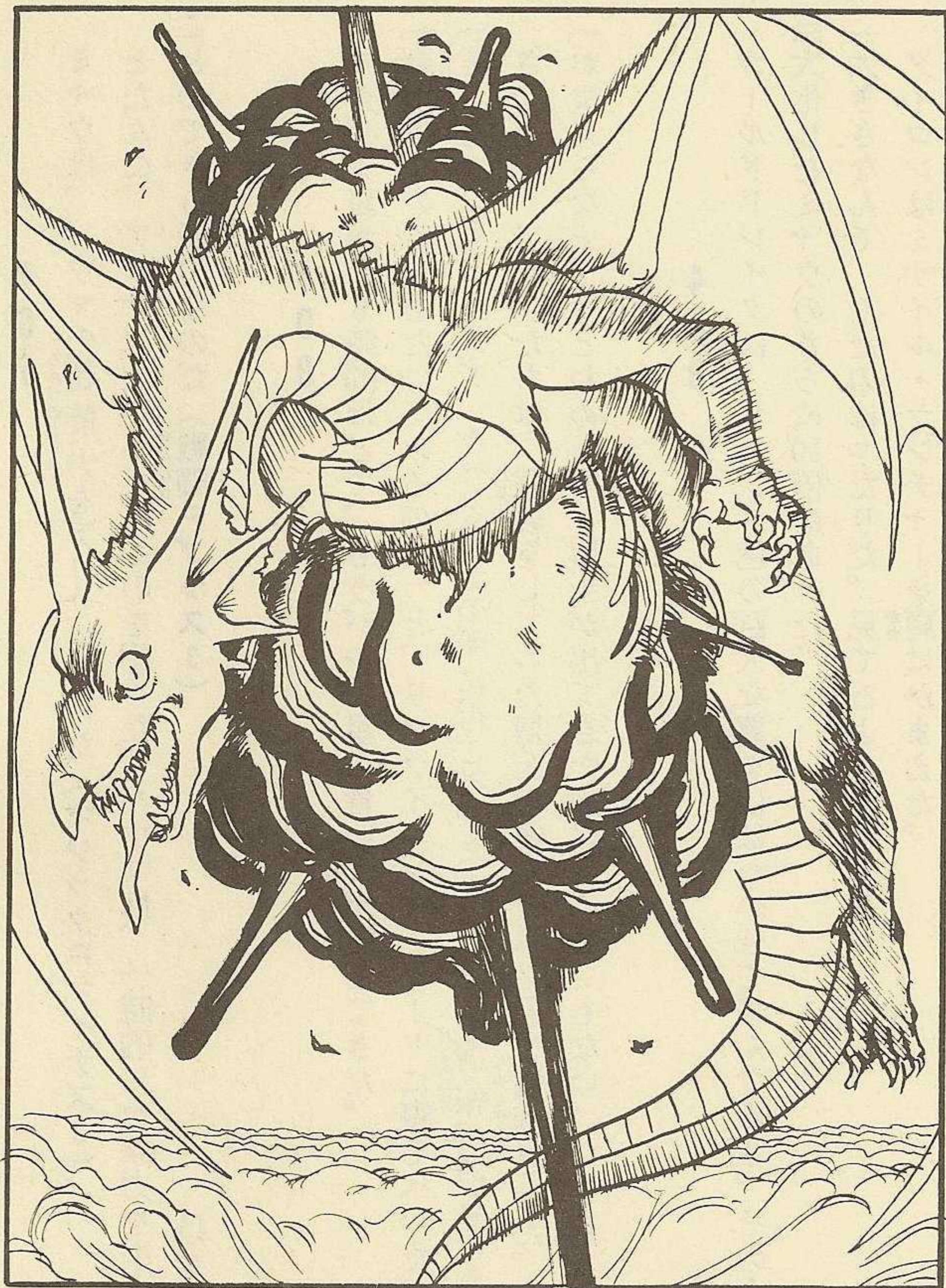
408

モタビア星から6時間ほどで、もうパルマ星の青い姿すがたが見えてきた。
 「今度は、どこをあたってみるの？」と、リクライニング・シートに寝そべったアリサ。
 「そうだな。とりあえず、ルベノ博士の所に行こう。また、なにか情報じようほうがあるかもしれん」
 さつそく、アリサたちは、昼寝ひるねをしていた博士の家にルベノ号を着陸ちやくりくさせた。
 「おまえらなあ！」とわめいて、博士が出てきたのは言うまでもない。

⇩207へ

409

ゴールドドレイクは、オレンジ色の巨大な翼つばさをはばたかせて飛んでくる。その全長は、
 巨大化したミヤウのさらに10倍はあった。
 「大ききなんて、ただのはったりだ。見てろよ！」
 タイロンはミサイル・ランチャーを肩かたにかまえた。



409●タイロンの^{はつしや}発射したミサイルは、ゴールドドレイクのどて
ばら^{さくれつ}っ腹で炸裂した！ さしもの^{きよりゆう}巨竜も1発でおしまいだ。

ゴールドドレイクが炎を吐いて威嚇した。

「バカめ！ このミサイルは熱源を追いかけらるんだぜ」

タイロンの言うとおりであった。発射されたミサイルは、まるで生きているような飛翔を見せ、ゴールドドレイクのどてっ腹で炸裂した！

肉片をまき散らかしながら、巨竜は落下していく。

「やったあ！」と手を叩くアリサ。

「やれやれ、最後の獲物があんなに大物になったと知ったら、あのハンターのおっさんも喜ぶぜ」

タイロンはそう言っつて、もうミサイルのなくなったランチャーを放り投げた（ミサイルランチャーを失う。アイテムリストから消すこと）。

⇩ 324 へ

410

こうなつては、ダークファルスの思うがままだった。

まったく抵抗のできないアリサたちに、『混沌の魔王』はゆっくりと近づいてきた。

へこれから、おまえたちをわがしもべに改造する。そして、ラシークのかわりに、この世界を制覇する先兵となるのだ。

それは、殺されるよりも屈辱的なことだ。

だが、今のアリサには、「ノー！」と叫ぶことさえできなかつた。

END

411

一行は塔の下にたどり着いた。

「悪趣味！ 壁中、へビの彫刻が入っているわ」

アリサが細い塔を見上げてつぶやく。

中に入った彼女たちが、T字路にさしかかった時、突然、後方にシャッターが落ちた。

「ふふふ、ここはメデューサの塔じゃ！ 死にに來たか、バカ者どもが！」女の不気味

な声が、どこからともなく聞こえてきた。

「間違いない、あれはあの化け物の声だ」

タイロンの言う化け物とは、もちろんメデューサのことだった。勇者が負けた唯一の怪

物、メデューサ。

「行こう！ 探し出して今度こそ殺してやる」

●北に進む ↓ 2 3 4 へ ●南に進む ↓ 2 6 1 へ

412

アリサたちの前に、巨大な竜りゆうが立ちふさがった。ドラゴンワイズ以上に凶暴きようぼうといわれる、フロストドラゴンだ！

フロストドラゴン 48+バトルP (1のB)

アリサたち 戦闘P+バトルP (2のF) で戦います。

●敵よりPが上 …………… ↓370へ ●下 …………… ↓396へ

413

ダメージが大きく、アリサたちはまともに動くことすらできなかつた。

「言ったとおりになつたらう。人間というのは、あっさりと死んでしまうものなのだよ」

「そ、そんなバカな……」

そう言うアリサの背せを、アイスマンの巨大な足が踏ふみつけた。

END

414

いきなり、ラシークの杖つえが電光でんこうを発した。

その攻撃こうげきからは、だれも逃のがれることはできなかつた。アリサ、タイロンはもとより、身

の軽いミヤウ、風のように動けるルツでさえ電光を受け、床に倒れた。

「今のは、ほんの小手調べだぞ」

ラシークはそう言つて、足を1歩踏み出した。

●マジックPが3以上……………↓338へ ●2以下……………↓305へ

415

「待て！ この先を通すわけにはいかん。親衛隊の名にかけて、ここでキサマを殺す！」

アリサたちの前に、金色のヨロイに身を包んだ半人半馬が現われた。キングセイバー。

親衛隊の中でも、相当、位が高そうなヤツだ。

ヤツは、すらりと剣を抜いた。

キングセイバー 47 + バトルP (1のF)

アリサたち 戦闘P + バトルP (2のA) で戦います。

●敵よりPが上……………↓344へ ●下……………↓384へ

416

ルツは、死者をよみがえらせるリーバスの呪文を唱えた(マジックPマイナス5)。

「ん……あれ？ あたし、生き返っちゃったの？」起き上がったアリサが背のびをした。

「あのな、主人公がオレたちを残して死んでどうするんだよ」とタイロン。
 「あの場合、仕方ないでしょ。——あれ、宝箱があるわ。お金と剣が入っている」(ラコニアン・ソードを入手し、戦闘プラス5。プラス2000メセタ)
 「それは、ラコニア製の剣ですね。そんなすごい物を手に入れた以上、長居は無用のようだ」ルツが言った。

↓17へ

417

アリサたちはT字路に出た。

●東に進む……………↓376へ ●北に進む……………↓397へ
 ●西に進む……………↓368へ

418

モタビアからの救援機が前庭に着陸した。
 「待つて！」駆け寄ろうとする一行をアリサが止めた。
 「どうしたんだ？ モタビアの情報部がいろいろ探っているって、総督が言っていたろう。ここの位置がわかったって不思議なことじゃない」
 「そんなことじゃないわ」

アリサは、得体えたいの知れしない不安ふあんを口に出せなかつた。ただ、頭にこびりついているのは、モタビア総督の顔にあつた火傷やけどの跡あと……。
救援機きゆうえんきのハッチが、ゆっくりと開いた。
↓325へ

419

「とにかく、もう一度攻撃よ！」

ダークファルス 56 + バトルP (1の1)

アリサたち 戦闘P + バトルP (2のB) で戦います。

●敵よりPが上 …………… ↓346へ ●下 …………… ↓398へ

420

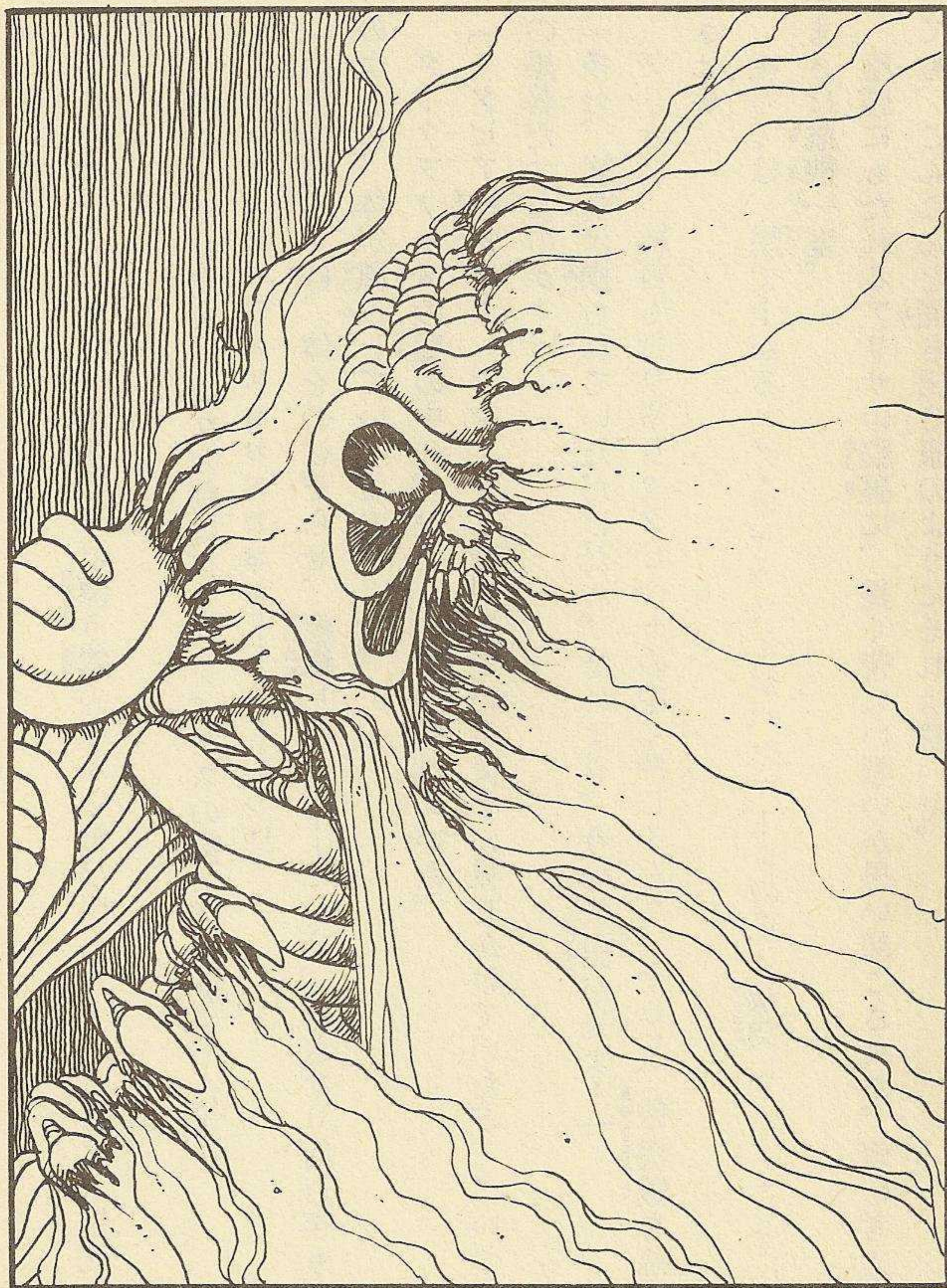
タイロンとルツが、ダークファルスの左右から攻めた！

『混沌こんとんの魔王まおう』のパワーはすさまじく、歴戦れきせんの勇者ゆうしやと超人ちようじんを相手にして、それぞれ片手で互角ごかく以上の戦いを見せていた。

さらに、ミヤウが後ろから飛びかかろうが、まったく気にしないという余裕よゆう！

ダークファルスは、唸りうな声をあげると、この3人を一気にね飛ばした。

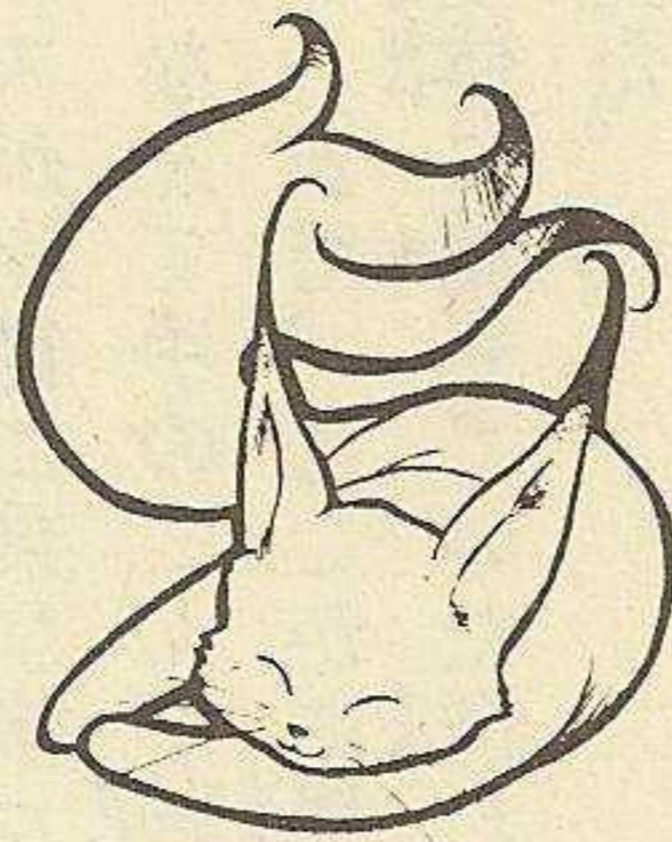
へむ、あの娘むすめはどこにいった!?



420●「こんとん混沌のまおう魔王」は、まるで何百年もたったかのように、ふうか風化
していった。アリサはついに兄のかたき敵をとったのだ！

兄さん……。そうつぶやくと、アリスは深い眠りに落ちた。

HAPPY END (◇エピソード)に続きます)



エピソード

「おお、みんな済まなかつたな……。わしの心と体は、どうやら悪しき魔力に犯されていたらしい……」

地上——バヤマーレの丘で、目を覚ましたモタビア総督が言った。

「それにしても、ダークファルスが総督に乗り移つてあやつり、さらにそこからラシークをあやつつていたなんて……。なんて手のこんだ計画だったの」

「本当に終わったんだらうな？ まだ、どこかに黒幕が隠れているなんてことは？」

「それはだいじょうぶ。惑星全体に満ちていた怪しげな気配は、もう完全に消えました」
タイロンの疑問に、ルツが答えた。

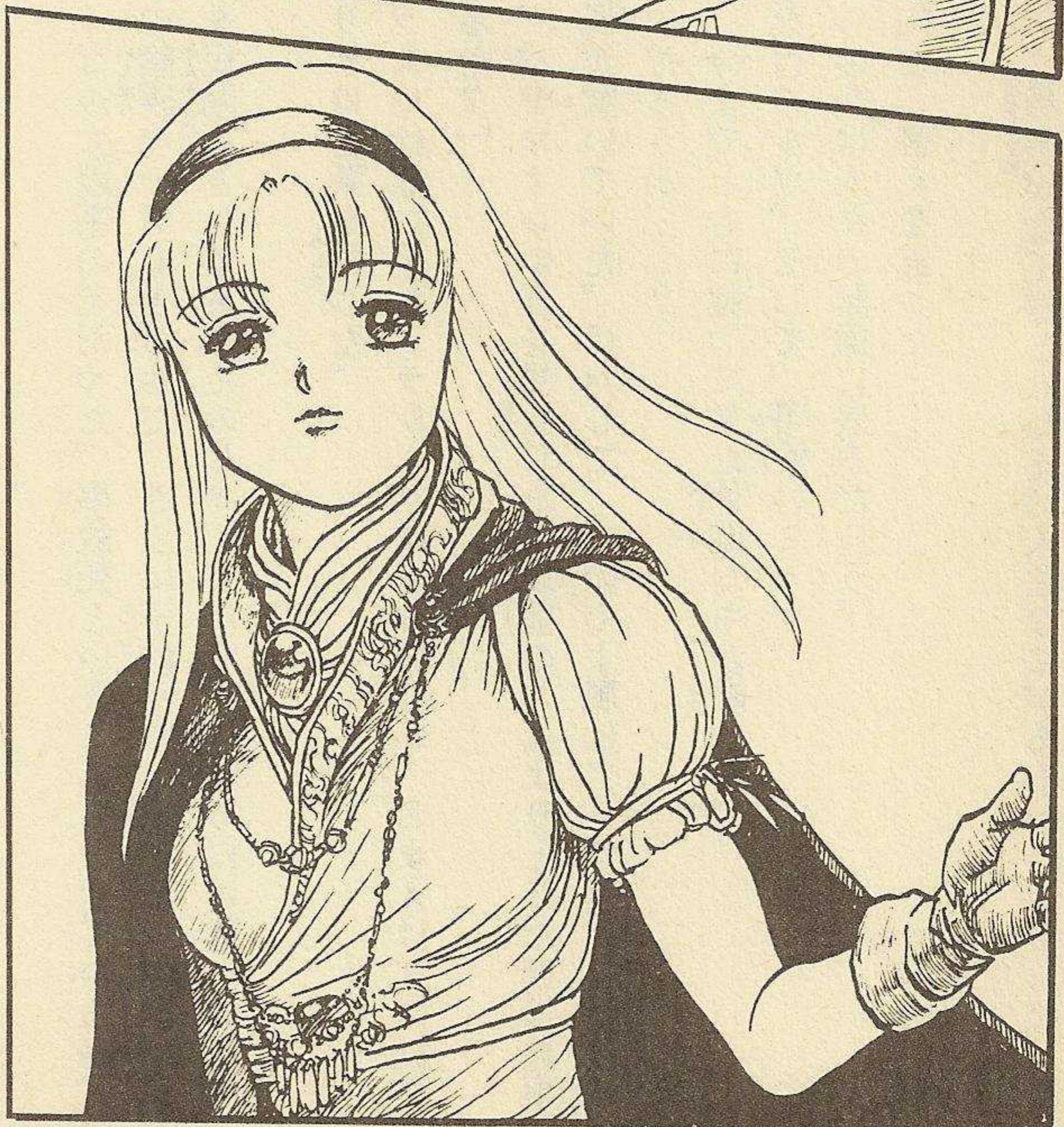
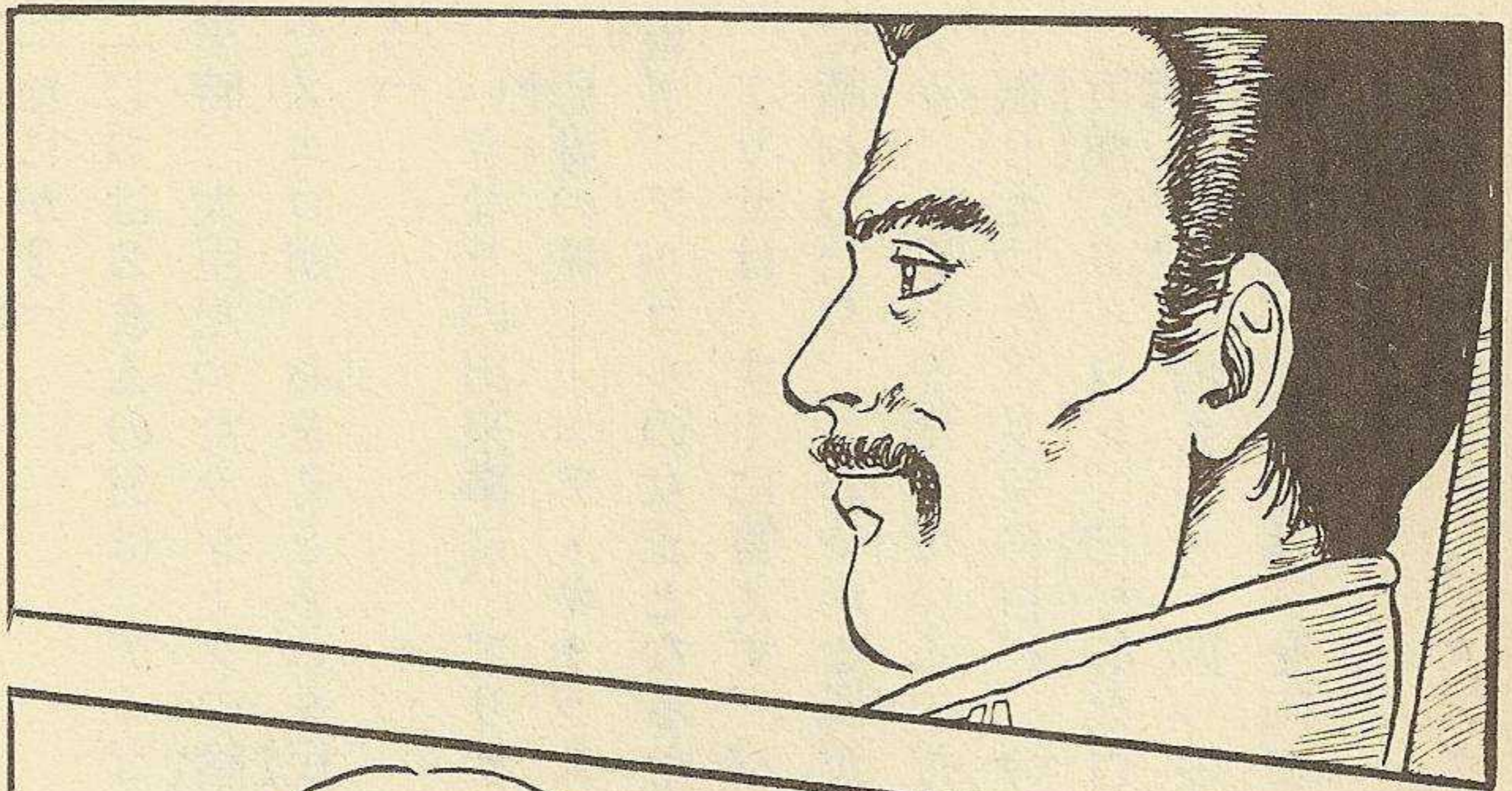
「思いかえすだけで、背筋が寒くなってくる。わしの体の中に、あんな怪物がいたとはな。まるで気がつかなくつた。恐ろしいヤツ……。よくぞ、ダークファルスを退治してくれた。もう少し遅かつたら、大変なことになつていただらう。心から礼を言うぞ」

「これは、あたし自身のためにもやつたことです。殺された兄さんの敵を討つために……。でも、ラシークも、『混沌』の怪物にあやつられていただけなんですな」

アリサの目に涙が光つた。

「アリサよ。——おまえに話したいことがある」総督が、ゆっくりと起き上がった。

エピローグ



「なにか？」

「じつはおまえの父は、アルゴル太陽系の王だった。事故死じこしということになっていて、当時、大臣だったラシークの陰謀いんぼうなのはあきらかだ。さらに子供こどもたちも狙ねらわれるのを恐れたスエロが、おまえとネロを民間人みんかんじんとして育てたのじゃ。だから、仇討あだうちには違いなかるう」

いきなりの出来事に、アリサは言葉を失うしなった。

「悪魔あくまの城——エア・キャツスルは地に落ち、ラシークはもういない。おまえは父の後を継つぎ、アルゴルの女王となるか？」

アリサは、すぐに答えず、バヤマールレの丘を見渡みわたした。以前のどんよりとした空は見事に晴れわたり、さわやかな風が吹ふいていた。はたして、このそよ風はアリサたちの長く苦しかった戦いを知っているのだろうか……？

振り返ったアリサの目に、今までともに戦ってきた仲間なかまたちが映うつった。

巨漢きょかんのタイロン。神秘的な目しんぴてきのルツ。そして、可愛かわいいミヤウ。闇やみの記憶きおくが消えても、彼らの名は人々の記憶に残るだろう。

アリサは、総督のほうを向き、答えを言った……。

「それにしても、あのジャジャ馬娘うまむすめが女王様とはねえ。人生なにかあるかわからんな、ル

エピローグ

ツの旦那だんな」

「わたしは、秘ひそかにそうではないかと思っただけです。あの娘この目は、女王の目だ」
「はん？ ウソだろ」

「本当ですよ。もつとも、あのアリサさんが、王宮おうきゆうの中でおとなしくしているはずがないというタイロンの意見には賛成さんせいです」

「そうだろ。そう思って、オレはひとつ手を打っておいたんだ」

朝のけだるい日差しの中で、アリサは目を覚さました。ベッドも寝室しんしつも、前に使っていたものより大きく、はるかに立派りっぱだった。いや、それどころではない。兄と暮くらしていた家に比べれば、この王宮は別世界と行って良かった。

(でも、なにか物足りない)

アリサの枕元まくらもとで、ガサリと音がした。小さな動物が窓を開けて、飛びこんできたのだ。
「ミヤウ！ どうしたの？ え、この手紙を見ろって？」

その手紙は、未開みかいの星デゾリスに探検たんけんに行くというタイロンの手紙だった。出発時間は、今日の8時。場所は、ルベノ博士の家。

「もう！ あと2時間しかないじゃないの！ 待ってて、今ここを抜ぬけ出すから」
アリサは、勢いきおいよくベッドから飛び出した。

行動記録紙

バトルポイント表(バトルP)

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
1										
2										

戦闘ポイント(戦闘P)

0▶

ヒットポイント(HP)

10▶

マジックポイント(マジックP)

○▶

お金(メセタ)

○▶

アイテムリスト

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

アルファベット・チェック

A	B	C	D	E	F	G	H	I	J

あとがき

主人公アリサのキャラクターづくりには苦勞しました。なんといつても前の仕事が『桃太郎電鉄』でしたからねえ。「アリサどの、敵を倒して、ウハウハ50メセタいただきですよ。ハツハツのハ」とタイロンは言った「あやうく、こう書くところだった。結果的には、かなりのジャジャ馬娘になりましたが、それはそれで可愛いものです。

うーむ、どうも頭の切り替えがうまくいかん。『桃太郎伝説』（ギャグ）、『イース』（シリアス）、『桃太郎電鉄』（ギャグ）と書き続けてきて、少々頭が混乱しております。この『フアンタシースター』は、シリアス90パーセント、ギャグ10パーセントというところでしょうか。

もともとの話は、セガのTVゲームが土台になっています。ロボット、宇宙船、レーザーガンが登場する一方、竜や魔法使いも出てくる楽しいRPG。地下迷宮のアニメーション画面、特にエンディングなんかは感動ものでした。

SFとヒロイック・ファンタジー（剣と魔法ものね）が合体したところなどは、まさに私好み、機会があれば、小説にもしたいですね。

こんな風に科学と魔法がごっちゃになっている話は、私の知っているだけでもいくつもあります。F・セイバー・ヘーゲンというアメリカの作家の書いた『西の反逆者』には、核

あとがき

戦争後、荒廃し魔法が復活した世界に、〈象〉という名の戦車が走りまわります。P・アンダースンの『大魔王作戦』には、ジェットエンジンの代わりにホウキをつけた戦闘機が登場します。

L・ニーヴンの『ガラスの短剣』『魔法の国が消えていく』といったウォーロック・シリーズは、剣と魔法の世界に科学的なルールを持ちこんで成功した作品です。ゲームのジャンルに与えた影響も大きく、ウォーロックという名を聞いたことのあるゲームファンも多いのではないのでしょうか？ また、本書にも登場した『混沌』のイメージは、M・ムアコックのエターナル・チャンピオン・シリーズ（「エレコーゼ・サーガ」とか「エルリック・サーガ」とかいろいろあります）から取りました。いずれも、中高校生くらいから読めますので、機会があれば手に取ってみてください。

さて、壮大なスケールの『ファンタシースター』ですが、この春にはその続編がメガドライブ用として発売されます。今度はグラフィック（なんと戦闘時に敵味方キャラとも動くとか）も、ストーリーもさらにパワーアップされるそうで、今から楽しみですよ。（私はまだメガドライブ持っていないけど……）

最後に。青木・クニヌーヌ・邦夫さん、すてきなアリサを描いてくれてありがとう。続編やる時は、またよろしくお願いしますよ。

※大出光貴 1961年、北海道富良野市生まれ。血液型B、さそり座だよーん。

クイズに答えてメガドライブをもらおう！

セガから読者プレゼント

セガ・メガドライブ

ファンタシースターIIのカセット
をセットで2名様に。

クイズ

- ①、ミヤウを売っていたのは、黒髪くろかみのクニヌーヌ？ それも金髪きんぱつのクニヌーヌ？
- ②、タイロンがみつかったのは、メデューサーの洞窟どうくつ？ それともメデューサーの塔とう？
- ③、ルツの師匠ししやうの名前は？
- ④、最後の敵の名前は？

応募方法

官製はがきにクイズの答と、あなたの①氏名②住所③年齢④電話番号をはっきり書いて、〒112 東京都文京区小石川郵便局私書箱50号 双葉社ゲームブックPS係まで、お送り下さい。

締切

5月31日（当日消印有効）

抽選方法

クイズ正解者の中から抽選で2名の方にプレゼントします。なお当選者の発表は賞品の発送をもってかえさせていただきます。

編集部から

三惑星^{わくせい}をめぐるつての戦い、『ファンタジースター』はいかがでしたか？

キミは無事^{ぶじ}、兄の敵^{かたき}を討ち^う、アルゴル太陽系^{たいようけい}に平和をもたらすことができたでしょうか？

当編集部では、今後ともゲームを素材^{そざい}にしたゲームブックを、次々と発表していく予定です。

つきましては、すでに発表しております「ゲームブックシリーズ」を含め^{ふく}、当シリーズに対する御意見、御感想をお寄せ^よいただければ幸いです。また、これからゲームブックにして欲しいゲームの希望などもお待ちしております。

〒162 東京都新宿区東五軒町3番28号(株)双葉社CTR「冒険ゲームブック」編集部
ファンタジースター係まで、あなたの御氏名、御住所、御年令、感想を書いていただいた本のタイトルを明記^{めいき}の上、お寄せ下さい。

お寄せいただいた方の中から抽選^{ちゆうせん}で、ゲームブックの最新刊をプレゼントいたします。

企画・構成／スタジオ・ハード

制作／大内めぐみ

文／大出光貴

作画／青木邦夫

©セガ・エンタープライゼス

ファンタシースター

アリサの冒険

双葉文庫

冒険ゲームブックシリーズ す 02-47

著者 大出光貴

制作 スタジオ・ハード

発行者 清水文人

発行所 株式会社双葉社

〒162 東京都新宿区東五軒町3番28号

TEL 東京(268)5111 (代表)

振替 東京8-117299

印刷 大日本印刷株式会社

©FUTABASHA1989©Mitsutaka Ode/ST・HARD 1989 Printed in Japan

ISBN4-575-76096-X C0193 (落丁・乱丁はお取りかえいたします)

定価・発行日はカバーに表示してあります

ファンタシースター

アリサの冒険

ストーリー



アルゴル太陽系に重大な危機が^{きき}せまっていた。国王ラシークが、アルゴルを^{じやく}邪教の者に売り渡してしまったのだ。それぞれの惑星に現われた怪物たちは、人々を^{おそ}襲いはじめた！

アリサは、パルマ星に住む15歳の女の子。兄のネロとふたりで平和に暮らしていた。ところがある日、兄が殺されてしまった！ 国王の^{ひみつ}秘密をさぐっていたネロは、その部下にやられてしまったのだ。

「兄さんのかたきは、あたしが^う討つ！」

だが、旅に出たアリサを待っていたのは、想像を絶する運命だった……。

SFファンタジーRPGの傑作が、ついにゲームブックになった！